

1. 科目名 (単位数)	アジア文化論 (2単位)		3. 科目番号	GELA1337
2. 授業担当教員	越野 香子			
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	全学部・全学年対象科目			
7. 講義概要	21世紀はアジアの時代ともいわれ、アジア諸国とその文化に注目が集まっている。アジア文化圏は、アセアンに代表される東南アジア諸国から、中央アジアや西アジアまでを含む広大な範囲を含んでいる。本講義では、まず世界におけるアジア文化圏の位置づけを考える。次に、現在注目を集めている東南アジア諸国連合(ASEAN)を中心に様々なアジア文化の特色を考察していく。また興味のあるアジア文化について調べ、個人ごとまたはグループごとで調査内容を発表することとする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の様々な文化圏の中のアジア文化圏の位置づけと特色について理解し説明できる。 2. アジア文化圏の中の東南アジア文化圏の位置づけと特色を理解し説明できる。 3. 東南アジア文化圏以外の多様なアジア文化について理解し説明できる。 4. 興味のあるアジア文化の特色について調査を実施し異文化理解と自文化理解を深めることができる。 			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習と事後学習課題については、初回の講義で説明する。 2. 全てのグループが発表を割り当てられ、その準備に向けて出される課題も評価の対象とする。 3. その他の課題については、講義中に適宜説明する。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 池上彰著『池上彰の世界の見方：東南アジア』小学館、2019。 【参考書】 随時、授業で言及する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準(学習目標) <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の様々な文化圏の中のアジア文化圏の位置づけと特色について理解し説明できる。 2. アジア文化圏の中の東南アジア文化圏の位置づけと特色を理解し説明できる。 3. 東南アジア文化圏以外の多様なアジア文化について理解し説明できる。 4. 興味のあるアジア文化の特色について調査を実施し異文化理解と自文化理解を深めることができる。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加態度 総合点の 30% 2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30% 3 提出課題 (レポート等) 総合点の 40% 			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。 2. iphone, smartphone, 携帯電話, その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんの中にしまうこと。 3. 本学規定により、3/4 (4回) 以上欠席すると単位の修得が認められないので留意しておくこと (遅延については、遅延証明書を当日又は次回講義までに担当教員に提出すること。遅延の累計回数が多い場合、遅延を認めない場合もあるため、注意すること)。 4. 成績総合評価の内、授業での積極的参加は比重が大きいため、分からないことは積極的に質問し、ディスカッションにも意欲を持って臨むことを勧める。 5. 不正行為への対応等について、本学は、「東京福祉大学・短期大学部 研究活動における不正行為への対応等に関する規程」を平成 26 年 12 月 4 日に制定しています。詳しくは、本学ホームページの大学紹介・研究活動のところを参照してください。文部科学省のガイドラインでは、「学生に対する研究倫理教育」を行うことが要請されているので、皆さんは、大学で自分の学習成果をレポートにしたり発表したりしていくうえで倫理、つまり、守らなければならない事があります。不正行為としては、1. 捏造(ねつぞう)、2. 改ざん、3. 盗用があります。不正行為については、適宜、処置がなされるので、これらについて十分に注意をして、勉学に臨んでください。 			
13. オフィスアワー	初回授業時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	アジア文化圏の国々の世界での位置づけ。多様な「アジア」の国々・文化について	事前学習	アジア文化圏を構成する国々について各自調べておく。	
		事後学習	講義で説明されたグループ発表について重要事項を確認しながら、形成されたグループで、担当する国について調査を始める。	
第2回	日本と ASEAN の歴史的関係	事前学習	テキスト pp. 14~47 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。	
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。	
第3回	戦後の日本の経済成長と ASEAN との関係	事前学習	テキスト pp. 47~61 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。	
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。	
第4回	ベトナム南北分断の歴史的背景	事前学習	テキスト pp. 64~77 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。	

		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う
第5回	ASEAN は共産主義への防波堤？	事前学習	テキスト pp. 77~102 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第6回	シンガポールとマレーシアの関係	事前学習	テキスト pp. 104~120 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第7回	マレーシアと Look East 政策	事前学習	テキスト pp. 120~125 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第8回	インドネシアと東インド会社	事前学習	テキスト pp. 128~146 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第9回	スカルノ大統領とスハルト大統領	事前学習	テキスト pp. 146~162 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第10回	タイの歴史と社会性	事前学習	テキスト pp. 164~179 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第11回	フィリピンの魅力	事前学習	テキスト pp. 179~192 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第12回	ドゥエルテ大統領とフィリピン	事前学習	テキスト pp. 179~192 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	まとめプリントで授業の振り返りを行う。
第13回	カンボジアの歴史	事前学習	テキスト pp. 194~210 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第14回	ミャンマーの歴史と社会	事前学習	テキスト pp. 210~221 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。
		事後学習	発表担当グループから配布資料を基に、授業の振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。
第15回	ロヒンギャと国際社会	事前学習	テキスト pp. 221~225 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく
		事後学習	アジア圏内の国家間の交流について分析し、今後の傾向と動向について考える。

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語Ⅱ (外国語活動) (2単位)		3. 科目番号	GECM1312
2. 授業担当教員	黒岩 好子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	アメリカの文化と言語Ⅰのクラスで学んだアメリカの文化と言語に関する知識の幅を広げ、アクティブラーニングを取り入れ、楽しく外国語活動を行い使える力へと高める。まず、活動型の授業形態をとり、活動に伴う会話力の技能を、様々な日常生活の場面に応じて基本的なレベルから、より高いレベルへと向上させる。また、コミュニケーション力や人間関係能力を高めるための基本的な表現力を身につける。アメリカの文化を学びながら自国の文化と比較することで、様々な文化を尊重できる素地を養う。			
8. 学習目標	1) 様々な日常生活に必要な活動に応じた教材を適宜使用しながら、英語(表現力)の技能を高め、実生活で外国語を使える力を育成する。 2) 1)を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解する。 3) アメリカの文化事情について多角的に考察を深める。 4) アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成する。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	1. 主体的に学習する上で基礎となる事前学習・事後学習を各自十分に行うこと。 2. 期末レポートのテーマは、「授業を通して発見したコミュニケーションの相違と異文化理解について」とする。A4用紙に1000字程度で記載し、第15回目の授業時に提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Paul Stapleton 『How Culture Affects Communication 英米人の考え方、日本人の考え方』金星堂、2006。 別途プリント教材も使用する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	●成績評価の基準(学習目標) 1. 様々な教材を適宜使用しながら、英語の4技能をバランスよく育成することができたか。 2. 1.)を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解することができたか。 3. アメリカの文化事情について多角的に考察を深めることができたか。 4. アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成することができたか。 ●評定の方法 試験・レポート:30% 小テスト・発表・スピーチ等:25% 課題(長期休暇課題・レポート等):20% 受講態度等:25%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 英語力やコミュニケーション力を高めるうえで重要なことは、勇気を持ってチャレンジしていく強い精神です。受身的姿勢はリセットし、積極的かつ意欲的に授業に参加することを望みます。 2. 各授業の予習・復習は必ずやること。その際、疑問に思ったことはそのままにせず解決に努めること。 3. 小テストは全て受けること。また長期休暇課題や期末のレポート提出日は厳守すること。 4. 実践に即した英語表現力向上を目指したプリント教材も併用するが、音読を重ね記憶に定着するよう努めること。 5. 「授業中の私語・居眠り・携帯/スマホの使用、頻繁な遅刻、教科書を忘れる」を禁ずる。それに反した場合は上記「11. 成績評価規準の受講態度等」評価点の減点対象とする。 6. クラス状況に応じ、内容や順番を調整・変更する場合がある。			
13. オフィスアワー	初回授業時に周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション: シラバスの確認、授業概要、及び自己紹介	事前学習	教科書を購入し、「はじめに」「目次」及び「授業で取り上げるUnit」に目を通し内容を確認しておく。	
		事後学習	本授業を受講するにあたっての留意点を振り返り、英語学習の目標設定と自分に適した学習方法を確認しておく。	
第2回	Unit 1: Age, Status, and Family	事前学習	1. Unit 1 (pp. 1~4)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 1 本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。	
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 1 本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。	
第3回	Unit 2: Politeness	事前学習	1. Unit 2 (pp. 5~8)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 2 本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。	
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 2 本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。	
第4回	Unit 3: Feedback	事前学習	1. Unit 3 (pp. 9~12)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 3 本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。	
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 3 本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。	

第5回	Unit 4: Rituals 小テスト#1	事前学習	1. Unit 4 (pp.13~16)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 4本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。3. 小テスト#1 (Unit 1、2 &3 及びプリント教材)の準備をする。
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 4本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。
第6回	Unit 5: Titles	事前学習	1. Unit 5 (pp.17~20)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 5本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 5本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。
第7回	Unit 6: Modesty	事前学習	1. Unit 6 (pp.21~24)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 6本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 6本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。
第8回	Unit 7: Heart-to-Heart Communication 小テスト#2	事前学習	1. Unit 7 (pp.25~28)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 7本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。3. 小テスト#2 (Unit 4、5 &6 及びプリント教材)の準備をする。
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 7本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。
第9回	Unit 8: Face-to-Face communication	事前学習	1. Unit 8 (pp.29~32)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 8本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 8本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。
第10回	Unit 12: Comparing 長期休暇課題について	事前学習	1. Unit 12 (pp.45~48)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 12本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 12本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。3. 長期休暇課題レポートの準備に着手する。
第11回	長期休暇課題の提出及び発表 小テスト#3	事前学習	1. 長期休暇課題レポートを完了する。2. 発表するための練習をする。3. 小テスト#3 (Unit 7、8 &12 及びプリント教材)の準備をする。
		事後学習	自身の発表を振り返り、表現力を更に高めるための改善点を考えてみる。
第12回	Unit 13: Politically Correct Language 外国語活動の発表及び 期末レポートについて	事前学習	1. Unit 13 (pp.49~52)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 13本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 13本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。
第13回	Unit: 16 Reflections of Language and Culture	事前学習	1. Unit 16 (pp.61~64)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. Unit 16本文の概要及びそれに対する自分の意見・疑問点をノートにまとめておく。
		事後学習	1. 授業で取り扱った内容を再確認し、要点をまとめ直す。2. Unit 16本文の意味をよく理解しながら音読を繰り返す。
第14回	外国語活動の発表	事前学習	英語の原稿を見ずに発表ができるようになるまで練習を重ねておく。
		事後学習	自身の発表を振り返り、英語表現力を更に高めるための改善点を考えてみる。
第15回	本授業のまとめ、ディスカッション 期末レポート提出	事前学習	1. 期末レポート(9.-2参照)を完了する。2. 初回授業時に設定した自分の学習目標に対する達成度を査定してみる。
		事後学習	本授業で使用した教科書、プリント教材及びノートなどに再度目を通し、自己分析をしながら英語力の更なる向上を目指し自律的学習の習慣化計画を立てる。

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語Ⅱ (外国語活動) (2単位)	3. 科目番号	GECM1312
2. 授業担当教員	カテリーナ ステブリュク		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	アメリカの文化と言語Ⅰ		
7. 講義概要	アメリカの文化と言語Ⅰのクラスで学んだアメリカの文化と言語に関する知識の幅を広げ、アクティブラーニングを取り入れ、楽しく外国語活動を行い使える力へと高める。まず、活動型の授業形態をとり、活動に伴う会話力の技能を、様々な日常生活の場面に応じて基本的なレベルから、より高いレベルへと向上させる。また、コミュニケーション力や人間関係能力を高めるための基本的な表現力を身につける。アメリカの文化を学びながら自国の文化と比較することで、様々な文化を尊重できる素地を養う。		
8. 学習目標	1) 様々な日常生活に必要な活動に応じた教材を適宜使用しながら、英語(表現力)の技能を高め、実生活で外国語を使える力を育成する。 2) 1)を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解する。 3) アメリカの文化事情について多角的に考察を深める。 4) アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成する。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	Students will be asked to reflect on current themes in their portfolio. They may also include notes of unfamiliar words and phrases. A final report must be submitted (along with the portfolio) the last day of class. Students are expected to participate in class. Participation includes being attentive and contributing during class discussions. All assignments are due on the day posted on the board. Late work will be docked points unless student has made prior arrangements.		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Title: The USA Author: Alison Baxter Publisher: Oxford University Press 【参考書】 Title: American Life Title: English File Third Edition Author: Vicky Shipton Author: Christina Latham-Koenig Publisher: Pearson Education Publisher: Oxford University Press		
11. 成績評価の規準と評定の方法	●成績評価の基準(学習目標) 1. 様々な教材を適宜使用しながら、英語の4技能をバランスよく育成することができたか。 2. 1.)を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解することができたか。 3. アメリカの文化事情について多角的に考察を深めることができたか。 4. アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成することができたか。 ●評定の方法 試験・レポート: 30% 小テスト・発表・スピーチ等: 25% 課題(長期休暇課題・レポート等): 20% 受講態度等: 25%		
12. 受講生へのメッセージ	Welcome to American Culture and Language Class. The USA is a home of the movie industry, baseball, technology giants, and some of the world's most famous civil rights leaders. There are American things around us all the time – food, music, books, and films. But what is the United States, and how did it become the country it is today? Why did it go to war against Britain – and then against itself? What is life like in America today? Come and find out about America's history, its people, music, food, cities and its wild places.		
13. オフィスアワー	To be announced on the first day in class. Remember that I am here to help your learning in any way I can. Please contact me as soon as possible when you have questions. E-mail: stkatery@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction of the course American Life: U.S. Facts Warm-up quiz	事前学習	Introduction of the course.
		事後学習	Warm-up quiz. Discussion.
第2回	American Life: U.S. Facts Chapter 10: Living in the USA (1)	事前学習	Review; speaking about U.S. facts
		事後学習	Reading Chapter 10 While reading activities Discussion
第3回	American Life: U.S. Facts Chapter 10: Living in the USA (2)	事前学習	Review; speaking about U.S. facts
		事後学習	Reading Chapter 10 After reading activities Discussion
第4回	American Life: U.S. Facts Chapter 11: Eating and drinking the American way	事前学習	Review Chapter 10; speaking about U.S. facts

		事後学習	Reading Chapter 11 While reading and After reading activities Discussion
第 5 回	Quiz 1 American Life: U.S. Facts Practical English	事前学習	Review Written quiz.
		事後学習	Conversation “Asking the way” Role play
第 6 回	American Life: U.S. Facts Chapter 12: Music from America	事前学習	Review; speaking about U.S. facts
		事後学習	Reading Chapter 12 While reading and After reading activities Discussion
第 7 回	American Life: U.S. Facts Chapter 13: Some great American cities	事前学習	Review Chapter 12; speaking about U.S. facts
		事後学習	Reading Chapter 13 While reading and After reading activities Discussion
第 8 回	American Life: U.S. Facts Chapter 14: California	事前学習	Review Chapter 13; speaking about U.S. facts
		事後学習	Reading Chapter 14 While reading and After reading activities Discussion
第 9 回	Quiz 2 American Life: U.S. Facts Practical English	事前学習	Review Written quiz.
		事後学習	Conversation “Ordering a meal” Role play
第 1 0 回	American Life: U.S. Facts Chapter 15: Beautiful places to visit (1)	事前学習	Review; speaking about U.S. facts
		事後学習	Reading Chapter 15 While reading activities Discussion
第 1 1 回	American Life: U.S. Facts Chapter 15: Beautiful places to visit (2)	事前学習	Review; speaking about U.S. facts
		事後学習	Reading Chapter 15 After reading activities Discussion
第 1 2 回	American Life: U.S. Facts Chapter 16: Hot and cold, big and small	事前学習	Review Chapter 15; speaking about U.S. facts
		事後学習	Reading Chapter 16 While reading and After reading activities Discussion
第 1 3 回	Quiz 3 American Life: U.S. Facts Practical English	事前学習	Review Written quiz
		事後学習	Conversation “Getting to the airport” Role play
第 1 4 回	Group Presentation by students	事前学習	Speaking about U.S. facts
		事後学習	Presentation
第 1 5 回	Review of American Culture and Language (Extra presentation Day) Submission of final report and portfolio	事前学習	Prepare for submission of portfolio and final report
		事後学習	Review American Culture and Language you learned in class

1. 科目名 (単位数)	介護概論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2309 SSMP2109 SCMP2309 PSMP2409
2. 授業担当教員	鄭 春姫		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講座は、高齢者福祉論との関連において、介護が必要な高齢者に対する支援を中心に進めていく。 高齢者の特性と生活について理解を深めたいうえで、生活支援の在り方を考え、介護の実践では、自立への支援、尊厳ある介護の理解を学習し、介護実践の基本を理解できるように授業を進めていく。特に根拠を持った介護実践が行えるように、介護過程と介護実技を学習して理解を深めていく。また、今後増加する認知症高齢者や精神的支援が必要な高齢者の介護についても授業を行なう。</p>		
8. 学習目標	<p>介護概論が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性からくる生活障害や、介護が必要となる状況を理解でき、快適な生活環境を考えることができる。 2. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、介護の今日的課題について考えることができる。 3. 高齢者を支援する専門職の役割の理解と専門職間の連携の在り方を考えることができる。 4. 介護の概念、理念と対象について理解でき、社会福祉士など専門職としての役割と結び付けることができる。 5. 介護は介護過程に基づいて行われることを理解し、専門性について考えることができる。 6. 認知症及び精神的支援が必要な高齢者に対する介護について理解ができ、その応用力を身につけることができる。 7. 終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持（人間観や倫理）について考えることができる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>受講生の人数などの状況に応じて、講義内容・形態を変更することもある。 授業で整理した内容を、授業開始前・終了後に課題を提出する場合もある。 第6回の授業で専門職の理解については、指定の用紙を使い記録を行い、提出する。 第7回～第8回の介護保険制度の改正点などを含め、整理し、提出する 第10～13回のグループワークでは、毎回、進行係と書記を決めてメンバー皆が参加し意見や考えが発表できるようにする。指定の用紙に必要事項を書いてグループレポートを作成する。授業の最後に提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 第1回目の授業で提示するので、説明を聞いてから購入する 『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度－高齢者福祉論』中央法規出版 【参考書】 授業で適時配布する</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士を取り巻く状況を理解でき、役割と機能を支えるしくみが理解できたか。 2. 尊厳を支える介護、自立に向けた介護が理解できたか。 3. 介護を必要とする人が理解できたか。 4. 介護サービスが理解でき、介護実践における連携やチームアプローチの心構えについて理解できたか。 5. 介護従事者の倫理の重要性や介護における安全の確保とリスクマネジメントが理解できたか。 <p>○評定の方法 [レポート 授業への積極的参加度を総合的に評価する] 1. 授業ノート提出・評価 40% 2. レポート 40% 3. 授業態度 20%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>授業中のマナー、ルールは守ること 【出欠席について】 ・やむを得ず、遅刻、早退、欠席する場合は、その理由を申し出ること。何も無い場合は減点対象とする。 ・下記【マナー、ルールについて】を守れない場合は、<u>必ず欠席</u>とする。 【マナー、ルールについて】 ・授業中、私語はしない。 ・携帯電話などは電源を切るかマナーモードにする。また、机の上に置かない。かばん等に必ずしまっておく。 ・授業中に携帯電話の作動はしないこと。守れない場合には、退出してもらおう。 ・居眠りはしない。 ・他学生の学習の妨げになるようなことはしない。 ・明らかに授業態度が不適切と判断された際は、厳格な指導を行うが、指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ皆出席であってもF評価になる。</p>		
13. オフィスアワー	時間割決定後。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 「介護概論」のねらいと単元の解説 テーマ「社会福祉と介護」 介護の概念及び専門性を支える理念、介護の対象者について理解する。社会福祉士が介護を学ぶ必要性について理解する。	事前学習	シラバスを読み授業内容を理解する。
		事後学習	介護の概念理念を理解し、社会福祉士が介護を学ぶ必要性について整理する。
第2回	テーマ「少子高齢社会と高齢者」 超高齢社会における介護の方向性を家族構成や就労、収入、医療の側面から考え、高齢者を取り巻く諸問題について理解する。	事前学習	少子高齢社会と高齢者について考える。
		事後学習	高齢者を取り巻く諸問題について整理する。
第3回	テーマ「高齢者の特性Ⅰ」 高齢期における生活の変化、家族、社会参加、生きがいなどを考え、高齢者の生活に、どのような影響を及ぼすのかまた、どのように適応するのか高齢者の社会的理解を深める。	事前学習	高齢者の生活、家族、社会参加、生きがいなどを考える。
		事後学習	高齢者の特性について整理する。
第4回	テーマ「高齢者の特性Ⅱ」 加齢に伴う身体機能、精神機能の変化から生じる疾病や生活障害を理解し、対応を考える。	事前学習	高齢者の身体的、精神的特性について考える。
		事後学習	高齢者の身体的、精神的特性について整理する。
第5回	テーマ「自立に向けた介護・尊厳を支える介護」高齢者の自立した日常生活とは何かを考え、高齢者介護のキーワードもある尊厳を支える介護について考える。	事前学習	自立とは、尊厳とは、について調べる。
		事後学習	自立に向けた介護、尊厳をささえる介護について整理する。
第6回	テーマ「高齢者を支援する専門職の役割と連携について」 介護を必要としている高齢者を支援する専門職の役割を理解すると共に、連携の方法について理解する。	事前学習	高齢者を支援する専門職の役割と実際について考える。
		事後学習	専門職の役割、連携について整理する。
第7回	テーマ 「介護保険について」① 介護保険制度の基本的知識について理解を深める。	事前学習	介護保険制度について調べる。
		事後学習	介護保険制度の改正点を含め、理解を深める。
第8回	テーマ 「介護保険について」② 介護保険制度の基本的知識について理解を深める。	事前学習	介護保険制度の改正点を含め、整理する。
		事後学習	介護保険制度についてまとめる。
第9回	テーマ「介護過程」 ICFについて理解すると共に、介護実践を行う上で、最も大切である介護過程の意義と具体的な内容について理解する。	事前学習	ICFについて調べておく。
		事後学習	ICF の分類による介護過程の展開を整理する。
第10回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」① 身だしなみの介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における身だしなみについて考える。
		事後学習	レポートの作成
第11回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」② 起居動作、移動等の介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における移動、移乗について考える。
		事後学習	レポートの作成
第12回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」③ 食事、口腔ケアの介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における食事、口腔ケアについて考える。
		事後学習	レポートの作成
第13回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」④ 排泄の介護を理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における排泄について考える。
		事後学習	レポートの作成
第14回	テーマ「認知症高齢者に対する介護の実践」 認知症について理解すると共に、実践的な介護の考え方や方法について理解する。	事前学習	認知症について調べておく。
		事後学習	実践的な介護の考え方や方法について整理する。
第15回	テーマ「終末期ケア」終末期における高齢者や家族について理解すると共に、その支援の実践的な方法を理解する。	事前学習	終末期について考える。
		事後学習	終末期における高齢者や家族について、支援の実践的な方法を整理する。
期末試験			
15.実務経験を有する教員特記事項	高齢者福祉施設における介護職の実務経験の知見を活かし、「7」に示した講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECM1316 GECM1326
2. 授業担当教員	石山 哲也			
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	韓国の文化と言語Ⅰを履修していることが望ましい。ハングルが全く読めない、韓国語の文法を全く知らないという状態で参加することは困難である。			
7. 講義概要	韓国の文化と言語Ⅰでは言語を中心に講義を行なったが、Ⅱでは言語と文化両方を学習する。言語については基本的な挨拶から日常会話をはじめ、漢数詞、固有数詞などを応用し、会話を深める。文化については一般的な理論講義と共にビデオや現地見学(コリアタウン、高麗神社)などを併行して講義を行ない、より深い韓国文化の理解を高めることも目的とする。したがって、本授業は基本的なハングル文字を理解し、韓国の文化に興味を持っている学生が授業の対象として望ましい。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの文字と単語を覚える 2. 基本的な日常会話ができるように学習する 3. 現代の韓国社会の政治・経済・社会・文化などについて理解する。 4. 韓国の伝統文化・名節について理解する。 5. 韓国の歴史や世界遺産などについて理解する。 6. 韓国の文化を直接的に体験し、より深い文化を理解する。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. レポート: 韓国の文化の中から一つを選び、日本との相違点や類似点についてまとめる			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 李昌圭『スペシャル CD 付き 日常会話から文法まで学べる はじめての韓国語』ナツメ社、2014。 【参考書】 任榮哲・井出里咲子『箸とチョッカラク——ことばと文化の日韓比較』大修館書店、2004。 斉藤明美『言葉と文化の日韓比較』世界思想社、2005。 古田博司・小倉紀蔵編『韓国学のすべて』新書館、2002。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介と簡単な会話ができるのか 2. 韓国の文化について理解し、日本と比べ類似点や相違点について理解されているのか ○評定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. ミニテスト及び授業への参加度(発表など): 40% 2. 課題レポート及び予習ノート: 20% 3. 総括テスト: 40% 			
12. 受講生へのメッセージ	韓国語は日本語話者にとって、世界で最も学びやすい言語だと言われています。また、日本語と韓国語は多くの漢語を共有しているので、語彙の増強も容易です。本人のやる気次第で本当に使える韓国語が身につけられるので、ぜひ頑張ってみてください。 なお、韓国語の定着を目指すため、原則として前回の内容を試験範囲とするミニテストを毎回実施します			
13. オフィスアワー	初回の授業時に告示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション、韓国語の文字と発音	事前学習	このクラスで何ができるようになりたいか考えておく。	
		事後学習	韓国について理解したことをまとめる	
第2回	Lesson13、14	事前学習	pp. 126～133 を読んでおく。	
		事後学習	授業で練習した会話の内容を覚える。	
第3回	Lesson15、韓国の文化①	事前学習	pp. 134～137 を読んでおく。	
		事後学習	授業で学習した会話の内容を覚える	
第4回	Lesson16、まとめの演習問題 4	事前学習	pp. 138～141 を読んでおく。	
		事後学習	演習問題で間違えた箇所を復習する。	
第5回	Lesson17、18	事前学習	pp. 148～155 を読んでおく。	
		事後学習	授業で学習した会話の内容を覚える。	
第6回	Lesson19、韓国の文化②	事前学習	pp. 156～159 を読んでおく。	
		事後学習	授業で学習した会話の内容を覚える。	
第7回	Lesson20、まとめの演習問題 5	事前学習	pp. 160～163 を読んでおく。	
		事後学習	演習問題で間違えた箇所を復習する。	
第8回	Lesson21、22	事前学習	pp. 170～177 を読んでおく。	
		事後学習	授業で学習した会話の内容を覚える。	
第9回	Lesson23、韓国の文化③	事前学習	pp. 178～181 を読んでおく。	
		事後学習	授業で学習した会話の内容を覚える。	
第10回	Lesson24、まとめの演習問題 6	事前学習	pp. 182～185 を読んでおく。	
		事後学習	演習問題で間違えた箇所を復習する。	
第11回	Lesson25、26	事前学習	pp. 192～199 を読んでおく。	
		事後学習	授業で学習した会話の内容を覚える。	
第12回	Lesson27、韓国の文化④	事前学習	pp. 200～203 を読んでおく。	
		事後学習	授業で学習した会話の内容を覚える。	

第13回	Lesson28、まとめの演習問題7	事前学習	pp. 204～207 を読んでおく。
		事後学習	演習問題で間違えた箇所を復習する。
第14回	Lesson29、30	事前学習	pp. 214～221 を読んでおく。
		事後学習	授業で学習した会話の内容を覚える。
第15回	全体のまとめ	事前学習	課題レポートをまとめる
		事後学習	レポートを清書して提出する

1. 科目名 (単位数)	感情・人格心理学／人格心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3333
2. 授業担当教員	織田 正美			
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお人格とは、性格とはほぼ同じ意味で用いられるが、態度（認知・感情・行動）、興味、価値観並びに知的理解度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けない考え方に立ち、さまざまな観点から人格の特徴を明らかにしていく。</p>			
8. 学習目標	<p>人間とはなにか。人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することがこの授業の最大の目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学習目標の一つである。具体的には以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格とは何か、その研究史からも理解できる。 2. 性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動をみることができる。 3. 性格の診断の仕方が理解できる。 4. 性格の形成のされ方が分かる。 5. 性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。 6. 感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート 課題	<p>この授業では、配布資料に基づいて講義とディスカッションを行う。 「自分の人格・性格について」レポートを書く。 人格とはなにかについて、グループディスカッションを行う。 各回の授業内容についてのまとめ・要約を3～5回、宿題として課す。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】教科書に代わる資料を一式配付する。 【参考文献】授業開始の日に紹介する。</p>			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己理解や他者理解を通して、人を見る目を養うことができているか。 2. 他者を見る時、さまざまなバイアスがかかるものであるが、そのメカニズムを理解できているか。 3. 感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できるか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 総合点の30% 2. 課題レポート 総合点の35% 3. テーマ毎の理解度 総合点の35% 			
12. 受講生への メッセージ	<p>自己の本質を理解し、合わせて他者理解を深めることが目標であるから、グループディスカッションが要となる。また客観的に自己をとらえるための心理テストを随時行う。 大学は学問を学ぶところであること、十分自覚すること。</p>			
13. オフィスアワー	毎週、授業終了後 1時間程度。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	人格とはなにか	事前学習	自分の性格の特徴、長所、短所について考えておくこと。	
		事後学習	人格（性格）とは何かについて、A4版1枚400字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第2回	人格形成の要因	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。	
		事後学習	人間の人格はどのようにして形成されるか、A4版2枚800字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第3回	人格のアセスメント（測定と診断）①	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。	
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第4回	人格のアセスメント（測定と診断）②	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。	
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第5回	人格のアセスメント（測定と診断）③	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。	
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	
第6回	知能とはなにか	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。	
		事後学習	知能とは何か、知能の規定する要因についてA4版2枚800字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。	

第7回	知能のアセスメント（測定と診断）①	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版3枚1200字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第8回	知能のアセスメント（測定と診断）②	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版3枚1200字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第9回	知能のアセスメント（測定と診断）③	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版3枚1200字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第10回	動機（づけ）	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。
第11回	感情と情緒	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第12回	欲求と適応	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第13回	人格の理論①	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。
第14回	人格の理論②	事前学習	配布資料の関連部分について熟読すること。
		事後学習	配布資料の関連部分を講義内容とともにA4版1枚400字でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第15回	全体のまとめ 人格とは何か、人格を形成する要因、人格を測定・診断する方法についてA4版4枚1600字でまとめること。	事前学習	配布資料のすべての部分を読み直しておくこと。
		事後学習	これまでの授業を振り返り、人格についての理解が深まったことを省察し、現実場面における問題に活用する方法について考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習ⅡB (2単位)		3. 科目番号	GELA1205
2. 授業担当教員	石山 哲也			
4. 授業形態	講義・演習・グループディスカッション	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この授業では、日本語運用能力を中級レベルから上級レベルへ引き上げることを目的とし、そこからビジネス場面で対応し得る日本語運用能力への橋渡しを目指す。具体的には、日常的な言語活動を文レベルでの発話で表現・理解できるが、文を超えた談話レベルの発話や理解ができず、パターンから外れた場面での複雑なコミュニケーションに困難をきたすレベルから、非日常的な場面における複雑なコミュニケーションが行える日本語レベルへと「聴く、話す、読む、書く」の4技能を総合的に育成する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・社会・ビジネスに関する理解を深める。 2) 日本語で書かれた説明文や資料を正確に理解し、自分の言葉で要約できるようになる。 3) 議論を進めるために適切な質問ができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指示した事前学習・事後学習を必ず行った上で授業に参加すること。 2. 教科書の各ケース毎に自分の見解を論理的に提示する能力を養うため、授業で扱うケースから1つテーマを選び、レポートを作成する。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】宮崎七湖編著『留学生のためのケースで学ぶ日本語—問題発見解決能力を伸ばす』ココ出版 (税抜 1,800 円)			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・社会・ビジネスに関する理解を深めることができたか。 2. 日本語で書かれた説明文や資料を正確に理解し、自分の言葉で要約できるようになったか。 3. 議論を進めるために適切な質問ができるようになったか。 4. 日本語での口頭発表を行う能力を養うことができたか。 5. 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働して作業が出来るようになったか。 <p>○評定の方法：以下の点を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への参加態度 総合点の 30% 2. 試験 (小テスト・期末試験、口頭発表による試験等) 総合点の 30% 3. 提出課題 (レポート等) 総合点の 40% <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、日本で経験する様々なことをケーススタディで学ぶ。受講生が自ら考え、討論や発表を通じ、日本語運用能力を高めることを重視する。受講生の関心や状況に応じて、新聞記事等を補充する等して、タスク活動などの調整する場合がある。</p> <p>受講に際して、特に以下の点には注意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席、遅刻、早退などせず、グループワークでの活動で迷惑にならないよう積極的に授業に参加する。 2. 提出物、宿題は必ず提出する。 3. 授業での配布物はなくさない。 4. 教科書は毎回必ず持参する。 5. 分からないことは、担当教員に必ず質問、確認をする。 6. 授業に関係のない私語はしない。スマートフォン等の関係のないものはカバンにしまう。 			
13. オフィスアワー	授業のある日の休み時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション・授業概要・日本での暮らしの悩みについて話し合い発表する	事前学習	教科書を購入し、目次に目を通してこの授業の全体像を把握する。	
		事後学習	教科書のケース 01 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する	
第2回	ケース 01 上下関係	事前学習	教科書のケース 01 の本文を読み、質問の答えを準備しておく	
		事後学習	教科書のケース 02 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する	
第3回	ケース 02 どうして掃除してくれないの?	事前学習	教科書のケース 02 の本文を読み、質問の答えを準備しておく	
		事後学習	教科書のケース 03 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する	
第4回	ケース 03 アパートの大家さんとのトラブル	事前学習	教科書のケース 03 の本文を読み、質問の答えを準備しておく	
		事後学習	教科書のケース 04 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する	
第5回	ケース 04 期待はずれのホームステイ	事前学習	教科書のケース 04 の本文を読み、質問の答えを準備しておく	
		事後学習	教科書のケース 05 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する	

第6回	ケース 05 おせっかいな伯母さん	事前学習	教科書のケース 05 の本文を読み、質問の答えを準備しておく
		事後学習	教科書のケース 06 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する
第7回	ケース 06 引っ越したいけれど	事前学習	教科書のケース 06 の本文を読み、質問の答えを準備しておく
		事後学習	教科書のケース 07 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する
第8回	ケース 07 パーベキューはダメ?	事前学習	教科書のケース 07 の本文を読み、質問の答えを準備しておく
		事後学習	教科書のケース 08 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する
第9回	ケース 08 とりあえず謝る?	事前学習	教科書のケース 08 の本文を読み、質問の答えを準備しておく
		事後学習	教科書のケース 09 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する
第10回	ケース 09 親友がほしい	事前学習	教科書のケース 09 の本文を読み、質問の答えを準備しておく
		事後学習	教科書のケース 10 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する
第11回	ケース 10 私っておとなしいの?	事前学習	教科書のケース 10 の本文を読み、質問の答えを準備しておく
		事後学習	教科書のケース 11 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する
第12回	ケース 11 同国人との付き合い	事前学習	教科書のケース 11 の本文を読み、質問の答えを準備しておく
		事後学習	教科書のケース 12 の語彙を確認しておく 授業中に行った内容を復習する
第13回	ケース 12 愚痴ばかり言う友だち	事前学習	教科書のケース 12 の本文を読み、質問の答えを準備しておく
		事後学習	これまで学んだケース 1~12 を振り返り、興味のあるテーマでレポートを作成する
第14回	レポート発表(同一テーマを選んだ学生同士でグループ討論の後、グループ毎で発表し質疑応答を行う)	事前学習	これまで学んだケース 1~12 から興味のあるテーマでレポートを完成させる
		事後学習	発表への質疑応答やコメント等を整理し、レポートを修正する
第15回	振り返りおよび日本語到達度チェック	事前学習	レポートの内容を修正し提出する
		事後学習	全ての授業で行った内容を復習する

1. 科目名 (単位数)	健康心理学/健康・医療心理学 (2単位)	3. 科目番号	PSMP3337						
2. 授業担当教員	織田 正美	5. 開講学期	秋期						
4. 授業形態	講義、演習								
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>行動変容を大きなテーマに、より健康な生活を送ることができるよう心理学的観点から学ぶことを目的とする。そして、人間の「心と体」の健康の維持・増進、疾病の予防のために、心や体の健康を阻害する危険因子 (risk factor) を、bio-psycho-socio の3つの観点から発見し、それを防除することを目指し、保健医療の現場で役立つ基礎を学ぶ。</p> <p>また、災害などに遭遇したときの人間の心理と行動を理解し、緊急事態や災害を体験した人々に見られる心理的反応と行動の特徴を知ると同時に、これらに基づき災害への備えや対応を含む方略を考える。</p>								
8. 学習目標	新しい学問としての、健康・医療心理学の本質を理解し、人間の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、どのような支援が可能か自分の考えを述べるができるようになる。								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	この授業では、教科書と配布資料に基づいて講義とディスカッションを行う。「心身の健康を維持・増進するためにはどうしたらよいか」について、レポートを書く。ストレス及びその対処法についてグループディスカッションを行う。各週の授業のまとめについて、3～5回宿題を出す。								
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 日本健康心理学会編『健康心理学概論』実務教育出版、2002。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 健康・医療心理学の本質を理解し、人間の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、どのような支援が可能かについて、自分の考えを述べ、実践することが出来るようになったか。</p> <p>○評定の方法 授業への積極的参加、日常の受講態度、課題レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への参加態度 (授業態度、積極的参加)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業への参加態度 (授業態度、積極的参加)	総合点の30%	2 課題レポート	総合点の30%	3 期末レポート	総合点の40%
1 授業への参加態度 (授業態度、積極的参加)	総合点の30%								
2 課題レポート	総合点の30%								
3 期末レポート	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	自分の心と体、特に精神面について関心のある学生には有益な授業である。どのようにしてストレスや悩みに対処するかなどを知りたい学生には役に立つ。 大学は学問を学ぶところであること、十分自覚すること。								
13. オフィスアワー	毎週、授業終了後 1時間程度。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	健康心理学とは	事前学習	自分の心と体の健康について、考えておくこと。						
		事後学習	健康心理学とはどのような学問かについて、A4版1枚400字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。						
第2回	健康心理学の基礎理論①	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。						
		事後学習	健康心理学の理論について、A4版1枚400字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。						
第3回	健康心理学の基礎理論②	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。						
		事後学習	健康心理学の理論について、A4版1枚400字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。						
第4回	健康維持の身体・生理学的メカニズム	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。						
		事後学習	身体・生理学的メカニズムについてA4版1枚400字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。						
第5回	ストレスと健康①	事前学習	自分のストレスについて考えておくこと。						
		事後学習	ストレスとは何か？ストレスを克服する方法についてA4版1枚400字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。						
第6回	ストレスと健康②	事前学習	自分のストレスについて考えておくこと。						
		事後学習	ストレスとは何か？ストレスを克服する方法についてA4版1枚400字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。						
第7回	健康行動と疾病予防	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。						
		事後学習	健康を維持し、病気を予防する方法をA4版1枚400字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。						
第8回	生活習慣病の予防	事前学習	生活習慣病にはどのようなものがあるか考えておくこと。						

		事後学習	生活習慣病のリスクファクターと予防について A4 版 1 枚 400 字にまとめるまとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 9 回	ソーシャルサポートとヘルスケアシステム	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。
		事後学習	ソーシャルサポートと健康の関係を A4 版 1 枚 400 字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 10 回	健康心理学におけるアセスメント法①	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。
		事後学習	心と体の健康をアセスメントする方法について A4 版 3 枚 1200 字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 11 回	健康心理学におけるアセスメント法②	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。
		事後学習	心と体の健康をアセスメントする方法について A4 版 3 枚 1200 字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 12 回	健康心理学におけるアセスメント法③	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。
		事後学習	心と体の健康をアセスメントする方法について A4 版 3 枚 1200 字にまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 13 回	健康心理学とカウンセリング	事前学習	教科書の該当する章を熟読する。
		事後学習	健康を維持するためのカウンセリングの理論と方法について、A4 版 2 枚 800 字にまとめる。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 14 回	健康増進のための実践プログラム	事前学習	健康を増進するために自分が普段実践している方法について考えておくこと。
		事後学習	事前学習と講義の内容を A4 版 1 枚 400 字以内でまとめること。まとめたものは次回の授業の時に必ず提出すること。
第 15 回	全体のまとめ 健康心理学とはどのような学問か、心と体の健康を阻害する要因は何か、心と体の健康を維持・増進する方法は何か、について A4 版 4 枚 1600 字でまとめる。	事前学習	教科書全体の章を読み直しておくこと。
		事後学習	今後の日常生活における心と体の健康を維持・促進するために生活習慣をどのように改善すればよいか、これまでの授業を振り返り自分の考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2単位)	3. 科目番号	GEHL1301
2. 授業担当教員	宮田 洋之		
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しみながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 自分自身の1週間のライフスタイルを記録し、健康、運動について考える。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 勝田茂監訳『身体活動・体力と健康』朝倉書店 関根紀子『運動と健康』放送大学</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力や運動レベルの差が大きいので、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価規準とする。 2. 実技試験への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、健康への考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 60% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技試験・課題レポート 30% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	食事・睡眠・身体活動など、受講生の日常生活もそのまま該当する内容を扱っていきます。人体の仕組みや生理についてよく理解し、生活習慣の改善、運動スポーツの実践ができるようになってください。		
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 「現代の健康に関する問題について」	事前学習	自身の子どもの頃の生活習慣および現在の生活習慣について把握しておく。
		事後学習	自身の生活習慣について、健康という観点から評価し、問題点、改善点について記述する。
第2回	「食事 (朝食) に関する問題について」	事前学習	自身の朝食摂取についてまとめておく。
		事後学習	食習慣について、授業内容を参考に改善・維持できるようにする。
第3回	「睡眠に関する問題について」	事前学習	自身の睡眠 (時間や質) についてまとめておく。
		事後学習	睡眠習慣について、授業内容を参考に改善・維持できるようにする。
第4回	「疾患に関する問題について」	事前学習	疾患に関する情報を集め、予習しておく。
		事後学習	疾患に関して、授業内容をまとめ、近年の傾向を把握する。
第5回	「体力に関する問題について」	事前学習	近年の子どもの体力の傾向および、自身の運動習慣について把握しておく。
		事後学習	体力が健康を支えている事を理解し、今後の身体活動について改善、維持を意識する。

第6回	「肥満に関する問題について」	事前学習	肥満に関する情報を収集しておく。
		事後学習	肥満が及ぼす影響の他、授業内で学んだその他の要因についても復習し、今後健康に関して他人に説明できるようにする。
第7回	「こころに関する問題について」	事前学習	こころの問題とは何か、情報を収集しておく。
		事後学習	こころの問題について授業内容を復習し、理解する。
第8回	【集中実技】① 「ストレッチ、軽運動」	事前学習	ストレッチについて情報を収集しておく。
		事後学習	自分の運動感の視点と相対非し、自身の運動感を確立する。
第9回	【集中実技】① 「縄跳び運動」	事前学習	今まで行なったことのある縄跳び遊びの方法を思い出す。
		事後学習	縄跳び運動の特性を理解する。
第10回	【集中実技】② 「生涯スポーツ」	事前学習	生涯スポーツについて情報を収集しておく。
		事後学習	生涯スポーツを通して、今後社会で活用できることは何か考える。
第11回	【集中実技】② 「バランスボールを使った運動」	事前学習	Gボールについて調べておく。
		事後学習	授業の内容の一部を普段の生活に取り入れ実施する。
第12回	【集中実技】③ 「体力の測定と評価」	事前学習	今まで行なったことのある体力・運動能力テストを思い出す。
		事後学習	形態および機能の正しい測定方法を理解し現場で実践できるようにする。
第13回	【集中実技】③ 「疲労回復法、疲労しにくいからだ作り」	事前学習	疲労を回復するための色々な方法を調べて授業に望む。
		事後学習	自分なりの疲労回復方法についてまとめ、実践する。
第14回	「健康と運動」	事前学習	健康と運動の関連は何か、情報を収集しておく。
		事後学習	健康と運動の関連について理解し、実践するだけでなく、他社に伝えられるようにする。
第15回	「学習のまとめ」	事前学習	健康とは何か運動との関連は何か、これまでの授業を振り返り、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	資料、講義内容を参考にし、これからの行動に活かせるようにする。
15.実務経験を有する教員特記事項	幼稚園での体育教諭、スポーツクラブでの幼児体育講師としての勤務経験の知見を活かし、「7」に示した講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	権利擁護と成年後見 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3101 SCMP3101 SBMP3301 SPMP3301 PSMP3401
2. 授業担当教員	上野 義光			
4. 授業形態	講義・討議	5. 開講学期	春期/秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	1 権利擁護の基本的な考え方・成年後見制度の概要・成年後見人の活動の実際について、実務の動向も含めて学ぶとともに、成年後見制度と関わりのある諸制度や専門職の役割について学ぶ。 2 権利擁護・成年後見制度の理解の前提となる憲法と民法の基本的な考え方を学ぶ。			
8. 学習目標	1 権利擁護相談援助と日本国憲法、民法、行政法とのかかわりを理解、習得し、説明できる。 2 成年後見制度の概要及び成年後見人等の役割、実務について理解、習得し、説明できる。 3 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解し、説明できる。 4 成年後見活動の実際及び権利擁護活動の実際について考察し、理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート設題: 「成年後見制度と日常生活自立支援事業についておよびその両制度の違いについて」 3000字程度にまとめて、12月中旬までに提出。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業を通じて、権利擁護の基本的な考え方、成年後見制度の概要、成年後見人の活動等を理解し、説明できるようになっているか。 2. レポート課題を通じて、授業で学んだ知識を活用して、説明できるようになっているか。 3. 期末試験を通じて、専門用語等を理解し、説明できるようになっているか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加 総合点の40% 2. レポート 総合点の30% 3. 期末試験 総合点の30%			
12. 受講生へのメッセージ	日常生活に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身に付けておくことは大切です。年々、成年後見制度や日常生活自立支援事業の需要が増加しており、援助の専門職として法制度と実際の知識が必要です。法律は難解な用語が多いので分かりやすく説明します。 授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。学生としてのマナーを守ってください。			
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる (4号館2階非常勤講師室)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション、相談援助活動において想定される法律問題	事前学習	教科書第1章第1節 (pp. 2~6) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	相談援助活動における法律問題について、その内容をまとめる。	
第2回	日本国憲法 (近代憲法の基本原理、憲法上の権利と基本的人権、自由権と社会権) の理解	事前学習	教科書第1章第2節 (pp. 7~16) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	特に基本的人権、社会権に関する理解を深め、その内容をまとめる。	
第3回	日本国憲法 (外国人と法人の人権、統治機構、地方自治、財政の原理等) の理解	事前学習	教科書第1章第2節 (pp. 16~27) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	統治機構、地方自治、財政について、その内容をまとめる。	
第4回	行政法 (行政法とは何か、行政行為、行政事件訴訟、行政不服申立制度、国家賠償法等) の理解	事前学習	教科書第1章第3節 (pp. 28~47) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	行政行為、行政事件訴訟、行政不服申立制度、国家賠償法について、その内容をまとめる。	
第5回	民法 (総則・自己決定と代理、物権と債権、契約と消費者保護) の理解	事前学習	教科書第1章第4節 (pp. 48~62) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	民法総則、物権と債権、契約と消費者保護についての理解を深め、その内容をまとめる。	
第6回	民法 (不法行為と損害賠償、親族法、相続法) の理解	事前学習	教科書第1章 (pp. 62~78) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	不法行為と損害賠償、親族法、相続法について、その内容をまとめる。	
第7回	成年後見制度 (成年後見・保佐・補助の概要、申立の流れ) について	事前学習	教科書第2章 (pp. 82~106) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	成年後見制度について理解し、その内容をまとめる。	
第8回	成年後見制度 (任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の動向) について	事前学習	教科書第2章 (pp. 107~127) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	任意後見制度、成年後見人等の義務と責任について理解し、その内容をまとめる。	
第9回	日常生活自立支援事業 (日常生活自立支援事業の概要、日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携) について	事前学習	教科書第3章 (pp. 130~138) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	日常生活自立支援事業について理解を深め、その内容をまとめる。	

第10回	成年後見制度利用支援事業（成年後見制度利用支援事業の概要、その他の財政支援の活用）について	事前学習	教科書第4章（pp.140~145）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	成年後見制度利用支援事業について、その内容をまとめる。
第11回	権利擁護にかかわる組織・団体（家庭裁判所・法務局・市町村の役割）について	事前学習	教科書第5章（pp.148~161）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	特に家庭裁判所、法務局の役割について理解を深め、その内容をまとめる。
第12回	権利擁護にかかわる組織・団体（社会福祉協議会・児童相談所の役割）について	事前学習	教科書第5章（pp.162~171）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	社会福祉協議会と児童相談所の役割について、その内容をまとめる。
第13回	権利擁護にかかわる専門職（弁護士・司法書士・公証人・医師の役割等）について	事前学習	教科書第6章（pp.174~196）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	弁護士・司法書士等の役割について、その内容をまとめる。
第14回	成年後見活動の実際（事例検討）	事前学習	教科書第7章（pp.198~214）を吟味し、その要点をまとめる。
		事後学習	グループで検討したことを、もう一度振り返ってみる。
第15回	権利擁護活動の実際（事例検討）	事前学習	教科書第8章（pp.216~243）を吟味し、その要点をまとめる。
		事後学習	グループで検討したことを、もう一度振り返ってみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2106 SPMP2106 PSMP2406
2. 授業担当教員	本沢 一善		
4. 授業形態	講義、グループ学習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。</p> <p>事前・事後学習の提出についても採点・返却する。</p> <p>状況により、授業内容のなかから90分以上の項目を選び、グループ学習とする。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>新社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第16巻 低所得者に対する支援と生活保護制度 (第5版)』中央法規出版。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活保護制度、低所得者に対する制度の内容や、これらの制度をとりまく問題について理解できたか。 ・国家試験に対応できる知識を、身につけられたかどうか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への参加度 30%</p> <p>試験・レポート 70%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>公的扶助に関する学習は、理念、原理、原則が重要であるとともに、最近では援助技術への理解が重視されています。また、社会福祉士・精神保健福祉士の資格試験の科目でもあり、しっかり勉強しておきたい科目の1つです。90分、15回では、効率的な学習が必要です。そこで、数人で協力し合って学習するグループ学習の方法も採ります。この学習方法が成功する鍵はお互いに信頼できるような取り組みが必要です。真摯で積極的な授業参加をお願いします。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業の概要、授業の進め方)、貧困・低所得の問題	事前学習	「第1章 第1節 B 公的扶助と社会保険」を熟読し、原則 A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第1章 第1節 C 公的扶助の範囲など、第2節 公的扶助の意義など」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第2回	公的扶助の意義、公的扶助制度の役割	事前学習	「第2章 第1節 貧困・低所得」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2章 第2節 A 絶対的貧困と相対的貧困、B 社会的排除など」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第3回	公的扶助制度の歴史 (1) 海外の歴史	事前学習	「第3章 第1節 A 救貧法、B 救貧施設と金銭給付」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第1節 C 救貧法の展開など、D 公的扶助の誕生」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第4回	公的扶助制度の歴史 (2) 日本の歴史と貧困などの対策	事前学習	「第2節 日本の歴史」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第3節 貧困・低所得者対策の動向」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第5回	生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法の目的、原理、原則	事前学習	「第4章 第1節 A 生活保護法の目的、B 生活保護法の基本原理」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第1節 C 保護の原則」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。

第6回	生活保護制度の仕組み（2）保護の種類とその内容	事前学習	「第2節 A 生活扶助」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2節 D 医療扶助、E 介護扶助」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第7回	生活保護制度の仕組み（3）権利、義務、不服申立、財源、予算	事前学習	「第3節 保護施設」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第5節 不服申立と訴訟」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第8回	生活保護基準と最低生活保障水準	事前学習	「第5章 第2節 生活保護基準の考え方」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第3節 生活保護基準の実際」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第9回	生活保護に関する統計の動向	事前学習	「第6章 第1節 A 被保護人員、B 被保護世帯数」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2節 保護の開始・廃止の動向、第3節 医療扶助・介護扶助の動向」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第10回	低所得者対策（1）生活福祉資金	事前学習	「第7章 第1節 A 世帯更生資金貸付制度の制立など」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「B 生活福祉資金貸付制度の概要」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第11回	低所得者対策（2）公営住宅・ホームレス対策など	事前学習	「第3節 ホームレス対策」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2節 C 児童手当、第4節 A 公営住宅制度」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第12回	生活保護の運営体制と関係組織（国・都道府県等）・専門職（現業員等）	事前学習	「第8章 第1節 D 国の役割」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第1節 C 地方分権一括法など、第2節 福祉事務所の役割」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第13回	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動、福祉事務所の役割と連携	事前学習	「第9章 第1節 A 生活保護における相談援助活動の特徴」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第1節 B 相談援助活動のプロセス、第3節 他機関などとの連携等」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第14回	自立支援プログラムの意義と実際	事前学習	「第10章 第1節 自立とは」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2節 自立支援プログラムの位置づけ」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第15回	総合まとめ	事前学習	過去問をベースに15題（項目は75）の印刷を前もって配布する。そこから3題選び、内容をまとめて提出する。
		事後学習	国試の過去問をベースに、全体の理解を深める
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	公認心理師の職責 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3356
2. 授業担当教員	佐藤 篤司		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。</p> <p>(1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析 (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助 (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助 (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供</p> <p>このような職務を適切に遂行するために必要な知識と倫理を身につけるために、①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保、④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧他職種連携及び地域連携について学びます。</p>		
8. 学習目標	①公認心理師の役割について理解し、説明できるようになる。 ②公認心理師の法的義務及び倫理について理解する。 ③心理に関する支援を要する者等の安全確保の方法を身につける。 ④情報の適切な取扱い方について理解する。 ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務を理解し、説明できるようになる。 ⑥公認心理師として求められる資質、技能、倫理について理解し、自己に求められる課題把握ができるようになる。 ⑦生涯学習への準備の必要性を理解する。 ⑧他職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	事前学習において、授業の中で取り扱う予定の内容について調べておくこと。レポート課題の内容は心理臨床現場の各分野に関するものとする。レポート課題の提出期限は授業最終日とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 野島 一彦【編・監修】『公認心理師の職責』遠見書房		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ①公認心理師の役割について理解し、説明することができる。 ②公認心理師の法的義務及び倫理について理解している。 ③心理に関する支援を要する者等の安全確保の方法を身につけている。 ④情報の適切な取扱い方について理解している。 ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務を理解し、説明できる。 ⑥公認心理師として求められる資質、技能、倫理について理解し、自己に求められる課題把握ができる。 ⑦生涯学習への準備の必要性を理解している。 ⑧他職種連携及び地域連携について理解し、説明できる。 ○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4 以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢 20%、試験 40%、課題レポート 40%で判断する。		
12. 受講生へのメッセージ	公認心理師になるためには長い道のりがあり、その途上で自分の公認心理師としての適性を確認する作業が必要となる。実習に出るまでには、自分の適性を見極めておこう。 初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。		
13. オフィスアワー	時間帯は決まり次第、授業時に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ①授業の全体像	事前学習	シラバスを熟読する。
		事後学習	講義概要、学習目標、成績評価の方法の詳細を確認する。
第 2 回	公認心理師の法的義務・倫理	事前学習	「公認心理師の法的義務・倫理」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第 3 回	クライアント／患者らの安全の確保のために	事前学習	「クライアント／患者らの安全の確保のために」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。

第4回	情報の適切な取り扱いについて	事前学習	「情報の適切な取り扱いについて」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第5回	公認心理師の役割遂行に必要な注意事項 (まとめ)	事前学習	これまでの4回の授業で学んだことから、公認心理師の役割遂行に必要な注意事項をまとめておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第6回	保健医療分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	「保健医療分野における公認心理師の具体的な業務」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第7回	福祉分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	「福祉分野における公認心理師の具体的な業務」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第8回	教育分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	「教育分野における公認心理師の具体的な業務」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第9回	司法・犯罪分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	「司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第10回	産業・労働分野での公認心理師の具体的な業務	事前学習	「産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第11回	支援者としての自己課題発見・解決能力	事前学習	「支援者としての自己課題発見・解決能力」について考えておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第12回	生涯学習への準備	事前学習	不断の研鑽がなぜ必要か考えてみる。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第13回	多職種連携・地域連携	事前学習	「多職種連携・地域連携」について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第14回	全体のまとめ	事前学習	レポート提出の準備をする。
		事後学習	授業のまとめをノートに記入する。
第15回	確認のワーク	事前学習	まとめたノートを見直しておく。
		事後学習	記入していなかった重要語句をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1101 SPMP1301 PSMP1401
2. 授業担当教員	宮崎 栄二		
4. 授業形態	講義、グループレポート作成と発表、ディスカッション、小テスト	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人類の長年の願望だった長寿化社会の実現が先進国のみならず開発途上国でも見られる現象となった。現在日本は、少子高齢化の影響で人口の減少と介護人材の不足が社会問題となっており、社会が健全に発展するためには、少子・高齢社会の的確な現状の把握と問題の本質を理解し、ニーズに基づいた積極的な対応が必要である。</p> <p>本講義では、第1に、人口構造と世帯構成、高齢者の精神的・身体的状態、経済的状态など高齢者を取り巻く環境について理解を深める。第2に、高齢者福祉の発展過程として高齢者福祉制度の萌芽から老人福祉法、現在に至るまでの変化について検討する。第3に、支援が必要な虚弱高齢者、予防高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点などについて把握する。第4に、介護保険法に規定されている介護に関連する介護予防と各種サービス、ケアマネジメント、終末期ケアなど諸事項に関する法律について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域や選好する場所で生活し続けるためには、どのような政策や実践が必要であるかを地域で調査を実施し、社会に貢献できることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口学的特徴とライフサイクルの観点から高齢者の生活実態や世帯構成、経済的状况について理解を深める。 2. 高齢者福祉制度の仕組み、発展過程と課題について理解を深め、今後実現可能な政策とは何かを調査する。 3. 公的介護保険制度の現状と問題点について把握し、要介護高齢者の介護ニーズに適切に対応するために解決すべき課題を把握する。 4. 高齢者ニーズを満たす方法として、血縁関係のみならず地域ネットワークの在り方についても理解を深め、高齢者が社会参加を積極的にするためには、どのような環境づくりが必要であるか、調べる。 5. 終末期ケアの在り方(人間観や倫理を含む)について理解し、高齢者が望む場所で最期を迎えるために、必要な政策と地域ネットワークのありがたを理解する。 6. 介護保険制度の仕組みについて理解を深め、介護サービス事業所の現状と問題点を調査し、改善策を把握する。 7. 相談援助活動において、要介護高齢者の人権を守るための成年後見制度など法制度の内容を理解し、成年後見制度が普及しない理由や問題点を把握する。 8. 本科目は、国家試験科目であり、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目指す。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生本人が居住している市町村を訪ねて、その市町村が発行している高齢者福祉、介護保険関連のパンフレット、冊子等を収集し、その町独自のサービスなどを理解する。 ・同時に、それぞれの市町村の介護保険事業の実態(高齢者人口、要介護認定者数、施設利用者数等)を調査する。 ・その他の課題は、授業の際に提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 杉本敏夫・橋本有里子編、『学びを追及する高齢者福祉』保育出版社。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。 *授業中に適宜資料を配布する。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評 定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会の理解と高齢者の特徴について理解されているのか 2. 高齢者と関連した法律や制度について理解されているか 3. 介護保険制度(財政やサービス等)について理解されているのか <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミニテスト及び授業への積極的な参加度(討議や発表など): 40% 2. 課題レポート及び予習ノート: 30% 3. 総括テスト: 30% 		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者になることは、誰にも避けることが出来ないことです。高齢化が著しく進む日本で、高齢者福祉・介護福祉は大変大きな、深刻な課題です。十分に学習し、理解しなければなりません。 ・介護保険制度は主要な柱です。興味を持って学習してください。 ・介護保険制度は変化が急です。国家試験に対応するために新たな情報にも注意して下さい。 ・授業内容は、基本的に教科書に沿って進めていくので、必ず予習して下さい。 <p>履修にあたっては次の事を最低限守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③席は前から男女で座ること。 ④他の人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴すること。 ⑤授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。 		

13. オフィスアワー	授業時間内に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 講義概要について説明 教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第1章 高齢者の生きがいと社会的参加について、居場所を中心に理解する。	事前学習	教科書第1章1節を読み、高齢者の生きがいとは何かについて調べる。
		事後学習	高齢者の社会参加への課題と対応策をまとめる。
第2回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第2章1節 高齢化の現状をとおして、少子高齢社会と社会的問題、少子高齢社会の実態とその要因、地域間格差について理解する。	事前学習	教科書第2章1節を読み、自分の住んでいる市町村の高齢化実態の概略を調べる。
		事後学習	一人暮らし高齢者や高齢者夫婦の実態をまとめる。 (練習問題)
第3回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第3章 日本の高齢者福祉の発展過程と諸外国の高齢者福祉の発展過程を比較し違いを理解する。	事前学習	教科書第3章1節を読み、高齢者保健福祉制度の歩みを、戦後の日本を中心に、概略を調べる。
		事後学習	日本の平成年間に入っの、高齢者保健福祉制度理念の変化についてまとめる。(練習問題)
第4回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第4章 高齢者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的変化に対する理解を深める。ライフサイクル・コースについて理解する。	事前学習	教科書第4章2節を読み、高齢者の有訴者率と受療率を調べる。
		事後学習	ライフサイクルとライフコースについてまとめる。 (練習問題)
第5回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第5章 介護の概念、対象と、高齢者虐待について、最近の動向を理解する。	事前学習	教科書第5章1節を読み、介護の現状を調べる。
		事後学習	高齢者虐待の現状を、「高齢社会白書」などを使ってまとめる。(練習問題)
第6回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第6章 認知症ケアを中心に、高齢者のケアを理解する。	事前学習	教科書第6章3節を読み、認知症について調べる。
		事後学習	終末期ケアと高齢者の人権、家族の生活維持についてまとめる。(練習問題)
第7回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第7章 高齢者福祉に関わる法制度を理解する。	事前学習	教科書第7章1節を読み、老人福祉法成立の経緯について調べる。
		事後学習	高齢者医療制度をめぐる動向と課題をまとめる。(練習問題)
第8回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第8章 介護保険制度の全体像、制度成立の背景について理解する。	事前学習	教科書第8章1節を読み、介護保険制度の概要を調べる。
		事後学習	介護保険制度の今後の課題をまとめる。(練習問題)
第9回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第9章 介護保険制度における介護サービスについて理解する。	事前学習	教科書第9章2節を読み、介護保険居宅サービスの概要を調べる。
		事後学習	介護サービス実施における、介護サービス事業者、専門職の連携(多職種連携)についてまとめる。(練習問題)
第10回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第10章 介護保険3施設を中心に、施設の役割と他の専門機関を理解する。	事前学習	教科書第10章1節を読み、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)を調べる。
		事後学習	地域包括支援センターについて、その役割や配置される専門職についてまとめる。(練習問題)
第11回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第11章 高齢者福祉、介護保険制度における、国、都道府県、市町村などの役割を理解する。	事前学習	教科書第11章1節を読み、介護保険制度における国・都道府県の役割を調べる。
		事後学習	介護保険制度における、市町村の役割をまとめる。 (練習問題)
第12回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第12章 高齢者に対する相談援助の実際を理解する。	事前学習	教科書第12章1節を読み、個別援助技術を念頭に、高齢者の相談援助を、介護保険を中心に調べる。
		事後学習	グループワークを念頭に、地域を活用した当事者グループ結成などの事業について、メディアを利用してまとめる。(練習問題)
第13回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第13章 高齢者の住まい方について、自宅と老人ホームなどを比較しながら理解する。	事前学習	教科書第13章1節を読み、有料老人ホームについて調べる。
		事後学習	サービス付高齢者住宅についてまとめる。(練習問題)
第14回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第14章 福祉用具と福祉住環境について理解する。	事前学習	教科書第14章1節を読み、福祉用具とは何か調べる。
		事後学習	バリアフリー住宅について調べ、バリアが高齢者に対しどの様な影響があるかまとめる。(練習問題)
第15回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第15章、高齢者支援の方法と実際について、介護保険制度や介護の実際を通して理解する。(全体のまとめ)	事前学習	教科書第15章「事例研究 在宅福祉」を読み、要介護・要支援高齢者が地域での生活を継続していくには、どう対応すればよいか調べる。
		事後学習	介護保険制度について、自分の住んでいる市町村のパンフレットなどで全体像を改めてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国際社会と日本 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1334
2. 授業担当教員	宮田 繁幸			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループプレゼンテーション	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	特になし			
7. 講義概要	「グローバル化」という言葉を頻繁に耳にするようになりましたが、それは一体何を意味するのでしょうか。この授業では、国際社会の状況に関する事例を使用教材(教科書、随筆記事、映像等)を適宜用いて紹介し、それを基にグループ討議を行い、「グローバル化」が世界の人々に及ぼしている影響を多角的に学び、理解を深めます。また、学期を通して、世界各地で起こっている出来事と日本との関わりについても考察を深めていきます。			
8. 学習目標	1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	○ほぼ毎回、課題を設定し、提出を求める。 ○期末レポートとして「国際社会の一員として考えること」というタイトルのレポートを作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山本富美子編著『留学生・日本人学生のための一般教養書 国境を越えて [本文編] 改訂版』新曜社、2007。 【参考資料】適宜授業で配布する			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。 ○評定の方法 成績評価の規準1～3についての達成度を以下の方法により評価する。 ・各受講生の参加意欲・態度(課題の提出状況も含む)について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業(ディスカッションなど)の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、試験・レポートから評価する。(40%)			
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業は事前学習を前提に行うため、必ず事前学習は行うこと。 2. 授業で扱ったすべてのプリント類はいつでも参照できるようにまとめ、期末までなくさないこと。 3. スマートフォン・携帯電話の電源を切り授業に臨むこと。 4. 授業中の私語は決してしないこと。 5. 不明な点は、授業中または授業後に教員に質問すること。 6. 授業に際しては、どのようなことでもよいので積極的に意見を述べること。			
13. オフィスアワー	初回授業時に周知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション	事前学習	教科書全体に目を通しておく	
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく	
第2回	国際社会における人口動態(第2課)	事前学習	教科書第2課を読み、不明な用語・疑問点等を調べておく	
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく	
第3回	国際社会における人口動態に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容をまとめておく	
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく	
第4回	戦後の社会構造の変容の国際比較(第3課)	事前学習	教科書第3課を読み、不明な用語・疑問点等を調べておく	
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく	
第5回	戦後の社会構造の変容の国際比較に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容をまとめておく	
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく	
第6回	戦後の経済構造の変容の国際比較(第4課)	事前学習	教科書第4課を読み、不明な用語・疑問点等を調べておく	
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく	
第7回	戦後の経済構造の変容の国際比較に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容をまとめておく	
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく	

第8回	グローバル化と開発の功罪（第5課）	事前学習	教科書第5課を読み、不明な用語・疑問点等を調べておく
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく
第9回	グローバル化と開発の功罪に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容をまとめておく
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく
第10回	地球規模の環境問題と対策（第6課）	事前学習	教科書第6課を読み、不明な用語・疑問点等を調べておく
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく
第11回	地球規模の環境問題と対策に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容をまとめておく
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく
第12回	グローバル化時代の課題（第9課）	事前学習	教科書第9課を読み、不明な用語・疑問点等を調べておく
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく
第13回	グローバル化時代の課題に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容をまとめておく
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく
第14回	国際社会におけるSDGSの課題（オリジナルテーマ）	事前学習	SDGSとは何か、ネット等で情報収集をしておく
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく
第15回	SDGSに関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容をまとめておく
		事後学習	授業の要点と自分で考えたことをノートにまとめておく

1. 科目名 (単位数)	ジェンダー論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1331
2. 授業担当教員	板井 広明			
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「女は家庭のなかで子育てをすることに向いている」とか「男は外で仕事をする事に向いている」といった「女らしさ」や「男らしさ」は、長い間、身体の仕組みや本能などの生物学的要因によって決定されるものだと考えられてきた。しかし、20 世紀の後半から、「女らしさ」「男らしさ」の区別は、社会的・文化的要因と深く関係していると考えられるようになった。「ジェンダー」とは、このような社会的・文化的に形成された性別を意味し、「女らしさ」「男らしさ」の社会的な側面に注目した概念である。本講義では、「ジェンダー」という言葉の意味を理解した上で、現代社会の様々な社会現象・社会問題に対して、「ジェンダー」の観点から関心を持ち、分析・考察し、表現する力を身につけることを目指す。			
8. 学習目標	<p>本講義の目的を達成するために、以下の3つの到達目標を設定する。</p> <p>1) 「ジェンダー」の概念とその意義を理解した上で、わかりやすく説明することができる。</p> <p>2) 現代社会における家族、労働、家事、育児、介護等の諸問題に内在する「ジェンダー」に関心を持ち、それぞれの課題について他の受講者の意見を尊重した上で議論することができる。</p> <p>3) 本授業での学びの成果をもとに、「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析・考察し、自らの意見を適切な表現を用いて表現することができる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「江口某の不如意研究室」 (http://yonosuke.net/eguchi/) のページにある「勉強の仕方」の34記事すべてを講義第10回目までには熟読して自家筆箱中のものとしておくこと。詳しくは講義で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣、2017。</p> <p>【参考書】加藤・海老原・石田『ジェンダー (図解雑学)』ナツメ社、2005。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダー」の概念とその意義を理解できたか。 ・現代社会に内在する「ジェンダー」の課題に関心を持ち、それに対する自らの意見を深めることができたか。 ・「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析、考察することができたか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題 (中間レポート・ワークシート等) 30% ・期末評価 (レポート・試験等) 40% 			
12. 受講生へのメッセージ	「男らしくなさい」、「女らしくなさい」といった言葉に違和感を覚えた人、あるいは違和感など覚えないう人、どちらの人も是非この講義をとってください。なぜ違和感を覚えるのか、なぜ違和感を覚えないうのかの理由がわかります。また映像資料や参考資料を元にしてディスカッションも行います。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ジェンダーとは何か	事前学習	指定テキストの「はじめに」を読んで来ること。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第2回	ジェンダーとの遭遇	事前学習	指定テキストの第1章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第3回	「女」「男」とは誰のことか	事前学習	指定テキストの第2章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第4回	性別という壁：トランスジェンダー	事前学習	指定テキストの第3章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第5回	ジェンダーと性愛：セクシュアリティ	事前学習	指定テキストの第4章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第6回	「女らしさ」の非論理	事前学習	指定テキストの第5章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第7回	生物学と性差	事前学習	指定テキストの第6章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第8回	性差と性役割	事前学習	指定テキストの第7章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第9回	マンガとジェンダー	事前学習	指定テキストの第8章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第10回	性暴力とジェンダー	事前学習	指定テキストの第9章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第11回	セクハラへの視点	事前学習	指定テキストの第10章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第12回	ジェンダー不平等と企業システム	事前学習	指定テキストの第11章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第13回	性別役割分業と女性の身体	事前学習	指定テキストの第12章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第14回	リプロダクティブ・ヘルス	事前学習	指定テキストの第13章を読む。	
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
第15回	<私>の生 (ライフ) と性 (ジェンダー)	事前学習	第1回～第14回までの講義の内容を踏まえ、ジェンダーに関する自分の考えをまとめておく。	
		事後学習	15回に及ぶ講義の内容を整理し、疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	死生学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1332						
2. 授業担当教員	鈴木 康明								
4. 授業形態	講義を中心とするが主題によっては演習を行う場合がある。	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>Death Education デス・エデュケーション (生と死から学ぶいのちの教育) を枠組みに、死、生、性の事柄について多角的に考える。また、Grief Education グリーフ・エデュケーション (悲嘆教育) も内容に含み、死別の悲しみとそこのかかわりについても学ぶ。これらの学びを通して、人間の尊厳について、存在のかけがえなさについて、異質性と普遍性についてなどを理解することで、関係存在としての自らを見つめ直す。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 死、生、性、悲嘆を学ぶことで、一人一人の存在のかけがえのなさについて理解する。 2 あわせて、人間は単独では存在できない関係存在であることについて理解する。 3 これらから、生きていくことに対する肯定的な考え方の形成を目指す。 4 さらに、対人援助を志す「福祉、教育、心理」を学ぶ受講者のかかわり技術の形成を目指す。 5 ただし、技術は人間性により支えられるものであり、深く思索するパーソナリティの形成も目指す。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題：新聞、インターネットなどから幅広く「生命の尊厳」に関する情報の収集を行う。 課題：それについての自分の意見をまとめる。 →単元終了後にレスポンスシートを作成する。 レポート課題：死生学の講義を通し、関心をもった事柄を取り上げ内容と自分の考えをまとめる。A 4 40字×40行、2枚程度</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鈴木康明著『生と死から学ぶ』北大路書房。 【参考書】 鈴木康明監修『いのちの本』学研。 若林一美著『死別の悲しみを超えて』岩波書店。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 死生学に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 肯定的な人間観、人生観を形成するための努力をしようとしているか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の 60%</td> </tr> <tr> <td>3 日常の学習状況</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の 20%	2 課題レポート	総合点の 60%	3 日常の学習状況	総合点の 20%
1 授業への積極的参加	総合点の 20%								
2 課題レポート	総合点の 60%								
3 日常の学習状況	総合点の 20%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>パスカルは、「人間は、死と不幸と無知とを癒すことができなかったため、幸福になるために、それらのことについて考えないことにした」(『パンセ』中央公論社・世界の名著) と述べておられます。しかし、だからこそそれらについて受講者と考えてみたいのである。そのためには受講者一人一人の思考力、創造力、問題解決能力が必要であり、その形成を目指し、次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2. 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に勤しむ。 3. 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4. 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。 <p>なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることを理解しておく。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2. 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3. 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4. 受講者の質問には誠実に対応する。 5. 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守られない場合、厳格に対処する。 								
13. オフィスアワー	授業内にて周知する								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション ・講義の目的と内容、評価について ・受講態度と自己教育力について →座席、私語 etc.	事前学習	受講動機を確認しておく。						
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。						
第 2 回	(1) BEING 今在ること ・胎児条項と優生思想を中心に、いのちの「優劣」とはなにかについて考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 1～11 を読み要点を整理しておく。						
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。						

第3回	・ダウン症と中絶を中心に、存在する「価値」について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 12、資料2を読みそれぞれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第4回	(2) NOW AND HERE 今を生きる ・生涯にわたる発達と取り上げ、「関係存在」としての人間を考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 20～28 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第5回	・「青年期」の課題からこれからの自らのあり方を考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 31、資料2を読みそれぞれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第6回	(3) PILOT 先を生きる人々 ・「老い」を理解し、高齢者へのかかわりについて考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 pp. 40～56 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	教科書 pp. 29～31 を読みそれぞれについての意見をまとめる。
第7回	(4) SALAD BOWL ともに生きる ・異質性の課題から対人関係構築能力と「多文化共生」について考える →グループワーク 演習(ある物語)	事前学習	教科書 pp. 59～67 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第8回	(5) BE THERE ホスピスから学ぶ ・悪性新生物と痛みの事柄から、「かかわり」の意味について考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 76～84 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第9回	・ホスピス緩和ケアの活動からかかわりの意味について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 86、資料2を読みそれぞれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第10回	(6) LOST AND GAIN 死別の悲しみ ・「悲嘆と哀悼」から、人間存在の意義について考える。 →ペアワーク 演習(かかわり技術)	事前学習	教科書 pp. 104～108 を読みそれぞれについての意見をまとめる、
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第11回	・「グリーフケア」の理論と技術から、対人援助の意義について学ぶ。 →ペアワーク 演習(かかわり技術)	事前学習	教科書 pp. 94～103 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第12回	(※) 東日本大震災から ・自らの「これからの生き方」について考える。 →スライド	事前学習	2011年3月11日の行動を想起しておく。
		事後学習	グループワーク わかちあいの体験
第13回	(7) GIFT 賜物 ・デス・エデュケーションとグリーフ・エデュケーションの現状と課題について考える。 →グループワーク 情報交換	事前学習	教科書 pp. 118～127 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第14回	(8) WILL AND WISH ・臓器移植、「長寿願望」から人間の尊厳について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 pp. 136～144 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第15回	(※) ダギーセンターから ・親を亡くした子どもの悲しみとかかわりについて考える。 →DVD →グループワーク 討議	事前学習	これまでの講義を通して考えたこと、気がついたことをまとめておく。
		事後学習	小論文作成

期末試験

1. 科目名 (単位数)	社会教育計画 (2単位)	3. 科目番号	SSMP3344
2. 授業担当教員	川野 佐一郎		
4. 授業形態	講義と討議、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>急速な社会の変化に伴い、人々の生活や価値観も多様化し、生涯学習の振興や社会教育支援の在り方も大きく様変わりしている。地域における住民の学習や活動の拠点である社会教育施設も、指定管理者制度の導入など民間の活力を導入した施設へと移行している。社会教育を推進する中心的な役割を負っている社会教育主事は、生涯学習、社会教育に関する基礎知識を身につけるとともに、時代の変化に柔軟に対応できる問題解決能力や先見性、創造性、コミュニケーション能力等が求められるようになってきている。</p> <p>そこで、本科目では社会教育計画(個別事業計画)の策定を通して、社会教育主事としての資質を育成するとともに、社会教育事業の推進計画である社会教育計画及び社会教育行政の役割について理解を深める。</p>		
8. 学習目標	<p>次の目標を達成できることを目的とする。</p> <p>①社会教育の現状把握を通して、社会が抱える今日的課題について理解することができるようになる。</p> <p>②社会教育計画を策定する意義を理解し、策定の必要性を述べるようになる。</p> <p>③社会教育計画の種類、内容の学習を通して、策定に当たっての手順・方法を理解することができるようになる。</p> <p>④社会教育における施設や職員の専門性、及び対象となる学習者の特性を理解することができるようになる。</p> <p>⑤今日的課題の特徴を理解し、課題解決のための社会教育計画(個別事業計画)を策定することができるようになる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>①社会教育計画を研究するため、グループワーク、事例発表を行う。</p> <p>②社会教育計画を読み、計画の具体的事例について調査・分析・立案し、発表する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鈴木真理ほか編著『社会教育計画の基礎—新版—』学文社、2012。</p> <p>【参考書】 生涯学習・社会教育行政研究会編『生涯学習・社会教育行政必携 22年度版』第一法規。</p> <p>【教材】 プリント資料(必要に応じ作成し、授業時に配布)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 社会教育に関する政策及び計画プロセスについて深く理解し、説明できる力を身につけたか。(知識・理解)</p> <p>2. 社会教育に関する現代的課題について関心を持ち、地域の実情をふまえた社会教育計画の立案・策定ができる力を身につけたか。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>○評定の方法</p> <p>【授業への取り組み姿勢、授業内での課題提出、期末レポート等を総合して評価する。】</p> <p>1. 授業への取り組み姿勢 総合点の30%</p> <p>2. 授業内での課題提出(課題レポート・企画書作成等) 総合点の40%</p> <p>3. 期末課題(計画の立案・策定及び発表) 総合点の30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>① 授業中は緊張感と集中力を保って受講すること。</p> <p>② グループワークの役割分担には積極的な態度で参加すること。</p> <p>③ 正当な理由なしに欠席はしないこと。</p> <p>④ レスポンスシートには質問や意見、感想を積極的に記述すること。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス シラバスの説明(授業の進め方) 教育(学校教育、家庭教育、社会教育)について	事前学習	シラバスの内容を十分理解する。
		事後学習	教育の意義について「持続可能な社会づくり」という観点から調べる。
第2回	行政運営の基本と計画策定の意味 (総合計画、実施計画と予算編成方針)	事前学習	行政計画の種類、内容、ネットワーク型行政について情報収集する。
		事後学習	総合計画を具体化する予算編成の仕組みや関係性についてまとめる。
第3回	教育振興基本計画と社会教育計画の意義 (計画目標、課題設定、策定プロセス、内容、手順、市民参加、説明責任、評価等)	事前学習	社会教育計画策定のための手順や方法について分析する。pp.7~20
		事後学習	社会教育計画の意味、立案の具体的方法について整理、まとめる。
第4回	社会教育計画の基礎的な条件(1) (社会教育における“地域”の概念)	事前学習	“地域”“コミュニティ”の概念について調べる。pp.21~31
		事後学習	共同体としての地域、活動の主体となる地域が持つ意味について整理し、まとめる。
第5回	社会教育計画の基礎的な条件(2) (社会教育における学習者の位置づけ)	事前学習	学習者の特性と学習ニーズを調べる。pp.95~109
		事後学習	学習者を理解したうえでニーズに基づいた学習方法をまとめる。

第6回	社会教育計画の基礎的な条件(3) (社会教育における学習支援者－社会教育主事など 専門職の役割)	事前学習	学習支援の持つ意味について調べる。 pp. 110～120
		事後学習	学習支援の重要性と専門職の役割、資質、能力 について整理し、まとめる。
第7回	社会教育計画の基礎的な条件(4) (社会教育施設の設置目的と機能)	事前学習	社会教育施設の設置目的や現状について分析 する。pp. 32～47
		事後学習	公民館、博物館、図書館の目的と機能、在り方 を理解し、重要なポイントをまとめる。
第8回	事例研究(1-1):自治体の社会教育計画の実際 (グループワークによる計画づくり①)	事前学習	自治体における具体的な社会教育計画につい て調査研究する。pp. 7～20
		事後学習	地域や施設、学習者のニーズなど想定した社会 教育計画の重要点をまとめる。
第9回	事例研究(1-2):自治体の社会教育計画の実際 (グループワークによる計画づくり②)	事前学習	ワークショップなどの方法論を調査し、分析す る。
		事後学習	社会教育計画の全体像を把握し、重要点をまと める。
第10回	事例発表(1-3):自治体の社会教育計画の実際 (各グループによる成果発表及び討議)	事前学習	グループによるプレゼンテーションのやり方 を調査し、分析する
		事後学習	計画から実施のプロセスを見通し、評価、改善 へ至るようまとめる。
第11回	事例研究(2-1):個別事業計画としての社会教育計画 (グループワークによる計画づくり①)	事前学習	個別事業や学習プログラムづくりを通して計 画のポイントをふりかえる。pp. 79～94
		事後学習	市民、学習者とともにつくる社会教育計画のあ り方を整理し、まとめる。
第12回	事例研究(2-2):個別事業計画としての社会教育計画 (グループワークによる計画づくり②)	事前学習	学習者のニーズ把握に努め、どのように助言、 支援していくか調査し、分析する。
		事後学習	計画から実施へのプロセスの中で広報や周知 の仕方を整理、まとめる。
第13回	事例発表(2-3):個別事業計画としての社会教育計画 (各グループによる成果発表及び討議)	事前学習	参加者の学習ニーズに応える内容となってい るか分析する。
		事後学習	学習した成果をどのように生かしていくか整 理し、まとめる。
第14回	社会教育計画と調査	事前学習	量的調査と質的調査について分析する。 pp. 201-210
		事後学習	計画の基礎となる調査の方法について整理し、 まとめる。
第15回	社会教育計画と評価	事前学習	P-D-C-Aについて調査し、分析する。 pp. 157-170
		事後学習	評価方法における重要な視点を整理、まとめ る。

1. 科目名 (単位数)	社会政策論／社会政策 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2134 PSMP3308
2. 授業担当教員	酒井 明			
4. 授業形態	講義、学生による発表とディスカッション	5. 開講学期	春期／秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>現代社会は、様々な社会問題を抱えている。その問題群に対応する政策が社会政策であり、労働・人口変動・生活保障など幅広い分野をカバーしている。一方で、社会政策が十分に機能しているかという、不十分な点も多くあり、さらには政策自体が逆に問題を大きくしている場合もある。</p> <p>この授業では、そのような社会問題や、社会政策について勉強し、少しでも良い方向に向かわせるためにはどうすればいいかを、自分の住んでいる社会のことでとらえ、一緒に考えてもらいたい。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の様々な社会問題について、様々な視点からとらえられるようになる。 ・社会問題に対する社会政策について調べ、その概要を理解できるようになる。 ・新聞等で取り上げられている社会問題について考え、自らの意見が発表できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎回プリントを配布する、授業での発表を分担してもらう。詳細は、1回目の授業時に説明する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>毎回、プリントを配布する。</p> <p>【参考書】 玉井金五、大森真紀編『三訂 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2007。</p>			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の様々な社会問題や、それに対する社会政策の内容について、理解できるようになったか。 ・社会問題について根拠を基に考え、それに対する自らの意見が発表できるようになる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業態度および積極的参加度 (授業への取り組み・発言) 等 20%</p> <p>レポート・発表・コメントペーパー等 30%</p> <p>小テスト・期末試験等 50%</p>			
12. 受講生への メッセージ	日頃から新聞等のマスメディアに触れ、社会の動きについて考えておいてほしい。受講生の高い問題意識と、積極的な参加を期待する。期末試験は受講者数によっては行わないことがある。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション 社会政策の考え方とその課題	事前学習	「社会政策とはなにか」の全体像を理解しておくこと	
		事後学習	自分の発表の担当について確認しておくこと	
第 2 回	日本の裁判制度について 裁判員制度、陪審制度等	事前学習	配布された資料をよく読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第 3 回	労働法と社会制度 生活のなかの労働、労働時間のルール	事前学習	配布された資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第 4 回	労働時間、雇用、失業問題 休暇と休業、時間外労働	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第 5 回	労使関係と労働組合 失業の原因、雇用形態の多様化	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第 6 回	労働規制と雇用問題 各種保険、失業者への社会政策	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第 7 回	社会保障制度 医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第 8 回	日本の安全保障と外交政策) 憲法 9 条問題と他の条項の改正	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第 9 回	高齢社会 人口高齢化と高齢者福祉	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第 10 回	日本の危機管理体制 リスクと危機管理、防災、地震対策、テロ対策	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	

第11回	日本の医療制度 感染症対策、医療におけるリスクマネジメント」	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第12回	地球温暖化対策 京都議定書の欠陥、気候変動枠組み条約、日本の社会への影響」	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第13回	日本の治安を守る制度 警察の仕組み、検察の組織	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第14回	日本の家族制度と相続制度 相続の承認・放棄、親族、婚姻、離婚、遺言	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
第15回	外国人労働者 外国人労働者と外国人住民	事前学習	配布資料について読み、分からない言葉は調べておくこと。
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2107 SCMP2307 SBMP2107 SPMP2107						
2. 授業担当教員	若狭 清紀	5. 開講学期	秋期						
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表								
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い（積極的に数値を利用して正しく測定する）、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとする事である。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査（面接調査）の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。 2.社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。 3.社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。 4.量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。 5.グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。 6.分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。 7.社会福祉士国家試験受験に必要な基礎知識について説明できるようになる（受験予定学生の場合）。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の授業の学習の記録を、指定する書式で提出してもらう。 冬休み前に、面接調査をもとにしたレポートを提出してもらう。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 潮谷有二ほか、『社会調査の基礎』ミネルヴァ書房。 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深めることができたか。 2.社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解することができたか。 3.社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握することができたか。 4.量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習することができたか。 5.グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付けることができたか。 6.分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践することができたか。 <p>○評定の方法</p> <table> <tr> <td>小テストの評価基準</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業の態度や内容の把握など</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート・課題提出と発表</td> <td>30%</td> </tr> </table>			小テストの評価基準	40%	授業の態度や内容の把握など	30%	レポート・課題提出と発表	30%
小テストの評価基準	40%								
授業の態度や内容の把握など	30%								
レポート・課題提出と発表	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>基礎的な社会調査能力を習得することを目標として欲しい。 情報処理学習室のパソコンを使うので、ログインできるようにしておくこと。</p>								
13. オフィスアワー	<p>別途通知する。</p>								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスに目を通しておくこと。						
		事後学習	学習記録への記入						

第2回	社会調査の意義と目的、統計法の概要	事前学習	教科書序章 1・2・3 (pp.2~13)・5 (pp.17~21) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第3回	社会調査における倫理と個人情報保護	事前学習	教科書序章 4 (pp.13~16) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第4回	社会調査の種類	事前学習	教科書第1章 2(pp.27~33)、第4章 1・2(pp.84~91の24行目) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第5回	量的調査の方法	事前学習	教科書第2章 2・3 (pp.40~54) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第6回	仮説の設定と調査計画	事前学習	教科書第1章 1(pp.24~27)、第3章 2・3(pp.63~72)、第4章 2「方法の選択基準」(pp.91~92) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第7回	調査票の作成	事前学習	教科書第3章 4 (pp.72~79) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第8回	調査票の配布と回収、データ入力	事前学習	教科書第4章 3「回収率を高めるための工夫」(pp.95~96)、第5章 1 (pp.112~118) を読み、分からない言葉について調べておく。 Microsoft Excel による作表の方法について確認しておく。
		事後学習	学習記録への記入
第9回	量的調査の集計と分析(1) データの区分、度数分布と記述統計	事前学習	教科書第5章 2・3・4 (pp.119~128) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第10回	量的調査の集計と分析(2) 記述統計量とクロス集計	事前学習	教科書第5章 5・6 (pp.128~135の21行目) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第11回	量的調査の集計と分析(3) 散布図、相関係数と回帰分析、重回帰分析 問題演習	事前学習	教科書第5章 6「散布図」(pp.135~136)、第5章 6「関連性を示す統計量」(2) 量的変数 (pp.139~140) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入 問題演習の復習

第12回	質的調査の種類と方法	事前学習	教科書第4章4 (pp.96~105) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第13回	質的調査の分析方法 問題演習	事前学習	教科書第6章 (pp.150~167) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入 問題演習の復習
第14回	グループワークによるデータ分析、発表レジュメ作成	事前学習	自分が作成したレポートの内容を確認しておく。
		事後学習	学習記録への記入
第15回	グループ発表、まとめ	事前学習	授業内の問題演習に即して知識を確認する。
		事後学習	グループ発表の内容を振り返る。 授業全体の重要事項について確認する。

1. 科目名 (単位数)	社会病理 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP2306
2. 授業担当教員	久保 貴			
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究、同結果プレゼンテーション、学生との応答		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	心理学, 社会学の基礎的知識を理解しておくことが望ましい。			
7. 講義概要	<p>社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。</p> <p>(1) 社会病理とは何か、(2) 社会病理の発生・形成過程、(3) 社会生活に及ぼす影響等について、具体的には、犯罪や非行の問題、いじめや自殺(自死)の問題、格差社会の進展とワーキングプアの問題、青少年のモラトリアムや引き籠もりの問題、児童虐待や男女間のDVの問題、少子・高齢化がもたらす問題、福祉の施設化の問題、性の商品化の問題、カルト集団の問題など、新旧さまざまな「社会病理現象」を、主として社会学、さらに心理学や社会心理学の知見を踏まえて解説していく。</p> <p>これらの問題、病理の内容に応じてグループ研究などを実施し、受講生自らが主体的にそれらの社会病理現象を調査・考察、その打開策を模索していくという参加型の授業形態を採る。</p> <p>個々の病理現象の臨床的考察から、その社会的背景の分析、実践的対応の提示まで、社会病理学への要請に応える授業内容とする。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな社会病理について理解し、説明することができるようになる。 2. それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明することができるようになる。 3. グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになる。 4. 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機能について理解し、説明することが説明できるようになる。 5. その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義前にはテキストの該当箇所を読み、講義後は知識の定着をはかるため、再度、テキストやレジュメに目を通す。 2. 個人又はグループ毎にテーマを選定して調査研究をし、発表の準備作業をする。 3. 調査研究の結果をレポートにまとめ、資料として配付の上、各個人又はグループごとにプレゼンテーションをする。 4. 発表の順番は、第3回の講義で決める(下記の講義日程は暫定的なもの)。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 日本社会病理学会監修、高原正興・矢島正見編著『関係性の社会病理』学文社、2016。</p> <p>【参考書】 山本公平・高原正興・佐々木嬉代三 編著『社会病理のリアリティ』学文社、2006。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな社会病理について理解し、説明できるようになったか。 2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明できるようになったか。 3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになったか。 4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機能について理解し、説明することが説明できるようになったか。 5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・授業(個人又はグループ研究・発表)への参加度(40%)、 2 レポート提出・小テスト(60%)を総合して行う。受講生が多い場合は期末試験を行い、その結果を加味する 			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常に新聞・テレビ・インターネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会病理現象と思われる問題について、その社会的、心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的態度で受講されたい。 2. 授業に集中すること。私語、携帯・スマホ、ゲーム、飲食、中抜けなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。 			
13. オフィスアワー	初回の授業時において周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション —社会病理とは何か—	事前学習	各受講生1例ずつ現在の「社会病理」について調べる。	
		事後学習	講義・ディスカッションの内容をまとめる。事例研究のテーマを決めて、調査・研究・取りまとめの計画を立てる。	
第2回	現代の社会病理の見方	事前学習	教科書の序章を読む。	
		事後学習	講義・ディスカッションの内容をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。	
第3回	事例研究発表の準備	事前学習	担当したい事例(分野)について考えておく。	
		事後学習	担当者間で協議し、構想及び分担を決める。事例研究発表の準備をする。	
第4回	事例研究(少年非行)	事前学習	教科書の第3章を読む。	
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。	
第5回	事例研究(不登校)	事前学習	教科書の第1章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。	
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。	

第6回	事例研究 (いじめ)	事前学習	教科書の第2章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第7回	事例研究 (少子化・高齢化)	事前学習	教科書の第4章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第8回	事例研究 (ストーカー)	事前学習	教科書の第5章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第9回	事例研究 (ドメスティック・バイオレンス)	事前学習	教科書の第6章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第10回	事例研究 (児童虐待)	事前学習	教科書の第7章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第11回	事例研究 (非正規雇用、ワーキングプア)	事前学習	教科書の第8章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第12回	事例研究 (ホームレス)	事前学習	教科書の第9章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第13回	事例研究 (自殺)	事前学習	教科書の第10章を読む。担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。教科書の該当部分に再度目を通す。
第14回	事例研究 (ひきこもり)	事前学習	担当する事例について調査研究し、発表の準備をする。
		事後学習	担当個人又はグループの発表の内容と、その後の教員のコメント・講義等をまとめる。
第15回	まとめ (社会病理の改善・解決方策)	事前学習	教科書の終章を読む。
		事後学習	社会病理の改善・解決方策について学んだことをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP1103 SBMP1103 SPMP1103 PSMP1403
2. 授業担当教員	村川 浩一		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	社会福祉の基礎となる理念と福祉政策との関係について理解し、歴史的変遷や現代における課題についても考察を深める。その上で各国における福祉ニーズを踏まえた福祉政策の構成要素 (政府・市場・個人の役割等) について理解し、関連政策 (教育政策・住宅政策・労働政策等) との関係性についても考察を深める。		
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 授業の最後に当日の講義内容の要点、意見メモを提出する。 2. グループディスカッションは、検討内容をまとめ発表する。 3. レポート課題「現代日本の福祉課題」1000字程度にまとめ提出		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第4版 ー現代社会と福祉ー』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 6つの目標について関心を高め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) 6つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) 6つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ○評定の方法 (1) 平常点 (授業態度・発表・発言・学習課題など) 40%、 (2) 課題レポート 30% (3) 試験 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	本講義は社会福祉を学ぶ上で基本的・基礎的な内容が中心となっており、講義に集中しノートを作り復習することで、将来の福祉実習や仕事にも役立つ。意見や質問を遠慮せず出してみよう。		
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 講義のすすめ方、講師紹介 福祉とは、社会福祉とは	事前学習	教科書用意、シラバス確認
		事後学習	講義資料等の復習 (配付された資料による)
第2回	ディスカッション「福祉への関心」 ・社会福祉への関心、意見交流 ・社会福祉への動機づけ	事前学習	前回資料の復習、シラバス確認
		事後学習	講義資料等の復習 (配付された資料等)
第3回	社会福祉の歴史・欧米の動き(1)近代 (英国救貧法～新救貧法～ドイツ社会保険)	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習 (英国救貧法・新救貧法等)
第4回	社会福祉の歴史・欧米の動き(2)現代 1929年大恐慌、ベバリッジ報告他	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習 (ベバリッジ報告その他)
第5回	社会福祉の歴史・日本の動き(1)明治～戦前 (恤救規則、救護法ほか)	事前学習	シラバス確認、教科書熟読 (救護法その他)
		事後学習	講義資料等の復習 (救護法その他)
第6回	社会福祉の歴史・日本の動き(2)戦後～現代 (福祉3法・福祉6法、社会保障構造改革)	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習 (戦後日本の福祉法制度)
第7回	社会福祉士の理念 (日本国憲法、共感・社会連 帯・QOL・ノーマライゼーション)	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習 (日本国憲法ほか)
第8回	社会福祉の理念・ソーシャルワーク (1)リッチモンド、テイトマス他	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習 (リッチモンド・テイトマス他)
第9回	社会福祉の理念・ソーシャルワーク (2)診断主義～機能主義、市民参加	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習 (診断主義・機能主義ほか)
第10回	社会福祉の政策(1)福祉国家の役割 ・3つの福祉資本主義、日本は？	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習 (福祉国家・Eアンデルセン他) 9
第11回	社会福祉の政策(2)日本の福祉政策 ・少子高齢化、貧困問題への対応等	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習福祉政策・少子高齢化ほか

第12回	グループディスカッション「福祉政策への関心・福祉現場への理解」意見交流	事前学習	前回資料の復習、シラバス確認、
		事後学習	講義資料等の復習（配付された資料をもとに）
第13回	社会福祉における行政の役割(1) (国＝中央政府)厚生労働省	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（厚生労働省・地方自治体の機関）
第14回	社会福祉における行政の役割(2) (地方自治体・機関福祉事務所・児童相談所他)	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（福祉事務所・児童相談所ほか）
第15回	社会福祉における民間の役割(1) ・社会福祉法人、社会福祉協議会・農協・生協	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（社会福祉法人・社協その他）
第16回	社会福祉における民間の役割(2) ・ボランティア活動、NPO等	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（ボランティア等民間福祉活動）
第17回	直接援助技術(1)ケースワーク ・ケースワークの意義、過程等	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（個別援助技術）
第18回	直接援助技術(2)グループワーク他 ・グループワーク、ケースワーク（復習）	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（集団援助技術その他）
第19回	間接援助技術(1)コミュニティワーク ・コミュニティワークと地域社会他	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（地域社会・地域援助技術）
第20回	間接援助技術(2)スーパービジョン他 ・ケースワーク、コミュニティワーク（復習）	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（スーパーヴィジョン他）
第21回	関連援助技術(1)ネットワーク他	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（ネットワークほか）
第22回	関連援助技術(2)ケアマネジメント他	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（ケアマネジメントほか）
第23回	レポート課題「社会福祉の現状と課題について」、グループディスカッション	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（配布プリントによる）
第24回	試験予告（社会福祉のキーワードを復習し、理解を深める）	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（配布プリントによる）
第25回	社会福祉の課題(1)財源確保・配分、消費税率改訂（複数税率を含む）	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（福祉財源・消費税その他）
第26回	社会福祉の課題(2)人材の確保・養成・専門職制度、海外からの人材ほか	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（福祉人材・外国人労働者）
第27回	社会福祉の課題(3)少子高齢化への対応等 (保育所待機児童問題ほか)	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（保育その他・少子化対策）
第28回	社会福祉の課題(4)子育て支援、子ども食堂とは、低所得者支援等	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（低所得者支援ほか）
第29回	関連制度への理解（保健医療・住宅・教育・雇用労働その他）	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（関連制度施策など）
第30回	総括講義(1)社会福祉の課題、(2)海外に学ぶ (英国、ドイツ、スウェーデン等)	事前学習	シラバス確認、教科書熟読
		事後学習	講義資料等の復習（配布プリントによる）
期末試験			
15.実務経験を有する教員特記事項	川崎市役所民生局・社会福祉主事(福祉事務所・リハビリテーションセンター等)や厚生省大臣官房老人保健福祉部で福祉専門官(高齢者政策全般を担当)としての勤務経験の知見を活かし、「7」に示した講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	生涯学習概論 (4 単位)	3. 科目番号	GELA2329						
2. 授業担当教員	川野 佐一郎								
4. 授業形態	講義、演習 (調査研究、グループワーク含む)	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>「生涯教育・生涯学習」という考え方は、1960年代以降にわが国に導入され、教育改革の原理として成人継続教育としてキャリア教育、リカレント教育などに反映されている。また、地域住民の学習活動支援の充実が図られている。本科目は、「生涯学習」の基本的な考え方と実際の生涯学習活動について概説することを通して、受講者一人ひとりが、「生涯学習」の意義を理解し、自己の充実・キャリア形成に役立てることを目的とする。同時に、生涯学習社会の実現に向けた学習活動を支える専門職員である「社会教育主事」「司書」「学芸員」の役割について学び、学校と地域との連携や行政・民間レベルでの様々な取り組みについて理解を深めるとともに、生涯学習の国際的動向についても理解を深めることを目指す。</p>								
8. 学習目標	<p>この授業では、国際的動向をふまえて「生涯教育・生涯学習」の考え方を理解するとともに、学校教育、社会教育との関係について理解することを目標とする。</p> <p>そのために次の5つの到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「生涯学習」を支える理念・思想について理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 「生涯学習」の現代的意義を理解した上で、生涯学習社会に向けた学校と地域との連携や行政・民間レベルでの諸活動の役割について、わかりやすく説明することができる。 3) 「社会教育主事」に求められる役割を理解した上で、学校教育とは異なる学習者支援の方法を理解する。 4) 地域の生涯学習・社会教育の実践に関心をもち、研究課題を設定できる。 5) 「生涯学習」の国際的動向について説明することができる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習の今日的なテーマである「地域づくりと生涯学習」について考える。 2. 授業計画と関連して、受講者同士のグループワークを行う。 3. 社会教育の実践現場を積極的に訪問する。 4. 期末試験と課題レポートを作成する。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 今西幸藏著『生涯学習論入門【改訂版】』法律文化社、2017。</p> <p>【参考書】 授業において適宜紹介する。</p> <p>【参考資料】 中学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 生徒指導提要 (平成 22 年 3 月告示 文部科学省)</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会を生きていく上での生涯学習の意義とともに生涯学習に関する内外の多様な考え方を理解し、具体的に説明できる力を身につけたか。(知識・理解) 2. 我が国の生涯学習政策の動向、とくに地域創生や学校教育支援に果たす生涯学習関連職員の役割について理解した上で、生涯学習の課題について自身の見解をまとめ、表現できる力を身につけたか。(思考力・判断力・表現力) <p>○評定の方法</p> <p>【授業への取り組み姿勢、授業内での課題提出、期末レポート等を総合して評価する。】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への取り組み姿勢</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2. 授業内での課題提出 (小テスト・課題レポート等)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験またはレポート</td> <td>総合点の 50%</td> </tr> </table>			1. 授業への取り組み姿勢	総合点の 20%	2. 授業内での課題提出 (小テスト・課題レポート等)	総合点の 30%	3. 期末試験またはレポート	総合点の 50%
1. 授業への取り組み姿勢	総合点の 20%								
2. 授業内での課題提出 (小テスト・課題レポート等)	総合点の 30%								
3. 期末試験またはレポート	総合点の 50%								
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は緊張感と集中力を保って受講すること。 2. 社会教育の実践現場では積極的に調査研究すること。 3. グループワークの役割分担には積極的な態度で参加すること。 4. 正当な理由なしに欠席はしないこと。 5. レスポンスシートには質問や意見、感想を積極的に記述すること。 								
13. オフィスアワー	授業前後の休息时间								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション シラバスの説明 (授業の進め方)	事前学習	シラバスを調べ、その内容や構成、進め方を理解する。						
		事後学習	生涯学習社会の実現、その考え方、意義について整理し、まとめる。						
第 2 回	生涯学習の考え方 (第 1 章 1)	事前学習	教科書 (pp.1~6) を読み、分からない部分をチェックしておく。						
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。						
第 3 回	生涯学習の理論形成過程 (第 1 章 2)	事前学習	教科書 (pp.7~18) を読み、分からない部分をチェックしておく。						
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。						
第 4 回	ユネスコの人権教育 (第 2 章 1)	事前学習	教科書 (pp.19~24) を読み、分からない部分をチェックしておく。						
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。						

第5回	生涯学習と EU、OECD の動向 (第2章2)	事前学習	教科書 (pp.25~35) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第6回	生涯学習論の登場 (第3章1)	事前学習	教科書 (pp.36~43) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第7回	生涯学習支援の必要性 (第3章2)	事前学習	教科書 (pp.44~52) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第8回	これまでの学習のふり返り (グループワークと発表)	事前学習	生涯学習の歴史や計画、政策、実践の意味をあらためて確認する。
		事後学習	これからの生涯学習社会の実現に向けて、それぞれの考え方をまとめる。
第9回	生涯発達する人間の学び (第4章1)	事前学習	教科書 (pp.53~60) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第10回	生涯をとおした学習者の特徴 (第4章2)	事前学習	教科書 (pp.61~69) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第11回	生涯学習社会における社会教育 (第5章1)	事前学習	教科書 (pp.70~75) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第12回	生涯学習支援としての家庭教育 (第5章2)	事前学習	教科書 (pp.76~79) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第13回	生涯学習を理念とする学校教育 (第5章3)	事前学習	教科書 (pp.80~86) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第14回	生涯学習支援システムと関連施策の動向 (第6章1)	事前学習	教科書 (pp.87~94) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第15回	各教育機能相互の連携と体系化 (第6章2)	事前学習	教科書 (pp.95~104) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第16回	これまでの学習のふり返りと課題レポートへの取組み (調査、フィールドワーク、レポート作成の方法)	事前学習	これまで学習した内容をもとに課題レポートの作成ポイントをまとめる。
		事後学習	調査、ヒアリング、フィールドワークなど実践的方法によるまとめ方を整理し、提示する。
第17回	生涯学習と市民運動 (第7章1)	事前学習	教科書 (pp.105~112) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第18回	生涯学習社会のボランティア (第7章2)	事前学習	教科書 (pp.113~121) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第19回	社会教育行政の考え方 (第8章1)	事前学習	教科書 (pp.122~127) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。

第20回	社会教育の指導者と関係団体（第8章2）	事前学習	教科書（pp.128～133）を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第21回	社会教育の施設（第8章3）	事前学習	教科書（pp.134～138）を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第22回	これまでの学習のふり返りと課題レポートへの取組み（中間発表）	事前学習	生涯学習に関する現代的な課題を調べる。
		事後学習	課題レポートの作成にあたって中間的な振り返りをする。
第23回	社会教育の内容（第9章1）	事前学習	教科書（pp.139～144）を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第24回	社会教育の方法と形態（第9章2）	事前学習	教科書（pp.145～155）を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第25回	学習情報提供（第10章1）	事前学習	教科書（pp.156～165）を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第26回	学習相談（第10章2）	事前学習	教科書（pp.166～173）を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第27回	生涯学習社会のこれから—課題と展望—	事前学習	生涯学習社会の実現に向けて課題を調べる。
		事後学習	超高齢社会における生涯学習の具体的な課題や展望を整理し、まとめる。
第28回	1 グループの課題レポートの発表 - 生涯学習社会の実現に向けて課題 -	事前学習	準備した課題レポートの発表をする。
		事後学習	レポート作成上の要点など具体的な指摘事項について整理する。
第29回	2 グループの課題レポートの発表 - 超高齢社会での生涯学習のあり方 -	事前学習	準備した課題レポートの発表をする。
		事後学習	レポート作成上の要点など具体的な指摘事項について整理する。
第30回	まとめ - 生涯学習の課題と展望をふりかえって -	事前学習	これまでの学習内容を振り返る。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	障害者・障害児心理学／障害児・者の心理 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3117
2. 授業担当教員	佐藤 篤司			
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	身体障害、知的障害及び精神障害の概要とその特性を理解し、その心理的影響と併せて、それぞれの障害を持つことで発達段階に応じた心理的影響を理解する。また、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援とその人を取り巻く家族や社会のあり方や制度を学ぶ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害、知的障害及び精神障害の概要を理解し、一般的な心理的傾向を把握し、説明することができる。 2. 障害児・者を持った家族の心理を理解し、説明することができる。 3. 障害受容の一般的な過程とその実態について理解し、説明することができる。 4. 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援や制度を理解し、自分の考えを述べることができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	事前学習において、授業の中で取り扱う予定の内容について調べておき、事後学習では授業内で扱った重要語句を500字程度で纏めておくこと。レポート課題の内容は、各心理療法に関してのものとする。レポート課題の提出期限は授業最終日とする。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】指定しない。授業内で資料を配布する。			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準 次の1～4について理解し説明できるか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害、知的障害及び精神障害の概要と一般的な心理的傾向 2. 障害児・者を持った家族の心理 3. 障害受容の一般的な過程とその実態 4. 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援や制度 <p>○評定の方法 平常点 (授業態度・授業への参加・授業内諸活動) 40% まとめの課題 (テスト・レポート・発表などの活動) 60%</p>			
12. 受講生への メッセージ	初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。			
13. オフィスアワー	時間は決まり次第、授業内で周知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 講義の概要について説明する。 テーマごとに行われる発表のグループ編成を行う。	事前学習	シラバスの内容を確認する。	
		事後学習	グループで発表の打合せをする。	
第2回	障害児・者をめぐる動向 障害の捉え方 障害児・者への教育と福祉	事前学習	障害分類について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第3回	発達障害児・者の心理と支援 (1) LD・ADHDを中心に	事前学習	LD・ADHDについて調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第4回	発達障害児・者の心理と支援 (2) 自閉スペクトラム症を中心に	事前学習	自閉スペクトラム症について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第5回	発達障害児・者の心理と支援 (3) 発達障害児・者への教育的支援	事前学習	特別支援教育について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第6回	情緒障害の心理と支援	事前学習	情緒障害について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第7回	精神障害者の心理と支援 (1) 心因性の問題を中心に	事前学習	精神障害 (心因性) について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第8回	精神障害者の心理と支援 (2) 内因性の問題を中心に	事前学習	精神障害 (内因性) について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第9回	精神障害者の心理と支援 (3) 外因性の問題を中心に	事前学習	精神障害 (外因性) について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第10回	視覚障害児・者の心理と支援	事前学習	視覚障害について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第11回	聴覚障害児・者の心理と支援	事前学習	聴覚障害について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	
第12回	肢体不自由児・者の心理と支援	事前学習	肢体不自由について調べ、まとめる。	
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。	

第13回	障害児・者を持つ家族の心理と支援 障害受容と価値観の変容	事前学習	障害受容について調べ、まとめる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第14回	障害者の職業と生活の質の向上	事前学習	障害者の雇用について調べ、まとめる。
		事後学習	授業の配布資料をふり返る。
第15回	まとめ	事前学習	授業の内容について整理する。
		事後学習	レポートを作成し、提出する。

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉論 (2単位)		3. 科目番号	SSMP2101 SBMP2301 SPMP2301 PSMP2401
2. 授業担当教員	西村 明子			
4. 授業形態	講義・ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>障害者を取り巻く福祉制度・政策は、日々、劇的な変化を遂げている。そして、障害者のニーズも複雑・多様化している。実践現場では、これに適切に対処することができるソーシャルワーカーが求められている。本講義においては、激しく移り変わる障害福祉制度や情勢、さらには障害者の実情について学び、ソーシャルワーカーが主体的に問題解決に取り組むことができるよう知識を身につけていく。</p> <p>また、ソーシャルワーカーは多面的な視点を必要とすることから、新聞記事等、資料も用いて障害者問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ、福祉問題について共に考えていく。</p> <p>そして、障害者福祉論は、社会福祉士国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目となる。同国家試験の合格を目指すためには、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」が得点源となるような受験対策が必要となる。そのため、本講義においては、過去の国家試験を分析・検討し、それに沿った内容も講義する。</p>			
8. 学習目標	<p>障害者福祉論が終了した時点で、具体的に以下の点を理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 ・障害者福祉制度の発展過程 ・障害者自立支援制度と近年における改正状況 ・障害者福祉に関連する法令の概要 ・相談支援事業所の役割と実際 ・障害者福祉の専門職の役割と実際 ・障害者福祉の多職種連携・ネットワーク ・障害者自立支援制度と介護保険制度の関係 ・障害者権利条約の批准 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>講義を聞いているだけでは、その内容を理解することは難しい。そのため、学生の理解度を上げるため、講義内において課題を設定し、それを行うことを予定している。</p> <p>具体的には次のような課題である。①身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要、②バリアフリー新法、③社会福祉士国家試験過去問題 ④障害者総合支援法への改正点等</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第5版)』中央法規。</p> <p>参考図書等については随時提示する。</p>			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準 9つの学習目標を理解することが出来たか。</p> <p>○評定の方法 ①中間試験 40% ②期末試験 40% ③平常点 (授業への積極的参加度及びレポート) 20%</p> <p>尚、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得は認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本講義においては、学生の理解度を上げるため、さまざまな箇所において、学生の意見や感想、さらにはこれまでに学んだ福祉の知識について、質問していくという形式で講義を進めていく。その際、学生からの積極的な参加を望んでいるので、その内容が優れていると判断した場合には、大いに講義内評価として加味していく。授業の進捗状況・理解度にあわせ、授業内容の順番等を変更する場合もある。</p> <p>また、学生自身により講義の質を高めるため、以下の点に注意して受講しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講する。 ・理解できないことは、講義外において積極的に質問する。 ・明らかに態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。それでも改善が見られない場合には、たとえ全出席であってもF評価とする。 ・講義中、私語、居眠りは絶対にしてはならない。 			
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 障害者福祉とは何か	事前学習	教科書を準備し、シラバスに目を通してから講義へ臨むこと。	
		事後学習	配付プリントの復習。	
第2回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態① 障害者権利条約批准の主旨とわが国の動向	事前学習	第1章第1節を熟読し、障害者の現状を理解する。	
		事後学習	障害者の現状について、配布プリントの復習。	
第3回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態② 「障害者」の生活実態・国際生活機能分類 (ICF)	事前学習	第1章第2・3節を熟読し、ICFを理解する。	
		事後学習	ICF と医学モデル/社会モデルについて配布プリントの復習。	

第4回	障害者にかかわる法体系① 障害者基本法の概要 障害者差別解消法と合理的配慮	事前学習	第2章第1節を熟読し、障害者基本法を理解する。
		事後学習	障害者基本法・障害者差別解消法の概要について配布プリントの復習。
第5回	障害者にかかわる法体系② 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者支援法の概要と課題	事前学習	第2章第2～5節を熟読し、身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法を理解する。
		事後学習	身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者支援法の概要について配布プリントの復習。
第6回	障害者にかかわる法体系③ 障害者虐待防止法の概要と課題	事前学習	第2章第6・7章を熟読し、障害者虐待防止法・医療観察法を理解する。
		事後学習	障害者虐待防止法について配布プリントの復習。
第7回	障害者にかかわる法体系④ バリアフリー新法・障害者雇用促進法の概要と課題	事前学習	第2章第9・10章を熟読し、バリアフリー新法・障害者雇用促進法を理解する。
		事後学習	バリアフリー新法・障害者雇用促進法の概要について配布資料を復習。
第8回	第1回から第7回までのまとめ・中間試験	事前学習	第1回～第7回までを復習する。
		事後学習	中間試験で、出来なかったところを復習。
第9回	障害者総合支援法の概要①	事前学習	第3章第1節を熟読し、障害者総合支援法の概要を理解する。
		事後学習	障害者総合支援法の概要について配布プリントの復習。
第10回	障害者総合支援法② 支給決定のプロセス	事前学習	第3章第3節を熟読し、障害者総合支援法の支給決定のプロセスを理解する。
		事後学習	支給決定のプロセスについて配布プリントの復習。
第11回	障害者総合支援法③ 自立支援給付のサービス(1) (介護給付・訓練等給付)	事前学習	第3章第2節を熟読し、自立支援給付のサービスを理解する。
		事後学習	自立支援給付のサービスについて配布プリントの復習。
第12回	障害者総合支援法④ 自立支援給付のサービス(2) (自立支援医療・補装具・地域相談支援)	事前学習	第3章第2・4・5節を熟読し、自立支援給付のサービスを理解する。
		事後学習	自立支援給付のサービスについて配布プリントの復習。
第13回	地域生活支援事業・障害児支援のサービス (都道府県地域生活支援事業・高次脳機能障害)	事前学習	第3章第2・6・8・9節を熟読し、地域生活支援事業のサービスを理解する。
		事後学習	地域生活支援事業・障害児支援のサービスについて配布プリントの復習。
第14回	障害者の所得保障・国家試験過去問題(事例問題)	事前学習	第2章第12節(所得保障に関する)を熟読し、障害者の所得保障の理解と提示した国家試験過去問題を解いてくる。
		事後学習	障害者の所得保障について配布プリント・国家試験問題の復習。
第15回	まとめ・振り返り	事前学習	教科書・配布したプリントを復習し、解らないところを整理しておく。
		事後学習	期末試験に向けて復習。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1333
2. 授業担当教員	久保 貴		
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。 2. 犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。 3. 非行少年にかかる刑事司法機関、少年保護機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。 4. 事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。 5. 以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	アサイメントとしては、講義前にはテキストの該当箇所を読み、講義後は知識の定着を図るため、再度、テキストやレジュメに目を通す。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鮎川潤『少年非行 社会はどう処遇しているか』放送大学叢書 025、左右社、2014。</p> <p>【参考書】 伊藤富士江編著『司法福祉入門』第2版増補 上智大学出版発行、(株)ぎょうせい製作・発売、2015。 澤登俊雄『少年法入門 第6版』有斐閣、2015。 日本司法福祉学会編『改訂新版 司法福祉』生活書院、2017。 河原俊也編著『ケースから読み解く少年事件 実務の技』青林書院、2017。 法務省法務総合研究所『平成29年版 犯罪白書』昭和信息プロセス株式会社、2017。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 総合点の20% 2. 期末試験又は小テスト 総合点の40% 3. 課題レポート 総合点の20% 4. 日常の学習状況 総合点の20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常に新聞・テレビ・雑誌・インターネットなどマスメディアに関心を寄せ、社会事象である少年非行の問題について考える習慣を身に付けること。 2. 全員が授業に集中すること。私語、携帯電話・スマホ等、ゲーム、飲食、中抜け、居眠りなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。 		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、少年非行とは	事前学習	少年非行とは何かについて、参考書等を参照する。
		事後学習	少年非行とは何かについて、講義の要点をまとめる。
第2回	少年非行の定義、少年非行の動向	事前学習	教科書の第1章を読む。参考書の該当部分に目を通す。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第3回	少年非行の原因と説明理論	事前学習	非行(犯罪)原因論について参考書の該当部分に目を通す。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第4回	少年法の理念と基本構造と審判	事前学習	教科書の第2章を読む。参考書の該当部分に目を通す。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第5回	少年法の理念と基本構造と審判	事前学習	教科書の第2章を読む。参考書の該当部分に目を通す。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第6回	非行少年の処遇(1) 児童相談所と少年鑑別所	事前学習	教科書の第5章のIを読む。児童相談所、少年鑑別所、児童自立支援施設の機能について、参考書等を読んで授業に臨む。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第7回	非行少年の処遇(2) 少年院	事前学習	教科書の第5章のIIの1から4を読む。
		事後学習	講義の要点をまとめる。

第8回	非行少年の処遇(3) 少年院	事前学習	教科書の第5章のIIの5から8を読む。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第9回	非行少年の処遇(4) 保護観察所	事前学習	教科書の第7章を読む。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第10回	非行少年の処遇(5) 保護観察所	事前学習	教科書の第8章を読む。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第11回	少年の刑事事件	事前学習	少年の保護事件と刑事事件の違いについて調べておく。
		事後学習	少年の保護事件と刑事事件の差異について、整理する。
第12回	少年に対する刑罰の執行 少年刑務所	事前学習	少年刑務所の対象者及びどのような手続きを経て入所しているかについて調べておく。
		事後学習	少年院と少年刑務所の対象及び処遇の内容等について、比較をしながら、まとめる。
第13回	非行防止活動	事前学習	教科書の第4章・第7章の10を読む。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第14回	被害者支援	事前学習	教科書の第9章を読む。
		事後学習	講義の要点をまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	これまでの授業を振り返り、要点をまとめる。
		事後学習	講義全体を振り返る。
期末試験			
15.実務経験を有する教員特記事項	法務省や東京などの保護観察所、関東地方などの更生保護委員会での勤務経験の知見を活かし、「7」に示した講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1305						
2. 授業担当教員	攪上 哲夫								
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、日本及び海外の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>								
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性について、積極的に授業に参加し、理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>								
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート課題「人権教育の現状と課題について」 2. グループ発表の準備、一人一人が責任を持ってプレゼンテーションに備える。 3. 人権教育のテーマごと、ワークシートに考察し振り返りを行う。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>プリントによる教材を配布する。</p> <p>【参考図書】中野光、小笠毅編著『ハンドブック 子どもの権利条約』岩波書店。 中野睦夫編著『早わかり人権小事典』明治図書。 李修京編『グローバル社会と人権問題』明石書店、2014。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権教育の意義及び基礎を理解しているか。 2. 人権問題の現状や解決・改善の取り組みについて自らの問題として理解を深めているか。 <p>○評定の方法</p> <p>グループでの活動、授業への積極的参加度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 グループでの活動</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 積極的態度(発言、討議、取り組み等)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3 レポート等(小課題、試験を含む)</td> <td>総合点の50%</td> </tr> </table> <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>			1 グループでの活動	総合点の30%	2 積極的態度(発言、討議、取り組み等)	総合点の20%	3 レポート等(小課題、試験を含む)	総合点の50%
1 グループでの活動	総合点の30%								
2 積極的態度(発言、討議、取り組み等)	総合点の20%								
3 レポート等(小課題、試験を含む)	総合点の50%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>「人権」に対する掘り下げた理解を図り、各自が「人権」問題を自分の問題として意識できるように主体的に授業に参加してください。「子どもの人権」に視点を充てた授業を展開します。未来を担う子どもの人権が保障される社会の実現を目指していきましょう。</p>								
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	科目ガイダンス 人権とは何か① 世界人権宣言を読む	事前学習	人権とは何か。人権についての自身の体験について整理する。						
		事後学習	世界人権宣言の概要をまとめる。						
第2回	人権とは何か② 人権問題についての事例研究発表会	事前学習	新聞等で問題となった人権に関する問題の記事を集め、発表の準備を行う。						
		事後学習	人権の誕生について、資料を読み理解する。						
第3回	人権とは何か③ 人権は、いつ、どこで、どのようにして生まれたのか、資料より読み取る。	事前学習	人権・権利・自由・平等について資料よりまとめる。						
		事後学習	日本国憲法が保障している人権の体系表を整理する。						
第4回	子どもの人権問題① 児童権利宣言を読む 日本の事例「不登校の実際について」	事前学習	児童権利宣言を調べる。						
		事後学習	児童権利宣言と日本の不登校の関係について考察する。						
第5回	子どもの人権問題② 子どもの権利条約を読む① 日本の事例「いじめの実際について」	事前学習	子どもの権利条約について調べる。ワークシート						
		事後学習	子どもの権利条約と日本のいじめ問題について考察する。						
第6回	子どもの人権問題③ 子どもの権利条約を読む② 日本の事例「体罰・虐待について」	事前学習	子どもの権利条約について調べる。ワークシート						
		事後学習	子どもの権利条約と日本の体罰・いじめ問題について考察する。						

第7回	子どもの人権問題④ 子どもの権利条約を読む③ 日本の事例「子どもの貧困について」	事前学習	子どもの権利条約について調べる。ワークシート
		事後学習	子どもの権利条約と子どもの貧困について考察する。
第8回	子どもの人権問題⑤ 学生による子どもの人権問題発表会①	事前学習	学生発表会に向けての準備を行う。①
		事後学習	学生から提起された問題点を整理し、ワークシートにまとめる。①
第9回	子どもの人権問題⑥ 学生による子どもの人権問題発表会②	事前学習	学生発表会に向けての準備を行う。②
		事後学習	学生から提起された問題点を整理し、ワークシートにまとめる。②
第10回	子どもの人権問題⑦ 学生による子どもの人権問題発表会③	事前学習	学生発表会に向けての準備を行う。③
		事後学習	学生から提起された問題点を整理し、ワークシートにまとめる。③
第11回	子どもの人権問題⑧ 学生による子どもの人権問題発表会④	事前学習	学生発表会に向けての準備を行う。④
		事後学習	学生から提起された問題点を整理し、ワークシートにまとめる。④
第12回	人権教育「課題解決」① 人権教育・啓発白書 人権課題に対する取り組み「同和問題」	事前学習	人権教育・啓発白書 「同和問題」への取り組みについて調べ、予備知識を持つ。
		事後学習	「同和問題」の課題について、ワークシートにまとめる。
第13回	人権教育「課題解決」② 人権教育・啓発白書 人権課題に対する取り組み「外国人」	事前学習	人権教育・啓発白書「外国人」「の人権への取り組みについて調べ、予備知識を持つ。
		事後学習	「外国人」への人権侵害問題についてワークシートにまとめる。
第14回	人権教育「課題解決」③人権教育・啓発白書 人権課題に対する取り組み「HIV感染者・ハンセン病患者」	事前学習	「HIV感染者・ハンセン病患者」について、予備知識を持つ。
		事後学習	「HIV感染者・ハンセン病患者」等の人権問題についてワークシートにまとめる。
第15回	人権教育のまとめ	事前学習	学校における人権教育の在り方、今後の課題について考える。
		事後学習	人権尊重の日常化について考え、21世紀が人権の世紀といわれるようになるにはどうしたらいいか問題意識を持ち、自らの課題として今後考えていく。

1. 科目名 (単位数)	人体の構造と機能及び疾病/医学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1112 GELA1333 GELA1312
2. 授業担当教員	高橋 登志子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	原則として、「解剖生理学」履修後、または履修中であること。		
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉・心理のあり方についても学び、福祉専門職者・心理専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解できるようになる。 3. リハビリテーションの概要について理解し、説明できるようになる。 4. 生活習慣病とその予防につき、健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 興味・関心をもった医療(疾患・リハビリテーション・国際生活機能分類・健康)の内容を調べグループで発表する。 2. 人体の各部を図と名称を作成する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 第 1 巻 人体の構造と機能及び疾病-医学一般』中央法規。</p> <p>【参考書】必要時は授業中に提示する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造を自分の体と日常生活に照らし合わせてできるようになったか。 2. 生活習慣病の理解と予防を考察できるようになったか。 3. 少子高齢社会におけるリハビリテーションを理解し、必要性を説明できるようになったか。 4. 厚労省が推進の高齢者の QOL の基本的な考えを理解できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度や学習状況、レポート、期末テスト等を総合して評価する。授業への参加度 30%、レポート 30%、期末テスト 20%、発表能力 20%]</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、身体的・精神的特徴および疾病の基礎を学び、「人」を全人的にとらえられるようにします。そこから、人の健康についての考え方や終末期について自分の考えを述べられるようにしていきます。また、生活習慣病・メタボリックシンドローム、認知症、発達障害や精神障害等についても自分の考えを述べていきます。よって、事後学習では自己のノートや配布資料から学びを深めてほしい。</p> <p>授業に参加するにあたり下記のこと心がけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業には教科書を必ず持参すること、事前学習を必ず確認して参加してください。 ・授業中は通信手段の電源を切ってください。 		
13. オフィスアワー	<p>アドレス sannke_tt@yahoo.co.jp にご連絡ください。</p> <p>そのほかの詳細は、授業開始時に説明します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 人の成長・発達及び老化	事前学習	教科書のはじめにと目次、教科書 pp. 2~7 の人の成長・発達と老化について読んで臨む。
		事後学習	人の身体の成長・発達についてまとめる。
第 2 回	人の成長・発達及び老化	事前学習	教科書 pp. 8~23 の人の成長・発達と老化について読んで臨む。
		事後学習	人の精神の成長・発達に分けてまとめる。
第 3 回	身体構造と心身の機能①	事前学習	教科書 pp. 26~40 の心身の機能について読んで臨む。
		事後学習	心身の機能①についてまとめる。
第 4 回	身体構造と心身の機能②	事前学習	教科書 pp. 41~52 の心身の機能について読んで臨む。
		事後学習	心身の機能②についてまとめる。
第 5 回	疾病の概要 (生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、健康増進)	事前学習	教科書 pp. 54~65 の生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患について読んで臨む。
		事後学習	生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患についてまとめる
第 6 回	疾病の概要 (心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患)	事前学習	教科書 pp. 66~78 の心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患について読んで臨む。
		事後学習	心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患についてまとめる。

第7回	疾病の概要（消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患）	事前学習	教科書 pp. 79～89 の消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患について読んで臨む。
		事後学習	消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患についてまとめる。
第8回	疾病の概要（泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症）	事前学習	教科書 pp. 90～104 の泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症を読んで臨む レポート「人体の各部を図と名称を作成」提出。
		事後学習	泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症についてまとめる。
第9回	疾病の概要（神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア）	事前学習	教科書 pp. 105～121 の神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアを読んで臨む。
		事後学習	神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアについてまとめる。
第10回	障害の概要（視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由）	事前学習	教科書 pp. 124～138 の視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由を読んで臨む。
		事後学習	視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由についてまとめる。
第11回	障害の概要（内部障害・知的障害・発達障害）	事前学習	教科書 pp. 139～147 の内部障害・知的障害・発達障害について読んで臨む。
		事後学習	内部障害・知的障害・発達障害についてまとめる。
第12回	障害の概要（認知症、高次機能障害）	事前学習	教科書 pp. 148～156 の認知症、高次機能障害について読んで臨む。
		事後学習	認知症、高次機能障害についてまとめる。
第13回	障害の概要（精神障害）	事前学習	教科書 pp. 158～162 の精神障害について読んで臨む。
		事後学習	精神障害についてまとめる。
第14回	リハビリテーションの概要、国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、健康のとりえ方	事前学習	教科書 pp. 164～213 のリハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとりえ方について読んで臨む。
		事後学習	リハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとりえ方についてまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容の学びから自分の考えをまとめて臨んでください。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、全体をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3355
2. 授業担当教員	佐藤 篤司		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学概論、心理学的支援法(基礎、演習)、精神疾患とその治療、心理的アセスメント、関係行政論のすべてを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>本科目は、公認心理師国家試験受験資格の要件となる心理実習を行うための準備として、具体的場面を想定した心理支援に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。そのために、次の(ア)から(オ)について、基本的な知識を修得し、また具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)、事例検討を行う。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
8. 学習目標	<p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能を修得する (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握について基本的な知識を修得し、支援の計画の作成について架空事例の検討を通して学ぶ。 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解する。 (エ) 多職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解ができる。</p>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	事前学習において、授業の中で取り扱う予定の内容について各人で調べておき、事後学習では授業内で扱った重要語句を500字程度で纏めておくこと。レポート課題の内容は、各心理療法に関するものとする。レポート課題の提出期限は授業最終日とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】指定無し。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学習目標にあげた(ア)～(オ)の5項目について、基本的な知識の修得、ならびにロールプレイングや事例検討への積極的な参加を評価する。</p> <p>○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢50%、課題レポート50%で判断する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業を受けるだけで心理臨床の専門的な技術が身に付くというわけではない。授業の中で触れるさまざまな心理臨床の理論を学び、そして体験する中で、それぞれの流派の人間観や方法論が理解できるようになることを期待する。将来、専門職に就くことが期待されるが、社会生活の中での人との関わりの上でも役立つと考える。</p> <p>初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明する。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価する。授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。</p>		
13. オフィスアワー	時間帯が決まり次第、周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ①授業の全体像	事前学習	シラバスを熟読する。
		事後学習	講義概要、学習目標、成績評価の方法の詳細を確認する。
第2回	面接構造	事前学習	面接構造について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第3回	インテーク・アセスメント面接	事前学習	インテーク・アセスメント面接について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第4回	コンサルテーション・ガイダンス	事前学習	コンサルテーション・ガイダンスについて自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第5回	カウンセリング(心理療法)の諸派① —精神力動的(精神分析)アプローチ	事前学習	精神分析について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。

第6回	カウンセリング（心理療法）の諸派② —来談者中心のアプローチ	事前学習	来談者中心療法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第7回	カウンセリング（心理療法）の諸派③ —行動・認知行動的アプローチ	事前学習	行動・認知行動療法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第8回	心理検査①投映法	事前学習	投映法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第9回	心理検査②質問紙法	事前学習	質問紙法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第10回	心理検査③知能検査法	事前学習	知能検査法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第11回	事例検討①乳幼児期	事前学習	乳幼児期の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第12回	事例検討②児童・思春期	事前学習	児童・思春期の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第13回	事例検討③成人期	事前学習	成人期の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第14回	全体のまとめ	事前学習	レポート提出の準備をする。
		事後学習	授業のまとめをノートに記入する。
第15回	確認のワーク	事前学習	まとめたノートを見直しておく。
		事後学習	記入していなかった重要語句をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	心理演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3355
2. 授業担当教員	大島 朗生		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学概論、心理学的支援法(基礎、演習)、精神疾患とその治療、心理的アセスメント、関係行政論のすべてを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>本科目は、公認心理師国家試験受験資格の要件となる心理実習を行うための準備として、具体的場面を想定した心理支援に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。そのために、次の(ア)から(オ)について、基本的な知識を修得し、また具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)、事例検討を行う。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
8. 学習目標	<p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能を修得する (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握について基本的な知識を修得し、支援の計画の作成について架空事例の検討を通して学ぶ。 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解する。 (エ) 多職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解ができる。</p>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	事前学習において、授業の中で取り扱う予定の内容について各人で調べておき、事後学習では授業内で扱った重要語句を500字程度で纏めておくこと。レポート課題の内容は、各心理療法に関するものとする。レポート課題の提出期限は授業最終日とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】指定無し。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学習目標にあげた(ア)～(オ)の5項目について、基本的な知識の修得、ならびにロールプレイングや事例検討への積極的な参加を評価する。</p> <p>○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢50%、課題レポート50%で判断する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業を受けるだけで心理臨床の専門的な技術が身に付くというわけではない。授業の中で触れるさまざまな心理臨床の理論を学び、そして体験する中で、それぞれの流派の人間観や方法論が理解できるようになることを期待する。将来、専門職に就くことが期待されるが、社会生活の中での人との関わりの上でも役立つと考える。</p> <p>初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明する。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価する。授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。</p>		
13. オフィスアワー	時間帯が決まり次第、周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ①授業の全体像	事前学習	シラバスを熟読する。
		事後学習	講義概要、学習目標、成績評価の方法の詳細を確認する。
第2回	面接構造	事前学習	面接構造について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第3回	インテーク・アセスメント面接	事前学習	インテーク・アセスメント面接について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第4回	コンサルテーション・ガイダンス	事前学習	コンサルテーション・ガイダンスについて自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第5回	カウンセリング(心理療法)の諸派① —精神力動的(精神分析)アプローチ	事前学習	精神分析について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。

第6回	カウンセリング（心理療法）の諸派② —来談者中心的小ブローチ	事前学習	来談者中心療法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第7回	カウンセリング（心理療法）の諸派③ —行動・認知行動的小ブローチ	事前学習	行動・認知行動療法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第8回	心理検査①投映法	事前学習	投映法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第9回	心理検査②質問紙法	事前学習	質問紙法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第10回	心理検査③知能検査法	事前学習	知能検査法について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第11回	事例検討①乳幼児期	事前学習	乳幼児期の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第12回	事例検討②児童・思春期	事前学習	児童・思春期の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第13回	事例検討③成人期	事前学習	成人期の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジユメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第14回	全体のまとめ	事前学習	レポート提出の準備をする。
		事後学習	授業のまとめをノートに記入する。
第15回	確認のワーク	事前学習	まとめたノートを見直しておく。
		事後学習	記入していなかった重要語句をまとめる。

1. 科目名 (単位 数)	心理演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3355
2. 授業担当教員	平久江 薫		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	臨床心理学概論、心理学的支援法(基礎、演習)、精神疾患とその治療、心理的アセスメント、関係行政論のすべてを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>本科目は、公認心理師国家試験受験資格の要件となる心理実習を行うための準備として、具体的場面を想定した心理支援に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。そのために、次の(ア)から(オ)について、基本的な知識を修得し、また具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)、事例検討を行う。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>		
8. 学習目標	<p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する次の(1)から(4)の知識及び技能を修得する (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握について基本的な知識を修得し、支援の計画の作成について架空事例の検討を通して学ぶ。 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解する。 (エ) 多職種連携及び地域連携について理解し、説明できるようになる。 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解ができる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	各講義の前に内容について復習しておく。毎回の演習について事後に必ず自身を振り返っておく。レポート：心理学的支援の4つの柱について説明し、演習で得られた自身への気づきについて合わせて考察することを課題とする。詳細は講義終盤に通知する。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】指定なし 【参考書】福山 清蔵 著『入門カウンセリング ワークブック』日本・精神技術研究所		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学習目標にあげた(ア)～(オ)の5項目について、基本的な知識の修得、ならびにロールプレイングや事例検討への積極的な参加を評価する。</p> <p>○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4 以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度と参加姿勢 50%、課題レポート 50%で判断する。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>この授業は心理学的支援について様々な科目で学んだことを実践的に統合する演習科目である。架空の事例だが、クライアントと自分自身に真摯に向き合うつもりで、積極的に演習に参加することを求める。</p> <p>初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明する。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価する。授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理支援とは何か。 障害除去のアプローチと内面アプローチの観点	事前学習	心理支援の目指すものについて復習しておく
		事後学習	感情的混乱とこだわりの処理の仕方について検討し、実際に確かめてみる
第2回	コミュニケーション①傾聴 話を正しく聴き取る→事実・感情・価値観 情動に耳を傾ける 非言語的コミュニケーション	事前学習	カウンセリングにおける傾聴についてこれまで学んだことを見直しておく
		事後学習	5つの技法について確認し、実生活でその効果を確かめてみる
第3回	コミュニケーション②アサーション DESC アイメッセージ 非言語的メッセージ	事前学習	自分のコミュニケーションについてその特徴について考えておく。
		事後学習	難しい問題について DESC の考え方で表現し、その結果を見直してみる。
第4回	心理アセスメント①心理検査の実施 行動観察を含む心理アセスメント 正しく記録して、総合的な解釈をする	事前学習	自分でできる心理テストとなかなかできないものを選んておく。
		事後学習	YG をやってみて自分の特徴を知ってみる。
第5回	心理アセスメント②心理検査結果の伝え方 心理アセスメントのフィードバックについて 本人並びに関係者にわかりやすい説明	事前学習	他者への説明の仕方について復習しておく。
		事後学習	5因子性格検査の結果を他者に説明してみ、気持ちよく聞けたか確かめてみる。
第6回	心理面接①認知行動療法の実施 ロールプレイにて学ぶ	事前学習	なぜ今の時代は認知行動療法が使われることが多いのか、調べておく。
		事後学習	友人相手にストレスと心の4つの面との関係について確認してみる。

第7回	心理面接②認知行動療法の振り返り いくつかの注意点を挙げたワーク	事前学習	実際に自分がやった認知行動療法についてみなおしておく。
		事後学習	授業の中で指摘されたことをもう一度やってみる
第8回	地域支援 等① いじめの事件を取り上げ、問題点を検討する	事前学習	いじめの歴史的な変遷について調べておく。
		事後学習	事例についてもっと詳しく学んでみる。
第9回	地域支援 等② 立場を決めて劇にて演じて皆で何をどうすべきか検討する。	事前学習	人前で発表が出来るよう準備する。
		事後学習	何が問題でいじめが生じるか、その背景について調べてみる。
第10回	クライアントの理解と支援計画 DSM-5を学ぶ	事前学習	DSM-5を読んでみる。
		事後学習	統合失調症とウツについて DSM-5 の見解を確認してみる。
第11回	チームアプローチ① 産業・労働におけるメンタルヘルスを検討する	事前学習	産業界での今のメンタルヘルスの実体について考えておく。
		事後学習	メンタルヘルスを健全にする職場になるためには、どのような対策が必要か考えてみる。
第12回	チームアプローチ② 復職支援や従業員支援プログラムにおける公認心理師の役割	事前学習	復職支援や従業員支援プログラムとはどのようなものか調べておく。
		事後学習	産業界での公認心理師の役割について復習しておく。
第13回	他職種連携及び地域連携 学校と児童相談所、地域との関係を考える	事前学習	他職種と共働していく必要があるとはどういうことか考えておく。
		事後学習	連携がうまくいくための条件について考えてみる
第14回	事例検討①見立てと方針、現実的な支援、連携、倫理について実践的に復習する	事前学習	ここまでの学習内容を事前に再度見直しておく。
		事後学習	事例検討で自身が見落としたポイントについて復習する。
第15回	事例検討②見立てと方針、現実的な支援、連携、倫理について実践的に復習する	事前学習	ここまでの学習内容を事前に再度見直しておく。
		事後学習	事例検討で自身が見落としたポイントについて復習する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1111
2. 授業担当教員	中野 真也		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」を履修済みであること。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学び、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。また、心理学の基礎理論の理解を通して、心理学的思考方法の習得を促す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学としての心理学の基本的な考え方を身につける。 2. 心理学の成り立ちを理解したうえで心理学の主要な分野における代表的な研究知見に基づいた人の心の基本的な仕組み及び働きについて説明できるようになる。 3. 心理学の考え方や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 4. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で扱った内容の理解を確認するために、授業内で確認テストを数回実施します。 ・講義内容に関わるレポート課題 (1000字程度) を1回行う予定です。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】サトウタツヤ・渡邊芳之 (著)『心理学・入門 心理学はこんなに面白い 改訂版』有斐閣、2019。 【参考書】武藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 (著)『心理学』有斐閣、2018。 *必要に応じて、適宜資料を配布します</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.心理学が生まれてきた歴史を概観し説明することができる。 2.心理学系専門科目を学ぶための基礎となる人の心の基本的な仕組み及び働きについて説明できる。 3.心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができる。 <p>○評定の方法</p> <p>学則で定められた単位取得の条件(3/4 以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度 (授業への積極的参加) 30%、試験(小テスト等を含む)70%として算出した合計得点により成績評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>心理学は、これまでに蓄積されてきた研究知見を、日常生活や社会活動に応用できる学問です。講義の内容から、自分自身や周囲の人々を理解し、今後の社会生活に活かせる視点を獲得できるよう、積極的に取り組んでください。なお、「心理学入門」との内容の重複を避け、心理学のトピックを広く取り上げる目的のため、必要に応じて講義内容を変更することもあります。</p> <p>なお、講義の妨げになる私語やスマートフォンの使用、受講者の迷惑になる行為は、厳しく指導します。注意しても止めない場合は、減点の対象となりますので、ご承知ください。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：本講義の概要と目的	事前学習	本シラバスの内容を読んでおく
		事後学習	本講義の留意事項や成績評価の規準、講義の進め方などを理解し、見直しを持てるようにする
第2回	心理学ってなんだ？	事前学習	教科書 1～20 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 1～20 ページをまとめる
第3回	心理に関する支援を行う：臨床心理学の入り口	事前学習	教科書 21～34 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 21～34 ページをまとめる
第4回	心理に関する支援を行う：臨床心理学の概観	事前学習	教科書 35～46 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 35～46 ページをまとめる
第5回	性格は変えられるか：性格と個人差の心理学	事前学習	教科書 47～68 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 47～68 ページをまとめる
第6回	身近な人や社会との関係：社会行動の心理学① 他者理解とコミュニケーション	事前学習	教科書 69～76 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 69～76 ページをまとめる
第7回	身近な人や社会との関係：社会行動の心理学② 人を好きになる・人を助ける・傷つける	事前学習	教科書 77～85 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 77～85 ページをまとめる
第8回	身近な人や社会との関係：社会行動の心理学③ 集団・群衆心理	事前学習	教科書 86～90 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 86～90 ページをまとめる
第9回	世界をどうとらえるか：知覚の心理学	事前学習	教科書 149～157 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 149～157 ページをまとめる
第10回	世界をどうとらえるか：記憶の心理学	事前学習	教科書 158～162 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 158～162 ページをまとめる
第11回	世界をどうとらえるか：認知の心理学	事前学習	教科書 163～166 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 163～166 ページをまとめる

第12回	あなたはなぜそのように行動するのか：行動と学習の心理学	事前学習	教科書 167～192 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 167～192 ページをまとめる
第13回	心はどう探求されてきたか：心理学の歴史	事前学習	教科書 193～212 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 193～212 ページをまとめる
第14回	心を測る、データから心をさぐる	事前学習	教科書 127～148、213～236 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 127～148、213～236 ページをまとめる
第15回	まとめ：これまでの学びを振り返る	事前学習	講義を通して学んだ心理学の知見と、自分の身の回りの生活を関連付け、考えておく
		事後学習	今後の大学生活と心理学の学びに、つなげるようまとめておく

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1111
2. 授業担当教員	新井 洋輔		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」を履修済みであること。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学び、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。また、心理学の基礎理論の理解を通して、心理学的思考方法の習得を促す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学としての心理学の基本的な考え方を身につける。 2. 心理学の成り立ちを理解したうえで心理学の主要な分野における代表的な研究知見に基づいた人の心の基本的な仕組み及び働きについて説明できるようになる。 3. 心理学の考え方や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 4. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱うトピックに取り組む前に、授業時間外での自学自習を必須とします (本シラバスの「事前学習・事後学習」欄における○章とは、参考書を指します)。 ・オフィスアワー等でも質問を受け付けますが、知識の共有のため、授業時間内での質問を歓迎します。 		
10. 教科書・参考書・教材	資料は講義内で適宜配布する。 【参考書】 武藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 (著)『心理学』有斐閣。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1.心理学が生まれてきた歴史を概観し説明することができる。 2.心理学系専門科目を学ぶための基礎となる人の心の基本的な仕組み及び働きについて説明できる。 3.心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができる。 ○評定の方法 学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度(授業への積極的参加)30%、試験(小テスト等を含む)70%として算出した合計得点により成績評価を行う。		
12. 受講生へのメッセージ	心理学は、これまでに蓄積されてきた研究知見を、日常生活や社会活動に応用できる学問です。講義の内容から、自分自身や周囲の人々を理解し、今後の社会生活に活かせる視点を獲得できるよう、積極的に取り組んでください。なお、皆さんの理解度によっては講義内容を変更する場合があります。演習の課題への取り組みを評価しますので、欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語、居眠りは減点の対象となります。また、授業内での携帯電話・スマートフォンの使用は厳禁とします。初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。		
13. オフィスアワー	授業内で提示する。授業時間外での質問・相談を希望する場合は、yoarai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読して本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく。さらに、教科書の序章を熟読しておくこと。
		事後学習	講義で議論した「禁止事項」と、自分のもつ「常識」の感覚との差異について内観しまとめる。
第2回	心理学への関心と心理学の歴史	事前学習	専自分が「心理学」に対して持っている期待や関心を内観し、まとめておく。
		事後学習	配布したプリントにある、ヴントの功績とその後の心理学の歴史に関してまとめる。
第3回	心理学のイメージと学問としての心理学	事前学習	自分が「心理学」を学ぶことで「できるようになる」と期待していることをまとめておく。
		事後学習	講義で取り組んだワークから、「心理学の応用」にはどんなものがあるかを考え、まとめる。
第4回	感覚・知覚	事前学習	第3章(pp.55~78)のうち、Sec1、Sec2、Sec3(知覚の恒常性)、Sec5(文脈の効果)をまとめておく。
		事後学習	講義で挙げた keywords について復習するとともに、教科書 p.78 の問題に取り組む。
第5回	欲求	事前学習	第9章(pp.192~211)「動機づけ」を熟読し、まとめておく。
		事後学習	教科書 p.211 の問題に取り組むとともに、達成欲求以外の欲求についても調べる。
第6回	学習	事前学習	第5章(pp.103~124)を熟読し、2種の条件づけの過程についてまとめておく。
		事後学習	教科書 p.124 の問題に取り組む、条件づけの現実場面への応用について考える。

第7回	記憶	事前学習	第4章 (pp.79～102) を熟読し、記憶の過程、記憶の種類のプロセスについてまとめておく。
		事後学習	講義の最後に挙げる課題への回答を作成するとともに、忘却に関する知見を調べる。
第8回	発達	事前学習	第11・12章 (pp.235～261) を熟読し、ピアジェとエリクソンの理論をまとめておく。
		事後学習	p.280の課題を通して、青年期以降の各段階における発達課題達成の具体的方策をまとめる。
第9回	人格	事前学習	第10章 (pp.214～234) を熟読し、「類型説と特性説とは何か」についてまとめておく。
		事後学習	それぞれの節から見た自分について内観する。
第10回	心理測定	事前学習	これまでに受けたことのある性格テストにどんなものがあるかを列挙する。
		事後学習	性格テストに関する留意事項をまとめ、科学的性格測定の条件を再確認する。
第11回	社会 (対人)	事前学習	自分が人に好意をもつことになったきっかけにはどんなものがあるかを列挙しておく。
		事後学習	講義内で学習した観点から、事前学習で挙げたきっかけがどれに当てはまるか整理する。
第12回	社会 (集団)	事前学習	目次で第13章～第18章の項目を読み、社会心理学の分野を把握する。第13章の「互惠性」について学習し、p.302の②の課題に取り組む。
		事後学習	講義内で紹介された理論のそれぞれについて「名称」「その内容」「応用方法」を含めた計400字にまとめる。
第13回	臨床 (ストレス)	事前学習	「健康とは何か」について自分の言葉でまとめておく (200字程度。辞書は使わないこと)。
		事後学習	講義で学んだ内容を踏まえて、事前学習の内容を再度行い、内省・比較する。
第14回	臨床 (心理療法)	事前学習	プロの臨床家ではない自分が「心の病に悩む人にできること」の案をまとめておく。
		事後学習	講義で学んだ内容を踏まえて、事前学習の内容を再度行い、内省・比較する。
第15回	科学としての心理学	事前学習	科学としての心理学に求められる要件とは何かを「統計学」の知識も応用してまとめておく。
		事後学習	「客観性」と「再現性」とは何かを整理し、批判的思考のために必要な考え方についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法演習 I (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3370
2. 授業担当教員	鈴木 康明、成本 忠正、新井 洋輔、大島 朗生、河野 等、 末永 叔子、丹野 宏昭、谷口 恵子、佐藤 篤司、久保 貴、 平久江 薫、中野 真也 *指導教員を一人選び、論文作成のための指導を受ける授業です		
4. 授業形態	演習 (一部講義)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	心理学の基礎・応用分野における講義にて学習した内容を踏まえながら、心理学における主要文献の講読を行うとともに、文献内における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身につける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どのような心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。演習形式により、最終的には、心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解する。		
8. 学習目標	研究論文を作成するための文献研究を中心に学習し、自らの課題を発見し、研究計画を立てる。詳細については、担当教員が授業の中で提示する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	担当教員が授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	担当教員が授業の中で提示する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1.研究論文を作成するための文献研究ができる 2.文献研究の結果を元に、研究テーマを発見することができる 3.研究計画を立てることができる ○評定の方法 学則で決められた単位取得の条件を満たしていること(3/4 以上の出席)を前提として、担当教員の課した課題 (先行研究レビューのレポート、卒業論文のための研究計画書等) の提出(100%)をもって成績を評価する。		
12. 受講生への メッセージ	担当教員が授業の中で提示する。		
13. オフィスアワー	担当教員が授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
担当教員	授業内容		
鈴木 康明	【研究領域】臨床心理学、臨床死生学 【受講者へのメッセージ】対人援助活動に役立つ方法と技術について、芸術療法を中心に学びます。 【オフィスアワー】第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。		
成本 忠正	【研究領域】認知心理学 【受講者へのメッセージ】認知心理学分野のテーマを考えてもらいます。研究は実験法を用いてください。興味がある方はご相談ください。 【オフィスアワー】第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。		
新井 洋輔	【研究領域】社会心理学 (集団・組織心理学、対人心理学) 【受講者へのメッセージ】①集団・組織の発足・運営に関わる問題と対応策、②集団・組織内における 2 者の対人関係 (キャリア教育やスキル継承に関わる問題) の研究を歓迎します。「組織心理学」を履修していることが望ましく、研究手法は面接法と質問紙法が主になります。 【オフィスアワー】第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。		
大島 朗生	【研究領域】臨床心理学 【受講者へのメッセージ】将来、臨床心理士として働くことを希望している方々と一緒に学んでいければと思っています。 【オフィスアワー】第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。		
河野 等	【研究領域】高齢者福祉、国際政治 【受講者へのメッセージ】介護予防がどのようなシステムや概要になっており、どのような課題があるのか一緒に考えましょう。 【オフィスアワー】第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。		
末永 叔子	【研究領域】生理心理学、学習心理学、行動科学 【受講者へのメッセージ】実験的手法を用いて心理現象を解明していきます。専門分野の文献講読から始めて、徐々に実験手法を学んでもらいます。生理心理学と認知心理学を履修していることが望ましいです。 【オフィスアワー】第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。		

<p>丹野 宏昭</p>	<p>【研究領域】 社会心理学、対人心理学、社会調査</p> <p>【受講者へのメッセージ】 質問紙調査もしくは社会心理学的実験で測定できる現象であれば検討が可能です。心理学基礎実験・心理学研究法の講義で扱った知識・技術は習得済みであることが大前提としてすすめます。目的意識が明確であることが望まれます。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
<p>谷口 恵子</p>	<p>【研究領域】 ソーシャルワーク教育、児童福祉、精神保健福祉</p> <p>【受講者へのメッセージ】 ソーシャルワーク研究において最も大切なことは、「社会の役に立つ研究であること」と学生時代に教わりました。自身の中でも研究の意義を明確にし、取り組んでいただきたいなと思います。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
<p>佐藤 篤司</p>	<p>【研究領域】 臨床心理学、精神分析学、発達臨床心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 発達研究に興味のある人はご相談ください。質問紙調査による研究を基本とします。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
<p>久保 貴</p>	<p>【研究領域】 犯罪心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 犯罪心理学は、犯罪・犯罪者・犯罪への対応策について、心理学の方法を用いてアプローチします。統計解析を含む方法論の理解が大切です。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
<p>平久江 薫</p>	<p>【研究領域】 臨床心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】 臨床心理学、心理療法、青年期の心等に関心のある方はご相談下さい。自ら積極的に学ぶ姿勢を持つ方を歓迎します。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>
<p>中野 真也</p>	<p>【研究領域】 臨床心理学、家族療法・家族支援</p> <p>【受講者へのメッセージ】 資格は問いませんが、将来的に臨床実践に役立てようとする研究テーマが望ましいです。ご興味のある方は相談してください。</p> <p>【オフィスアワー】 第一回授業もしくは学生用掲示板にて通知する。</p>

1. 科目名 (単位数)	心理学実験／心理学基礎実験 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP2121 PSMP2142
2. 授業担当教員	末永 叔子・丹野 宏昭・平久江 薫		
4. 授業形態	講義・実習(グループ活動)・演習(グループ活動)・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「統計学」および「心理統計法」の単位を履修した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学を研究するための基礎となる各手法をとり上げ、生理、記憶、学習、認知、人格、社会等、心理学の主要な分野の知識を身につけながら、それらの知識や考え方に基づく科学的レポートの書き方を学ぶ。 実験等の体験を通して、心理学の理論を机上に終わらせることなく、身近なものとして体得することができる。 なお本科目は認定心理士の資格科目であり、受講生は規定数以上の実験等に参加し、レポートを提出することが義務付けられている。		
8. 学習目標	1.実験等の演習を通して、心理学を含む社会科学全般に必要な不可欠である各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し、身につける。 2.実験等の演習によって、実験や調査の計画立案の仕方を理解する。 3.実験等の演習によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理することができるようになる。 4.目的、方法、結果、考察から成る心理学研究レポートの記述の仕方を習得し、心理学的事象について、統計処理の結果を用いて、説明、解釈できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各実験を行った後に、その実験に関するレポートを提出する。 レポートの作成を通じて実験内容についての理解を深め、またレポート作成のルールを理解する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 木下富雄『教材心理学』ナカニシヤ出版。 【参考書】 授業中に適宜指示する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1.実験等の演習を通して、各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し身につけていること 2.実験等の演習によって、実験や調査の計画立案の仕方を理解していること 3.実験等の演習によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理できること 4.目的、方法、結果、考察から成る標準的な心理学研究レポートの記述の仕方を習得していること ○成績評価の評定方法 学則で決められた単位取得の条件を満たしていること(3/4 以上の出席)を前提として、授業態度(授業およびグループ発表への積極的参加)30%、課題レポート 70%として算出した合計得点により成績評価を行う。		
12. 受講生への メッセージ	教科書に指定している『教材心理学』を用いて実験を行いますので、初回の授業までに購入し、毎回忘れずに持ってきて下さい。第 1 回目の授業で『心理学基礎実験の手引き』を配布します。必ず初回の授業に出席し、手引きを受け取るとともに、授業の注意事項をよく聞き、その後の実験実習に備えること。この授業は全回出席を前提として授業を進めます。やむを得ぬ理由で遅刻・欠席する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること。 認定心理士の資格科目であり、6 種類以上の実験に参加し、それぞれの実験について計 6 本のレポートを提出することが義務づけられています。高い緊張感を持って授業に望み、学習目標を達成して下さい。また、携帯電話を授業中に操作しないこと。他の受講生に迷惑をかける行為(私語、居眠り、グループ活動に参加しないなど)をつつしむこと。 クラスによって実験順序が変更になることがあります。		
13. オフィスアワー	詳細な時間は授業開始後に指示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス	事前学習	『教材心理学』を購入し、授業に備える。
		事後学習	『心理学基礎実験の手引き (以降、手引き)』を熟読する。
第 2 回	実験計画法、実験レポートの構成。	事前学習	『手引き』のレポートに関する項目を熟読する。
		事後学習	授業内で学んだ内容をまとめる。
第 3 回	実験 1 : 4 枚カード 実験計画の立案および実験の実施	事前学習	『手引き』のレポートについての項目を復習し、授業で行う実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
第 4 回	実験 1 : 4 枚カード レポートの作成	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめ、レポートを完成させる。
第 5 回	実験 1 : 4 枚カード レポートの確認	事前学習	『手引き』のレポートの項目を復習する。
		事後学習	『手引き』をもとに自分のレポートの修正点をまとめる。
第 6 回	実験 1 : 4 枚カード レポートの修正	事前学習	『手引き』のレポートの項目を復習する。
		事後学習	『手引き』をもとにレポートを完成させる。
第 7 回	実験 2 : 個人空間 実験計画の立案	事前学習	前回の実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。

第 8 回	実験 2 : 個人空間 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 9 回	実験 2 : 個人空間 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 1 0 回	実験 2 : 個人空間 レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する
		事後学習	レポートを完成させる。
第 1 1 回	実験 3 : 生理指標による精神状態の測定 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 1 2 回	実験 3 : 生理指標による精神状態の測定 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 1 3 回	実験 3 : 生理指標による精神状態の測定 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 1 4 回	実験 3 : 生理指標による精神状態の測定 レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 1 5 回	実験 4 : ミュラーリヤー錯視 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 1 6 回	実験 4 : ミュラーリヤー錯視 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 1 7 回	実験 4 : ミュラーリヤー錯視 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 1 8 回	実験 4 : ミュラーリヤー錯視 レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 1 9 回	実験 5 : 学習 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 2 0 回	実験 5 : 学習 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 2 1 回	実験 5 : 学習 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる
第 2 2 回	実験 5 : 学習 レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 2 3 回	実験 6 : 知覚・認知実験 実験計画の立案 (1)	事前学習	どのような実験を行いたいか考える。
		事後学習	グループでの話し合いを元に、先行研究を調べ、実験計画を考える。
第 2 4 回	実験 6 : 知覚・認知実験 実験計画の立案 (2)	事前学習	各自実験計画書を作成する。
		事後学習	実験計画書を完成させる。
第 2 5 回	実験 6 : 知覚・認知実験 実験の実施 (1)	事前学習	実験手続きを確認する。
		事後学習	実験手続きに改善点があれば修正する。
第 2 6 回	実験 6 : 知覚・認知実験 実験の実施 (2)	事前学習	実験手続きを確認する。
		事後学習	実験データをまとめる。
第 2 7 回	実験 6 : 知覚・認知実験 実験結果の整理 (1)	事前学習	どの統計手法を使うのかを考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理を施したデータについて、結果をまとめる。
第 2 8 回	実験 6 : 知覚・認知実験 実験結果の整理 (2)	事前学習	未処理のデータを確認する。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 2 9 回	実験 6 : 知覚・認知実験 グループ発表 (1)	事前学習	発表準備を行うとともに個人レポートを作成する。
		事後学習	発表で指摘された点をどのように修正するか、今後の展望を考える。
第 3 0 回	実験 6 : 知覚・認知実験 グループ発表 (2)	事前学習	発表準備を行う。
		事後学習	発表で指摘された点をどのように修正するか、今後の展望を考える。

1. 科目名 (単位数)	心理学的支援法 (演習)	3. 科目番号	PSMP3151
2. 授業担当教員	中野 真也		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習 (ロールプレイなど)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学概論や心理学支援法 (基礎) の授業を履修していること。		
7. 講義概要	心理学的支援法とは、何らかの援助を求め人(クライアント)に対して、行動変容を目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことであると考えられがちである。しかし現代社会においては、心理援助を行う者の心構えは (カウンセリング・マインドと言われる)、対クライアントのみならず、地域支援やクライアント関係者、また大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。そこで、本演習では、カウンセリングの理論と技法を学ぶと共に、より広く訪問支援や地域支援、クライアント関係者支援などの援助についても学び、自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。また、守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮も学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めているのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法 (論理療法) を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術 (訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等) について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>各回の振り返り用紙記入とは別に、2つのレポート課題を行う。</p> <p>レポート課題1：ロールプレイ演習のための、自らが演じるクライアントロールを設定すること</p> <p>レポート課題2：授業内で学んだ多様な支援とその方法を踏まえて、ロールプレイ演習を通じての自分のコミュニケーションの特徴や課題をまとめ、今後の仕事や生活にどう活かしていくか、について記述する</p>		
10. 教科書・参考書・教材	配布資料をもとに講義を行う		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めているのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法 (論理療法) を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術 (訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等) について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>授業への参加 (出席、態度、発言) 50%</p> <p>レポート・発表・確認テスト 50%</p> <p>以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	さまざまな心理学的支援について学ぶとともに、主にロールプレイを中心とした演習を通じての体験的な学習になります。自らのコミュニケーションや人への関わりを見つめることになりませんが、その気づきを活用し、自分を変える機会にもなります。公認心理師などを目指す人はもちろんのこと、日常生活での人間関係にも活かせるための、コミュニケーション・トレーニングになるため、ぜひ積極的に受講してください。また、オブザーバー役も含めて、各回で一緒になったグループで、よりよくなるための話し合いと発表も、周りの人を大事にしながら人間関係を築く演習と考え、協力して取り組んでください。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション: 本講義の概要とコミュニケーション演習	事前学習	シラバスを読んで準備しておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第2回	力動的アプローチ (精神分析など) と、「気づきを促す」演習	事前学習	精神分析療法などについて、これまで学んだことをおさらいしておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第3回	人間性心理学的アプローチ (来談者中心療法など) と、「内的準拠枠を共感的に理解しようと努める」演習	事前学習	来談者中心療法について、これまで学んだことをおさらいしておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる

第4回	行動論的アプローチ（行動療法）と、「具体的な事実・行動を情報収集する」演習	事前学習	行動療法について、これまで学んだことをおさらいしておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第5回	認知論的アプローチ（認知療法）と、「考え方を知る」演習	事前学習	認知療法について、これまで学んだことをおさらいしておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第6回	システミックアプローチ（家族療法）と、「関係者の動き・関係を把握する」演習	事前学習	家族療法について、これまで学んだことをおさらいしておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第7回	関係者支援、地域支援、訪問支援と、「他の職種と連携するためのファーストコンタクト」の演習	事前学習	さまざまな支援の形とポイントについて、これまで学んだことをおさらいしておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第8回	相手の立場に立ってみる：「クライアントロールづくり」の演習	事前学習	事前に指示されたクライアントロールの作成のポイントについて、準備しておく
		事後学習	レポート課題1となる、自分が演じるクライアントロールについて、まとめる
第9回	かかわり行動：非言語的コミュニケーションと相手に合わせること	事前学習	配布テキスト「マイクロカウンセリング」について、ポイントをまとめておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる。また、クライアントロールを演じてみて、必要であれば修正を行う
第10回	相手と関係をつくる：関係形成のためのコミュニケーション	事前学習	良好な会話のキャッチボールについて、自身の経験を振り返り、まとめる
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第11回	質問技法：開かれた質問と閉ざされた質問	事前学習	マイクロカウンセリングの質問技法について、ポイントをまとめておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第12回	相手の語りを受け止める、共感する、言い換える：相手の語りのどこをどう受け止め返すか	事前学習	マイクロカウンセリングの明確化について、ポイントをまとめておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第13回	自分の意見を伝える：支援者が自分の考えを伝えること、助言や提案	事前学習	援助的コミュニケーションにおける支援者が自分の意見を伝えることについて、考えをまとめておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第14回	相手の語りをまとめて伝える：要約	事前学習	マイクロカウンセリングの要約について、ポイントをまとめておく
		事後学習	演習で体験したことを振り返り、まとめる
第15回	ロールプレイ演習のまとめ	事前学習	これまでのロールプレイ演習を振り返り、自分の特徴や課題について、まとめておく
		事後学習	自分の特徴や課題を総括し、今後どのように支援的なコミュニケーションを伸ばし、成長させていくかについて、レポート課題2の準備を兼ねてまとめる

1. 科目名 (単位数)	心理学的支援法 (演習)	3. 科目番号	PSMP3151
2. 授業担当教員	平久江 薫		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習 (ロールプレイなど)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学や心理学支援法 (基礎) の授業を履修していること		
7. 講義概要	<p>心理学的支援法とは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、行動変容を目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことであると考えられがちである。しかし現代社会においては、心理援助を行う者の心構えは(カウンセリング・マインドと言われる)、対クライアントのみならず、地域支援やクライアント関係者、また大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。そこで、本演習では、カウンセリングの理論と技法を学ぶと共に、より広く訪問支援や地域支援、クライアント関係者支援などの援助についても学び、自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。また、守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮も学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>各回の振り返り用紙、発表後のワークシート、期末レポート課題を課する。 レポート課題：授業内で学んだ個人またはコミュニティへの支援のうち一つをテーマとして選び、その支援法の要点と授業及び授業前後で自身が体験したことをまとめ記述する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】指定なし 【参考書】渡辺三枝子『新版カウンセリング心理学』ナカニシヤ出版、2018。 窪内節子編著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館、2003。 窪内節子編著『やさしく学べる心理療法の実践』培風館、2012。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 <p>○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 授業への参加(出席、態度、発言) 50% レポート・発表・確認テスト 50% 以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>カウンセリングの基礎で学んだことを踏まえて、心理学的支援法についてさらに知見を深めます。発表や演習形式の授業を通じ、自身のコミュニケーションやカウンセリング・マインドについて、また、それを周囲の人や社会に活かす視点について、身につけましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で周知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、自己点検チェックリスト	事前学習	心理学を学ぶ動機、学びたい内容について各自考えてくる
		事後学習	自己点検チェックリストの振り返りと今後の学習目標
第2回	カウンセリングの歴史と現代社会の問題について	事前学習	心理療法やカウンセリングの歴史について調べておく
		事後学習	それぞれの心理療法の歴史的つながりや流れをまとめる
第3回	心理療法各論①精神分析	事前学習	精神分析、フロイトの理論についてこれまで学んだことを復習
		事後学習	精神分析の概念や治療の流れについて振り返る
第4回	心理療法各論②来談者中心療法	事前学習	カール・ロジャーズの理論、カウンセラーの3条件について復習をしておく
		事後学習	日常場面で受容・共感の態度を心掛ける
第5回	心理療法各論③行動療法	事前学習	自身が苦手なもの、恐怖心を頂くものについて記述する
		事後学習	リラクゼーションの練習を日常的に行う
第6回	心理療法各論④認知行動療法	事前学習	ここ最近で不快な気持ちになった出来事についてメモする
		事後学習	認知のワークシートの記載

第7回	心理療法各論⑤遊戯療法	事前学習	自分が幼少期（10歳頃まで）に夢中になっていた遊びについて思い起こし記述する
		事後学習	遊びを通じた他者との交流についてまとめる
第8回	心理療法各論⑥芸術，表現療法	事前学習	自分自身の「創作活動」について考える
		事後学習	自分自身の日常における創作について考えをまとめる
第9回	心理療法各論⑦ストレスマネジメント	事前学習	自分自身のストレス解消方法について振り返っておく
		事後学習	今後の自身のストレス管理について検討する
第10回	心理療法各論⑧集団心理療法	事前学習	自身の集団活動についてのエピソードを振り返る
		事後学習	日常のグループ活動においてファシリテーションの視点を持つ
第11回	カウンセリング演習①	事前学習	カウンセリングの基本技法について復習しておく
		事後学習	演習における自分自身の体験について振り返りを記述する
第12回	カウンセリング演習②	事前学習	話しを聴く時の自身の課題について検討しておく
		事後学習	演習における自分自身の体験について振り返りを記述する
第13回	地域支援、危機介入について	事前学習	地域支援、危機介入について調べたことを記載しておく
		事後学習	今回の事例から学んだことをノートにまとめる
第14回	関係者に対する支援およびチーム援助	事前学習	クライアントを取り巻く人とはどのような人々か考える
		事後学習	システムズアプローチについて復習する
第15回	心理学的支援における倫理、まとめ	事前学習	カウンセラーが守るべき倫理事項とはどのようなものであるか想像する
		事後学習	倫理の復習と自己点検チェックリストの振り返り

1. 科目名 (単位数)	心理学的支援法 (演習)	3. 科目番号	PSMP3151
2. 授業担当教員	若松 直樹		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習 (ロールプレイなど)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学や心理学支援法(基礎)の授業を踏まえることで学習が深まります。		
7. 講義概要	心理学的支援法とは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、行動変容を目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことであると考えられがちである。しかし現代社会においては、心理援助を行う者の心構えは(カウンセリング・マインドと言われる)、対クライアントのみならず、地域支援やクライアント関係者、また大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。そこで、本演習では、カウンセリングの理論と技法を学ぶと共に、より広く訪問支援や地域支援、クライアント関係者支援などの援助についても学び、自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。また、守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮も学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みを解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>○評価のもとになるレポート課題 演習振り返り(複数回)および、期末レポート。 期末レポート:演習で体験したカウンセリングという関わり(人間関係)を通して、自身の行動やものの見方に変化があったか、なかったかほか、カウンセリングに対する意見をまとめなさい。 ○レポートの執筆量や提出期限などはおって示します。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】福島脩美『カウンセリング演習』金子書房, 2017		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みを解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 対クライアント以外の援助技術(訪問支援、地域支援、クライアント関係者への支援等)について理解できる。 4. 守秘義務等のクライアントのプライバシーへの配慮について理解できる。 5. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 <p>○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 授業への参加(出席、態度、発言) 50% レポート・発表・確認テスト 50% 以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	カウンセリングという他者との関わりや態度を、授業としての演習(実習)のみで身につけられないことは理解できるはずですが、カウンセリングに限らず、心の支援者としてどのように行動し対処すべきかをいつも自身に問う必要があります。それは学生である現在も学びを積み重ねた将来も同じです。自身のあり方と社会への関わりをいつも意識していきましょう。		
13. オフィスアワー	初回講義時にお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第2回	カウンセリングの外観(1)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第3回	カウンセリングの外観(2)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第4回	かかわり技法	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第5回	応答技法1	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第6回	応答技法2	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる

第7回	対決技法 1	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第8回	対決技法 2	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第9回	行動支援技法(1)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第10回	行動支援技法(2)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第11回	終結への技法と記録の整理(1)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第12回	終結への技法と記録の整理(2)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第13回	カウンセリング実地演習	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第14回	カウンセリングの展開(1)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
第15回	カウンセリングの展開(2)	事前学習	教科書の事前確認から演習課題を意識する。
		事後学習	演習内容を日常生活のなかでも試みる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学的支援法 (心理療法) / 心理療法概説 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3353
2. 授業担当教員	中野 真也		PSMP3382
4. 授業形態	講義、演習、討議	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	様々な心理療法の中から、クライアント中心療法、精神分析療法、行動療法、家族療法、芸術療法等の代表的な心理療法を取り上げ、その理論の成り立ちの歴史から概要と意義を学び、それぞれの技法を体験的に学習する。また、それぞれのアプローチにおける適応と限界についての理解を深めることで、クライアント自身や問題に適した心理療法を学ぶ。プライバシーへの配慮を含めた心理療法における倫理を学ぶ。		
8. 学習目標	1. 心理療法の諸理論・諸技法について、その背景となる考え方を理解し、それぞれの治療・援助の方法を具体的に知ること、その考え方や方法を日常生活に応用できるようになる。 2. 対人援助の場で、利用者の抱える問題に応じた心理的側面の援助方法を選ぶことができるようになる。 3. 訪問による支援や、地域支援の意義について理解している。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 講義ごとに、課題・学習レポートを作成する 2. 課題レポート (期末試験) を作成する		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】矢澤美香子 (編) 『基礎から学ぶ心理療法』 ナカニシヤ出版、2018		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 毎回の授業に対して、学生自身の書いたものを通して、基本的事項の理解度を評価する。 2. 授業への参加度として、教員からの質問への応答の頻度と根拠を持った発言かどうかを評価する。 3. 課題レポート (または、期末試験) の文章が論理的であるかどうか、および基本的事項が盛り込まれているかどうかを評価する。 ○評定の方法 授業内の課題シート・学習ノート、授業態度・参加姿勢、課題レポート等を総合して評価する。 1. 授業内の課題シート・学習ノート 総合点の30% 2. 授業態度・参加姿勢 総合点の10% 3. 課題レポート (期末試験) 総合点の60%		
12. 受講生へのメッセージ	心理療法の理論は、その成り立ちや目的によって対象とするところが異なる一方で、共通する部分もあります。本講義では、心理療法の代表的な基礎理論を取り上げ、その定義、歴史、病理論、アセスメント論、治療論などについて学びます。さまざまな心理援助の考え方や方法を理解し、人の心の悩みへとアプローチする手がかりを得られることが目的です。 そのため、表面的ではなく、身になる知識になるよう積極的に講義に参加してください。また、講義や他の人の迷惑になる行為、身勝手なふるまいはしないようにしてください。場合によっては厳しく指導することもあります。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：心理療法とはなにか	事前学習	教科書 3～24 ページを読んでおく。
		事後学習	「心理療法」「カウンセリング」「精神療法」などの用語の意味と違いについてまとめる。
第2回	クライアント中心療法と内的準拠枠を共感的に理解しようと努めること	事前学習	教科書 29～41 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 29～41 ページをまとめる。
第3回	精神分析的アプローチ (精神分析療法)	事前学習	教科書 42～53 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 42～53 ページをまとめる。
第4回	分析心理学、アドラー心理学	事前学習	教科書 54～78 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 54～78 ページをまとめる。
第5回	行動療法	事前学習	教科書 79～92 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 79～92 ページをまとめる。
第6回	認知療法	事前学習	教科書 93～104 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 93～104 ページをまとめる。
第7回	システムック・アプローチ (家族療法)	事前学習	教科書 208～218 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 208～218 ページをまとめる。
第8回	ナラティブ・セラピー	事前学習	教科書 197～207 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 197～207 ページをまとめる。
第9回	グループアプローチ	事前学習	教科書 242～266 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 242～266 ページをまとめる。
第10回	コミュニティ・アプローチ	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	配布資料をまとめる
第11回	非言語的アプローチ (遊戯療法、芸術療法など)	事前学習	教科書 219～241 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 219～241 ページをまとめる。
第12回	ブリーフセラピー (解決志向アプローチなど)	事前学習	教科書 186～196 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 186～196 ページをまとめる。

第13回	日本発祥の心理療法：動作法を中心に	事前学習	教科書 163～174 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 163～174 ページをまとめる。
第14回	心理療法のまとめ	事前学習	配布資料を読んでおく。
		事後学習	配布資料をまとめる。
第15回	訪問による支援、地域支援、心理療法の倫理	事前学習	配布資料を読んでおく。
		事後学習	配布資料をまとめる。
15.実務経験を有する教員 特記事項	病院でのカウンセラー、県及び市のスクールカウンセラーとしての実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	心理学統計法／心理統計法 (2単位)	3. 科目番号	PSMP1141 PSMP1120 SPMP1120
2. 授業担当教員	新井 洋輔		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「統計学」の単位を履修していること。		
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の演習内容についての予習と、自宅での復習が必須となるため、本シラバスの事前学習・事後学習の内容を熟読して臨むこと。</p> <p>レポートの提出はメールにて行うため、大学発行のメールアドレスを利用可能な状態にしておくこと。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 岸学著『SPSS によるやさしい統計学 (改訂版)』オーム社。</p> <p>【参考書】 山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準： ①研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができるか ②データに合った解析法を選択できるか ③選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができるか ④解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができるか</p> <p>○評定の方法： 受講態度、演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。 授業への参加・受講態度：30% 課題達成・レポート：40% 小テスト：30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>春期の「統計学」「情報処理演習Ⅰ」「文章表現」に継続する内容ですので、しっかり復習してから臨んでください。なお、皆さんの理解度・達成度によって講義内容を変更する場合があります。</p> <p>わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語・居眠りは減点の対象となります。また、授業内での携帯電話使用の禁止等、情報処理室の利用ルールを厳守すること。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく。
		事後学習	情報処理室の利用可能時間を調べ、大学所定の手続きに従ってコンピュータを操作する。
第2回	「統計学」達成度確認テスト	事前学習	春期の「統計学」の講義内容 (尺度水準・記述統計・推測統計) について復習しておく。
		事後学習	達成度確認テストの中で理解度が足りなかった点について、「統計学」の教科書・資料で十分に知識を補充する。
第3回	データの入力と尺度水準:Excel・データの変換と整形:Excel→SPSS	事前学習	春期「情報処理演習Ⅰ」におけるエクセルの基本操作を復習するとともに、教科書「統計解析の準備をする」を熟読しておく。
		事後学習	教科書にある仮想データを入力し、SPSSのデータに変換する。
第4回	レポート報告の基本的なルールについて	事前学習	大学発行のメールアドレスのIDおよびパスワードを確認し、テスト送信をしておくこと。
		事後学習	エクセルファイルを添付し、テストメールを送信する。
第5回	1変数の記述一度数分布・代表値・散布度	事前学習	教科書「記述統計 データをわかりやすく表現する」を熟読しておく。
		事後学習	講義内で扱った変数以外について代表値と散布度を求めるとともに、グラフで出力する。

第6回	統計的仮説検定の意義	事前学習	春期の「統計学」で学習した統計的仮説検定（z検定およびt検定）の内容を復習しておく。
		事後学習	講義内で配布するレジュメに沿って「統計的仮説検定」の手順をまとめる。
第7回	関係の分析1－相関係数と無相関検定1：解析と読み取りの基本手順－	事前学習	「第8章 関係进行分析する」の「間隔・比率尺度同士の関係（pp. 103～）」を熟読しておく。
		事後学習	講義で扱った「学習意欲得点」以外について相関係数を算出してエクセルの表にまとめる。
第8回	関係の分析3－2×2のクロス集計表におけるφ係数の算出と χ^2 検定－	事前学習	「第8章 関係进行分析する」の「名義尺度同士の関係（pp. 122～）」を熟読しておく。
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果とφ係数を報告にまとめる。
第9回	関係の分析4－2×3のクロス集計表におけるVの算出と χ^2 検定後の残差分析－	事前学習	「第8章」の「名義尺度同士の関係」（前回箇所+p. 131 クラメールのV）を熟読しておく。
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果とVを報告にまとめる。
第10回	差の分析1：対応のないt検定	事前学習	「第9章 差进行分析する」を熟読し、検定の選択のチャート図を理解するとともに「対応なしのt検定」の手順を把握しておく。
		事後学習	「使用教材」によって「試験2回目」に有意な差がみられるか検定を実施し報告にまとめる。
第11回	差の分析2：対応のあるt検定	事前学習	「第9章」の「差进行分析する」のうち、「対応ありのt検定」の手順を把握しておく。
		事後学習	「試験2回目」と「試験3回目」に有意な差がみられるか検定を実施し、報告をまとめる。
第12回	差の分析3：対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第10章」の「差进行分析する（分散分析法）」（教科書 pp. 159～）のうち、一要因分散分析の手順を把握しておく。
		事後学習	「3つの部署」で「試験1回目」に差があるかを検定し、結果を報告にまとめる。
第13回	差の分析4：対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第10章」の「差进行分析する（分散分析法）」（教科書 pp. 159～）のうち、一要因分散分析に続く多重比較の意味と手順を把握しておく。
		事後学習	「3つの部署」で「試験1回目」に差があるかを検定し、多重比較（tukeyのHSD法）の結果を含めた報告をまとめる。
第14回	差の分析5：対応のある一元配置分散分析と多重比較	事前学習	「第10章」の「差进行分析する（分散分析法）」（教科書 pp. 159～）のうち、対応のある一要因分散分析の手順を把握しておく。
		事後学習	講義内で指示した以外の変数について一要因分散分析を実施し、報告にまとめる。
第15回	統計データの読み取りとは	事前学習	新聞記事など、身近にある統計データを根拠とした議論を用意する。
		事後学習	「科学的報告におけるクリティカル・シンキングの意義」について400字にまとめる。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	心理学統計法／心理統計法 (2単位)	3. 科目番号	PSMP1120
2. 授業担当教員	丹野 宏昭		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「統計学」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回、当該のテーマに関するワークに取り組み授業の最後にそれを提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】岸学 (著)『SPSS によるやさしい統計学 第2版』オーム社、2012。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができるか ②データに合った解析法を選択できるか ③選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができるか ④解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができるか <p>○評定の方法：</p> <p>受講態度、演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。</p> <p>授業への参加・受講態度：30%</p> <p>課題達成・レポート：40%</p> <p>小テスト：30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的に参加すること。 2. 正当な理由なく、遅刻、欠席、早退をしないこと。 3. 授業の妨害行為および他者への迷惑行為 (私語、居眠り、携帯の使用、実習やディスカッションへの不参加など) をしないこと。これらの不適切な行為がみられた場合は厳格に対処する。 4. 本科目は数学の授業であり、理解のためには一定以上の集中、努力、予習・復習などが求められます。統計学について真に興味のある者、必要性がある者以外は受講しないでください。単なる単位取得のための科目としては全くおすすめできません。 5. 本科目は事前学習、事後学習が特に重要になります。これらを行わないと、実質的に授業が成り立ちません。 		
13. オフィスアワー	簡単な質問であれば授業前後の時間に受け付ける。オフィスアワーについては最初のガイダンスで周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス：オリエンテーション 統計学とはなにかについて考える	事前学習	統計学について知っていることをまとめてくる。可能であれば教科書を手し、pp.2～7を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第2回	SPSS について：データ入力と分析の方法、Excel とのデータ互換について学ぶ	事前学習	Excel の使い方をおさらいしてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第3回	心理学と統計学：心理学における統計学の位置づけ、活用などについて学ぶ データの要約 (1)：データとは何かについて理解し、さまざまな代表値について学ぶ	事前学習	教科書 pp.8～33 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第4回	データの要約 (2)：分散と標準偏差、偏差値、標準化について学ぶ	事前学習	教科書 pp.34～41 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第5回	正規分布の特徴とその利用：正規分布とその利用について学ぶ	事前学習	教科書 pp.80～89 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第6回	統計的仮説検定：検定の意味と意義について学ぶ	事前学習	教科書 pp.108～125 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第7回	関係の分析 (1)－相関係数と無相関検定 1：解析と読み取りの基本手順－	事前学習	教科書 pp.44～59 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出

第8回	関係の分析(2) - 2×2 のクロス集計表における ϕ 係数の算出と χ^2 検定 -	事前学習	教科書 pp.62~65、pp.134~141 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第9回	関係の分析(3) - 2×3 のクロス集計表における V の算出と χ^2 検定後の残差分析 -	事前学習	教科書 pp.62~65、pp.134~141 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第10回	差の分析(1): 対応のない t 検定	事前学習	教科書 pp.144~149 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第11回	差の分析(2): 対応のある t 検定	事前学習	教科書 pp.150~157 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第12回	差の分析(3): 対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	教科書 pp.162~177 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第13回	差の分析(4): 対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	教科書 pp.162~177 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第14回	差の分析(5): 対応のある一元配置分散分析と多重比較	事前学習	教科書 pp.178~183 を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第15回	まとめ: 各種の分析方法をおさらいする	事前学習	これまでの分析方法をおさらいする。
		事後学習	これまでの分析方法をおさらいし、まとめる。ワークシートの作成と提出

1. 科目名 (単位数)	心理検査法演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3324						
2. 授業担当教員	大島 朗生								
4. 授業形態	演習およびグループワーク	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「心理検査法」の単位を修得した後に履修することが望ましい。								
7. 講義概要	心理臨床の現場でよく使用されている主な質問紙法検査や投影法検査等の理論、実施方法、結果の解釈について学習する。自らが心理検査の実施者と被検者の役割をとることによって、心理検査の目的、特徴、有効性や限界について体験的に学ぶとともに、他のアセスメント方法とも合わせて総合的に事例を理解できるようになることを目指す。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の種類・特徴および長所・短所を理解し、説明できるようになる。 2. 心理検査の実際を体験的に学び、使用できるようになる。 3. 心理検査の結果からのアセスメントができるようになる。 4. 心理検査における心理臨床の倫理について理解し、説明できるようになる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	演習で取り扱う「知能検査」と「性格検査」についてレポート課題を課す。 レポート課題は全部で2本程度課す予定でいる。								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 津川律子・遠藤裕乃 編『心理的アセスメント (公認心理師の基礎と実践 第14巻)』遠見書房、2019。 ※必要に応じて、適宜資料を配布する。 ※心理検査に関しては、実習を伴うために別途実費 (検査用紙代等) が必要な場合がある。 委細は開講時に説明する。</p> <p>【参考書】 村上宣寛・村上千恵子 著『三訂 臨床心理アセスメントハンドブック』北大路書房、2019。 上野一彦・松田修・小林玄・木下智子 著『日本版 WISC-IV による発達障害のアセスメント - 代表的な指標パターンの解釈と事例紹介 - 』日本文化科学社、2015。 アウレリオ・プリフィテラ、ドナルド・H・サクロフスキー、ローレンス・G・ワイス 編/上野一彦 監訳/上野一彦・バーンズ亀山静子 訳『WISC-IV の臨床的利用と解釈』日本文化科学社、2012。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に熱心に取り組み、積極的に発言・発表をしたか。 2. レポートは、演習・検査を踏まえて、要点を分かりやすくまとめる力がついたか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 受講態度・参加姿勢</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>2. 実施した演習 (心理検査) ごとのレポート</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>3. 科目終了レポート</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> </table>			1. 受講態度・参加姿勢	総合点の 30%	2. 実施した演習 (心理検査) ごとのレポート	総合点の 40%	3. 科目終了レポート	総合点の 30%
1. 受講態度・参加姿勢	総合点の 30%								
2. 実施した演習 (心理検査) ごとのレポート	総合点の 40%								
3. 科目終了レポート	総合点の 30%								
12. 受講生へのメッセージ	知能検査について理解することを中心に据えて、心理検査の理解を深めていく。 事例を検討することにより、対応の仕方や援助方法についても一緒に考えていきたい。 受講生の興味関心によっては、他の心理検査についても取り扱う予定である。 心理検査に興味を持って、さらに深く学んでみたいという意欲ある学生の受講を期待する。								
13. オフィスアワー	伊勢崎キャンパスの学生相談業務と兼任のため、授業開講時に周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション 演習の目的・評価方法の説明	事前学習	教科書の目次を一読して、演習用ノートを作成すること。 参考書は必ずしも購入する必要はないが、可能な限り図書館等で借りるなどして目を通しておくこと。						
		事後学習	シラバスの再確認。授業ルールや学習目標と内容を理解する。						
第2回	心理検査の実施にあたって1 心理検査を施行するにあたって留意すること	事前学習	初回面接時に注意しなければならないことや想定される課題をノートにまとめる。						
		事後学習	初回面接の手順をノートにまとめ、グループメンバーで面接演習を行う。						
第3回	心理検査の実施にあたって2 個人情報と守秘義務	事前学習	心理検査の倫理規定について調べ、ノートにまとめる。						
		事後学習	グループ討議の内容を振り返り、要点をノートにまとめる。						
第4回	質問紙法にもとづく検査の演習1 5因子性格検査 理論を学ぶ	事前学習	性格理論のうち、特性論についてノートにまとめる。						
		事後学習	授業中にまとめたノートと配布資料を熟読し、要点をノートにまとめる						

第5回	質問紙法にもとづく検査の演習2 5因子性格検査 実施手順を学ぶ	事前学習	配布資料を熟読し、わからない用語を調べてノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーと実施手順について練習をする。
第6回	質問紙法にもとづく検査の演習3 5因子性格検査 解釈を学ぶ	事前学習	事前資料を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめた事例について、文献等からさらに理解を深める。
第7回	知能検査の演習1 Wechsler 検査の理論を学ぶ	事前学習	Wechsler 検査の理論について、要点をノートにまとめる。
		事後学習	知能の定義と構造をノートにまとめる。
第8回	知能検査の演習2 Wechsler 検査の実施手順を学ぶ	事前学習	Wechsler 検査の実施手順について、要点をノートにまとめる。
		事後学習	グループ討議の内容を振り返り、ノートにまとめる。
第9回	知能検査の演習3 Wechsler 検査を実施する	事前学習	Wechsler 検査の実施方法について、要点をノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーと実施手順について復習をする。
第10回	知能検査の演習4 Wechsler 検査の解釈を学ぶ	事前学習	Wechsler 検査の解釈について、要点をノートにまとめる。
		事後学習	VCI、PRI、WMI、PSI の高低が事例のどのような認知特性に影響を及ぼしているかを調べておく。事例毎のプロフィールをノートにまとめる。
第11回	知能検査の演習5 Wechsler アセスメント・レポートの書き方	事前学習	事前配布資料を熟読し、総合的解釈とその留意点をまとめる。
		事後学習	総合的解釈をもとに、アセスメント・レポートをまとめる。
第12回	知能検査の演習6 事例検討① 小学生	事前学習	事例を事前に検討しておく。
		事後学習	支援方法のうち、参考になる図書を1冊以上熟読する。
第13回	知能検査の演習7 事例検討② 中学生	事前学習	事例を事前に検討しておく。
		事後学習	支援方法のうち、参考になる図書を1冊以上熟読する。
第14回	アセスメント・バッテリーを組む 性格検査・知能検査を組み合わせる	事前学習	テストバッテリーについて、概要をノートにまとめておく。
		事後学習	テストバッテリーについて、グループで振り返り作業を行う。
第15回	まとめ 心理検査法演習で学んだことを振り返る	事前学習	これまで演習で扱ってきた心理検査についてまとめる。
		事後学習	これまでの学習内容について、ノートを見て振り返り、理解できているか確認する。

1. 科目名 (単位数)	生活の中の福祉 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1341
2. 授業担当教員	若杉 英治			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会に必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。			
8. 学習目標	1. 生活の中の福祉とは何かについて、理解して説明することができる。 2. 生活の中の福祉の考え方について、理解して説明することができる。 3. 対象となる人々への福祉について、理解して説明することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・学習の理解度をみる課題 (まとめ) を授業内で複数回 (3 回) 行います。 *その他毎回の授業の進行状況に応じて指示します。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。 【参考書】 大久保秀子著 『新・社会福祉とは何か』 中央法規出版。 (*その他、授業の進行に合わせ、随時指示・配付する。)			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 生活の中の福祉やその考え方について、理解できているか。 2. 対象となる人々にどのような福祉が必要かについて、理解できているか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、期末試験、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の 30% 2 課題レポート 総合点の 30% 3 期末試験 総合点の 40%			
12. 受講生へのメッセージ	生活の中の福祉は、これから社会福祉などを学んでいく上で基礎となる科目です。そのため、授業への出席、熱意ある参加、グループでのディスカッションや作業、課題作成などへの積極的な取組みを望みます。 (*授業内容や順番、課題等は、皆さんの進捗状況・理解度にあわせて適宜変更していきます。)			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業の主な内容や進め方について	事前学習	教科書の冒頭にある「はじめに」を読んで、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 2 回	生活と福祉 (ライフサイクルと福祉)	事前学習	教科書の第 1 章(pp.8~9) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 3 回	生活と福祉 (高齢化と福祉)	事前学習	教科書の第 2 章(pp.24~25) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 4 回	生活と福祉 (少子化と福祉)	事前学習	教科書の第 2 章 (pp.22~23) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 5 回	中間まとめ① (課題①作成)	事前学習	これまで学んだ内容を振り返り、理解を深めておく。	
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。	
第 6 回	福祉の考え方 (福祉の捉え方)	事前学習	教科書の第 1 章 (pp.2~3) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 7 回	福祉の考え方 (福祉と援助)	事前学習	教科書の第 1 章 (pp.4~5) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	

第8回	福祉の考え方（ナショナルミニマム）	事前学習	教科書の第7章（pp.108～109）を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第9回	福祉の考え方（ノーマライゼーション）	事前学習	教科書の第1章（pp.20～21）を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第10回	中間まとめ2（課題②作成）	事前学習	これまで学んだ内容を振り返り、理解を深めておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
第11回	対象となる人々と福祉（子どもと福祉）	事前学習	教科書の第8章（pp.122～123）を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第12回	対象となる人々と福祉（高齢者と福祉）	事前学習	教科書の第9章（pp.144～145）を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第13回	対象となる人々と福祉（障がい者と福祉）	事前学習	教科書の第10章（pp.168～169）を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第14回	対象となる人々と福祉（低所得者と福祉）	事前学習	教科書の第7章（pp.114～115）を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第15回	総まとめ（課題③作成）	事前学習	これまで学んだ内容を振り返り、理解を深めておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
期末試験 ※試験を実施しない場合→この欄の文字をすべて削除してください。（枠は教務課で削除） ※試験を実施する場合→この欄の赤色の注意書きを削除してください。			

1. 科目名 (単位数)	政治学 (国際政治を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1318 GELA1339
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「国際関係論」を履修予定の学生は本科目を選択することが望ましい。本科目の履修によって左記科目の学習を充実させることができます。		
7. 講義概要	景気対策、規制緩和、地域主権、社会保障、雇用問題など「政治」の場で議論される諸問題はマスメディア報道などを通して日々われわれの耳に入ってくる。わたしたちは、住みやすい社会をつくり、市民の生活水準の向上を図るための機能を「政治」と呼んでいる。本科目では政治学の基礎的な概念を理解し、歴史的事象、時事問題を事例として政治の仕組みについて考えていく。		
8. 学習目標	1) 政治学の基本概念について理解し、説明できる。 2) 現代社会を政治学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 具体的な公共政策を事例として当否の検討などをとおして政治参加に必要な意思決定ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。また、講義配当時間の関係上、テキスト掲載のすべての章を取り扱うことはできないので、今回対象外とする章については以下に示す課題例を参考に各自で読み進めるようにしてください。各回で関連ある内容の章を紹介し、課題例はその都度補足します。 課題例： ①官僚と政治家どちらが信用できるのか。(第9章) ②戦前と戦後。日本をめぐる国際環境はどのように変わったのか。(第10章) ③「外圧」によって国内の仕組みが変わった？(第11章) ④環境問題の解決はなぜ難しいのか。(第12章) ⑤汚職に手を染めるものの経済発展を実現できる政治家と、清廉潔白で人間的に優れているが経済運営が下手な政治家。どちらが望まれるか。 ⑥若者は政治に無関心か？		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』有斐閣アルマ、2009年。 (以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 1) 久米郁男・川出良枝・古城佳子他『政治学』有斐閣、2011年補訂。 政治学の全領域をカバーする教科書を目指して編集された本書は、おおよその政治的トピックについては参照することが可能です。しかも日本の政治の動きをベースとして政治学概念を説明しており、日本の読者にとって理解しやすい記述をしてあることも特色です。教科書のレベルを卒業した学生向きです。 2) 砂原・稗田・多湖『政治学の第一歩』有斐閣、2015年。 3) 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 4) 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1)政治学の基本概念について理解し、説明できる。 2)現代社会を政治学の観点から見たり考えたりすることができる。 3)具体的な公共政策を事例として当否の検討などをとおして政治参加に必要な意思決定ができる。 ○評定の方法 成績評価の規準1)～3)についての達成度を以下の方法により評価する。 ・各受講生の参加意欲・態度(課題の提出状況も含む)について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業(ディスカッションなど)の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、試験・レポートから評価する。(40%) なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、こうしている間にも刻々と変化する社会を「政治」という視点から考えるものです。よって時にはテキストに書かれていないトピックが私たちの前に立ちはだかることがあります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。「政治学」について関心あるテーマがあれば授業時に提案してください。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自		

	覚を持って講義に参加することを期待します。	
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくはe-mailにて対応します。toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp	
14. 授業展開及び授業内容		
講義日程	授業内容	学習課題
第1回	オリエンテーション(シラバスを必ず持参すること。コピーでも可。) 政治学のテーマである「権力」について考察する。権力を行使する主体は何か、誰が権力を行使すべきか、権力の行使がなぜ認められるのかを考察する。	事前学習 テキスト pp.239-246. に紹介されている用語についてよく知っているもの、聞いたことがあるが詳細を知らないもの、初見のもの进行分类する。
		事後学習 本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のアサインメント(課題)に取り組む。
第2回	組織化された集団(鉄の三角同盟、フリーライダー)利益集団が組織されるのはなぜか。鉄の三角同盟、多元的民主主義の観点から考える。 いじめ問題など身近な事例で集合行為問題について考える。	事前学習 (第2回から第15回の事前学習)前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。 ①なぜ特定の業界の利益が「政治」に守られるのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第3回	官と民の関係①(市場の失敗) 市場の失敗の観点から政府の役割について考える。	事前学習 ②市場の失敗を解決するためには何が必要か?
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第4回	官と民の関係②(政府の失敗) 政府の失敗を通して政府の限界について考察する。	事前学習 ③どうすれば政府の失敗をなくすことができるのか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第5回	大企業と政治①(規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 大企業の行動を事例として影響力資源について考える。	事前学習 ④企業はなぜ政権与党に政治献金をするのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第6回	大企業と政治②(規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 政策決定に影響力を及ぼすものは何かを考える。	事前学習 ⑤何が影響力資源となるのか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第7回	選挙と政治①(選挙制度) 政策投票をめぐる問題を中心に選挙について考察する。	事前学習 ⑥政策で投票する議員候補を選ぶのはどうして難しいのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第8回	選挙と政治②(政党の機能) 選挙制度の違いによって実現される世論はどう異なるのかを考える。	事前学習 ⑦政党の選挙での役割は何か。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第9回	地方分権①(国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 日本における地方自治のあり方を考える。 ※学外見学が可能な場合は「地方自治と教育行政」に内容を差し替えて実施	事前学習 ⑧日本における中央政府と地方の関係を説明しなさい。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。

第10回	地方分権②(国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 革新知事、革新市長はなぜ誕生したのかについて考える。	事前学習	⑨地方政府の首長の役割とは。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第11回	マスメディアと政治について考える①(第4の権力) 第4の権力とは何を意味するのかを考える。	事前学習	⑩テレビやラジオが法律で中立性を求められるのはなぜか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第12回	マスメディアと政治について考える②(政治過程への影響) 政策実現過程におけるマスメディアの役割について考察する。	事前学習	⑪マスメディアの影響力は強いのか、弱いのか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第13回	国会①(政治過程) 議院内閣制のもとでの国会の影響力について考える。	事前学習	⑫野党の国会戦術とは。国会のルールについて知ろう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第14回	国会②(立法) 日本を事例として国会で審議される法案を手掛かりに考察する。	事前学習	⑬日本とイギリス・アメリカの国会(立法)の特徴を指摘してみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第15回	内閣と総理大臣(議院内閣制、大統領制、行政1) 日本の内閣総理大臣とアメリカの大統領。どちらがよりリーダーシップを行使できるのか考える。リーダーシップを発揮するための条件に付いて考える。	事前学習	⑭総理大臣が短命(任期満了以前に早期退陣)なのはよくないことなのか。pp.239-246.に紹介されている用語についてどれだけ理解が進んだのか確認する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	PSMP2427
2. 授業担当教員	小金澤 嘉			
4. 授業形態	講義、集団討議、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解をする。保健、医療、福祉等の各分野における相談援助の対象及び相談援助の基本的考え方を理解するとともに、各分野における相談援助に係る専門職や他職種の専門性などについても理解する。また、精神障害者の相談援助における権利擁護について、自己決定のあり方や権利擁護システムなどについて具体的に学ぶ。さらに、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について学ぶことを目的とする。			
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方。 ②相談援助に係る専門職(地域、行政、精神科病院、精神科診療所を含む)の概念と範囲 ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 ④精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	課題レポート① 「ライフステージにおけるメンタルヘルスの課題についてまとめ、精神保健福祉士の役割について論述しなさい」 課題レポート② 「精神保健福祉分野における権利擁護の意義と役割について、自立支援、利用者主体、自己決定など、多角的な視点を踏まえて考察し論述しなさい」			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー 3(第6版)「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版、2017。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 精神保健福祉における相談援助の概要・対象・専門職・包括的支援・他職種連携・権利擁護などを理解しているか。 2. レポート課題にそった内容が論理的に述べられているか、正しい文法表記、適切な用語と漢字で記載されているか、提出期限が守られているか。 3. 授業を受ける基本的マナー(出席状況、持ち物、提出物など)および授業に積極的に参加しているか。 ○評定の方法 1 期末試験 : 総合点の40% 2 レポート : 総合点の40% 3 授業態度 : 総合点の20%			
12. 受講生へのメッセージ	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱは精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目の理解ができることで、精神保健福祉援助技術論、演習、実習へとつながることが出来ますので、しっかりと学ぶよう心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	精神科ソーシャルワーク論Ⅰの振り返り 精神科ソーシャルワーク論Ⅱの授業概要 現代のメンタルヘルスに関わる問題についてディスカッション	事前学習	現代社会における様々なメンタルヘルスに関わる課題を新聞などで探してこること。	
		事後学習	現代のメンタルヘルスの背景についてまとめること。	
第2回	精神保健福祉分野における相談援助の体系① 相談援助の基本的考え方 ミクロからマクロ、ソーシャルワークの体系、実践モデル	事前学習	テキスト pp. 80~108 を読んで、実践モデルの変遷について理解してこること。	
		事後学習	ソーシャルワークの体系および実践モデルについての要点をまとめること。	
第3回	精神保健福祉分野における相談援助の体系② ソーシャルワークの基本的展開過程 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク	事前学習	テキスト pp. 108~127 を読んで、ケース、グループ、コミュニティの展開過程を理解してこること。	
		事後学習	それぞれの展開過程における精神保健福祉士の役割と機能についてまとめること。	
第4回	精神保健福祉分野における相談援助の体系③ 相談援助の対象 医療機関、地域生活支援、司法、精神保健福祉センターなど	事前学習	精神障害者が生活をする上で、どのような資源を利用するのかについて考えてこること。	
		事後学習	それぞれの社会資源が対象とする利用者についてまとめること。	
第5回	精神保健福祉分野における相談援助の体系④ 相談援助の現状と今後の課題 ライフステージや職場・社会環境におけるメンタルヘルスの問題	事前学習	テキスト pp. 19~33, pp. 177~192 を読んで、社会状況やライフステージについて理解をしてこること。	
		事後学習	講義およびディスカッションによる学びをもとにして、課題レポート①を作成すること。	

第6回	精神保健福祉に関わる専門職① 医療機関 メディカルスタッフ、コメディカルスタッフ	事前学習	テキスト pp. 139~144 を読み、医療機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	メディカルスタッフ、コメディカルスタッフの役割についてまとめること。
第7回	精神保健福祉に関わる専門職② 福祉行政・関連行政機関 福祉事務所現業員、社会復帰調整官、障害者職業カウンセラー 等	事前学習	テキスト pp. 144~148 を読み、福祉行政・関連行政機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	福祉行政・関連行政機関に配置されている専門職や職員の役割についてまとめること。
第8回	精神保健福祉に関わる専門職③ 地域福祉施設 生活相談員、職業指導員、サービス管理責任者、等	事前学習	テキスト pp. 148~151 を読み、地域福祉施設にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	地域福祉施設に配置されている職員の役割についてまとめること。
第9回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲① 相談援助における権利擁護の概念と範囲	事前学習	テキスト pp. 171~175 を読んで、精神障害者の権利について考えてくること。
		事後学習	精神障害者の権利を擁護することについて、歴史的背景および社会状況を踏まえまとめること。
第10回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲② 権利擁護システムと、当事者の自己決定、意思決定能力 キーワードに関するディスカッション	事前学習	テキスト pp. 162~170 を読んで、当事者の自己決定と意思決定能力について考えてくること。
		事後学習	ディスカッションを通して学んだことを踏まえ、精神障害者の権利擁護についてまとめること。
第11回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲③ 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 事例を使ってディスカッション	事前学習	精神保健福祉士の倫理綱領を読み、権利擁護をどのように実践するのかについて考えてくること。
		事後学習	授業内容と事例に関するディスカッションを通して、課題レポート②を作成すること。
第12回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携① 総合的・包括的援助を支える理論と機能	事前学習	テキスト pp. 152~163 を読んで、他職種連携について考えてくること。
		事後学習	精神保健福祉活動において、他職種連携の必要性についてまとめること。
第13回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携② 他職種連携とチームアプローチの意義と概要	事前学習	テキスト pp. 152~163 を読んで精神保健福祉士が他職種と連携する上でのポイントをまとめてくること。
		事後学習	支援をする上で、他職種の連携がどのように機能するのかについてまとめること。
第14回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携③ 他職種連携における精神保健福祉士の役割 事例を使ったディスカッション	事前学習	支援者と当事者の連携にはどのようなメリットがあるかをまとめてくること。
		事後学習	事例を使ったディスカッションを通して、当事者や家族の参加による支援のあり方についてまとめること。
第15回	精神科ソーシャルワーク論Ⅱのまとめ テーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだことを確認してくること。
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科リハビリテーション学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP2425				
2. 授業担当教員	種市 摂子						
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論	5. 開講学期	秋期				
6. 履修条件・他科目との関係							
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う精神科リハビリテーション業務の基本的知識を身につける。すでに学んだ精神医学の復習、これから学ぶ精神保健福祉論の予習にもなる。一般目標「障害者の全人的復権」に、精神障害ならではの独自性を加えていく。その際の基本原則、プロセスはもとより、さまざまな技術や方法についても学ぶ。生活技能訓練については、特定のシナリオを用いてシミュレーション・トレーニングを行う。総じて、他職種と連携しながら国家資格としての専門性が発揮できる素地を造り上げる。また、総合支援法や医療観察法など、関連する新しい法律についても学習を促す。						
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科リハビリテーションの概念、原則、対象、諸相について理解する。 2. 実際のプロセスを精神障害の時間的发展、精神医療の空間的拡大に即して理解する。 3. 精神障害のストレス脆弱性—対処技能モデルについて理解する。 4. 生活技能訓練 (SST) をはじめ、さまざまなリハビリテーション技術について理解する。 5. 精神障害者ケアマネジメントの歴史、理念、類型、技法について理解する。 6. 旧精神保健福祉法の福祉的サービスから総合支援法新体系サービスへの移行について理解する。 						
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>精神科リハビリテーションの主要な対象は統合失調症の患者である。この疾患を理解するために、講義、視覚教材による症状や対応の理解、グループ発表、および宿題とレポート提出を予定している。宿題とレポートは授業の中で詳細について言及するが、過去には以下のような課題を出題した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○精神科リハビリテーションの原則 ○日本における精神障害者のリハビリテーションの課題 ○障害者のリハビリテーションに携わる援助者に必要とされる資質と条件 						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー5 (第6版) 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ—精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書 2019/2020 年版 精神保健福祉白書編集委員会編 (中央法規出版、以下同じ) 精神保健福祉白書 2018 年版 精神保健福祉白書編集委員会編 精神保健福祉白書 2017 年版 精神保健福祉白書編集委員会編 精神保健福祉白書 2016 年版 精神科医療と精神保健福祉の協働 精神保健福祉白書 2015 年版 改革ビジョンから10年—これまでの歩みとこれから 『精神疾患とその治療 第2版』新・精神保健福祉士養成講座1 中央法規出版。</p> <p>【教材】 エイメンソン (松島義博、荒井良直訳)『精神分裂病の家族心理教育カリキュラム』(パワーポイント教材)</p>						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科リハビリテーションの基礎的、基本的事項を理解し、多肢選択問題に十分に対応できるか。 2. 記述問題に対応できるだけのロジカルな思考能力をどれだけ身につけているか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ミニテスト、課題レポート</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 授業への積極的参加</td> <td>総合点の50%</td> </tr> </table>			1 ミニテスト、課題レポート	総合点の50%	2 授業への積極的参加	総合点の50%
1 ミニテスト、課題レポート	総合点の50%						
2 授業への積極的参加	総合点の50%						
12. 受講生へのメッセージ	<p>毎回、授業内容の重要項目をプリントアウトしたもの(レジメ)を全員に配布します。将来、精神科領域の現場で働いた時に、そのレジメやノート、教科書の内容が目の前の出来事と結びつくでしょう。疾病や技法の理解のため、視覚教材(ビデオ等)を使用します。</p> <p>精神科リハビリテーションでは、精神保健福祉士として多職種チームを動かしていかなければなりません。チームを動かすには、精神科リハビリテーションの知識に裏づけられた情熱、プレゼンテーションのスキル、表現して人を納得させる技術が必要です。普段の学生生活・日常生活において、そのことを意識しててください。授業後半では、家族教育「家族のための精神分裂病入門」のプレゼンテーションを、各自分担して行っていただく予定です。</p>						
13. オフィスアワー	講義の前後の時間						
14. 授業展開及び授業内容							
講義日程	授業内容	学習課題					
第1回	「シラバスの説明、オリエンテーション、リハビリテーションの概念と歴史、わが国の精神科リハビリテーションの現状」 国際生活機能分類 (ICF)、リハビリテーションの分類	事前学習	教科書 pp. 1~8 を読んでくる。				
		事後学習	配布プリントの復習。リハビリテーションを草創期、確立期、発展期に分けて整理する。				

第2回	「リハビリテーションの理念と原則」 全人間的復権、ADL から QOL へ、多様な職種の連帯、ノーマライゼーション、身体障害者リハビリテーションと精神科リハビリテーションの共通点と相違点	事前学習	ノーマライゼーション、ICF について調べる。
		事後学習	スライド配布資料を見ながら、自分でスライドの内容が説明できるか点検する。
第3回	「精神科リハビリテーションの概念」 病院内リハビリテーション、脱施設化と地域リハビリテーションへの移行。精神科リハビリテーションの定義。(精神保健学の理解が十分でない場合には「精神障害をもつ人への支援」について復習の予定)	事前学習	教科書 pp. 9~14 を読んでくる。
		事後学習	WHO 勧告と行動指針、日本の精神科医療の現状と課題について理解を深める。
第4回	「精神科リハビリテーションの理念と意義」 セルフヘルプ活動、エンパワメント、リカバリー。(統合失調症について理解が足りない場合には「統合失調症の症状、経過、治療の原則」について復習の予定)	事前学習	教科書 pp. 15~16 を読んでくる。
		事後学習	エンパワメント、リカバリーの用語を自分の言葉で説明できるか点検する。
第5回	「精神科リハビリテーションの基本原則」 包括的アプローチ、本人参加や自己決定権の尊重、成功体験の活用、再発予防、個別性の重視、リカバリーへの希望、健全な依存(日本の精神保健福祉の歴史について理解が足りない場合には「精神障害をもつ人々への理解」について復習の予定)	事前学習	教科書 pp. 17~20 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第6回	「精神科リハビリテーションの基本原則」 アンソニー、スレッシュホールズ・プログラム、中川正俊の基本原則について 「精神保健福祉士の役割」 「精神障害の特性と ICF」	事前学習	精神科リハビリテーションの基本原則について自分の言葉で説明してみる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第7回	「精神科リハビリテーションの基本アプローチ」 医学的・職業的・教育的・社会的・地域リハビリテーション、リカバリーアプローチ	事前学習	教科書 pp. 32~38 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第8回	「精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業(その1: グループワーク)」 障害者総合支援法(旧・障害者自立支援法)に基づく障害者福祉サービス等の概要について、13 程度のグループに分かれてグループ別に記載する。	事前学習	教科書 pp. 39~73 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。 グループ発表の準備。
第9回	「精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業(その2: 発表)」 障害者総合支援法(旧・障害者自立支援法)に基づく障害者福祉サービス等の概要について、グループ別に発表する。	事前学習	第8回の配布プリントを読んでくる。
		事後学習	他のグループが発表したことを、配布プリントを見ながら確認する。
第10回	「精神科リハビリテーションの応用」 高次脳機能障害のリハビリテーションについて学習する。エンパワメント、リカバリー概念について復習する。	事前学習	高次脳機能障害について調べてくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第11回	「精神科リハビリテーションのプロセス」(1) アセスメント、(2) 計画、(3) 実施、(4) 評価	事前学習	教科書 pp. 75~86 を読んでくる。
		事後学習	配布する BPRS、PANSS、LASMI 等の項目と評価基準をみて、それぞれの尺度の特徴を考えてみる。
第12回	「精神科リハビリテーションの展開(その1: グループワーク)」 (1) 精神科病院におけるリハビリテーション、(2) 社会復帰施設におけるリハビリテーション、(3) 社会資源における・地域社会におけるリハビリテーション、について、12 程度のグループに分かれてグループ別に記載する。	事前学習	教科書 pp. 86~107 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。 グループ発表の準備。
第13回	「精神科リハビリテーションの展開(その2: 発表)」 (1) 精神科病院におけるリハビリテーション、(2) 社会復帰施設におけるリハビリテーション、(3) 社会資源における・地域社会におけるリハビリテーション、について、グループ別に発表する。	事前学習	第12回の配布プリントを読んでくる。
		事後学習	他のグループが発表したことを、配布プリントを見ながら確認する。
第14回	「地域精神保健の実際 コミュニティワーク」 「アプローチの方法(続き)、疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション」 ライフサイクル、疾病の側面から、生活の側面から、年代ごとに(20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代)	事前学習	教科書 pp. 89~90、pp108~114 を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第15回	「作業療法」 作業療法の意義と治療構造、計画とプログラム、回復状態に応じた作業療法の目標、作業活動の具体的内容、作業療法士の役割	事前学習	教科書「作業療法」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第16回	「集団精神療法」 「認知行動療法(生活技能訓練 SST)」 精神科リハビリテーションにおける生活技能訓練の意義、生活技能訓練の実際、グループで行なうことの意義、ソーシャルワークと生活技能訓練	事前学習	教科書「集団精神療法」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。

第17回	第1～16回、これまでのまとめ	事前学習	第1～16回の配布プリントを確認する。
		事後学習	第1～16回の内容を自分の言葉で説明してみる。
第18回	「集団精神療法（グループワークを含む）、レクリエーション療法」 集団精神療法のリハビリテーションに対する効果、集団精神療法の目的と構造設定の重要性、治療共同体、薬物乱用防止対策、依存症者の自助グループ活動について 「行動療法」	事前学習	教科書「集団精神療法」「レクリエーション療法」「行動療法」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。身近なグループ活動の意義と効果について考えてみる。
第19回	「チームアプローチ」についてACTの例をもとに学習する チームアプローチ、アウトリーチ、ケアマネジメント、ストレングスモデル) について学習する	事前学習	教科書にて、チームアプローチ、アウトリーチ、ケアマネジメント、ストレングスモデルについて説明しているページをさがす。
		事後学習	配布プリントの復習。
第20回	「家族教育プログラム」心理教育とは、精神障害と家族、感情表出（EE）の測定と尺度、家族教育プログラムに求められるもの	事前学習	教科書「家族教育プログラム」の章を読んでくる。
		事後学習	配布した家族教育資料を次々回22回目にグループ順に発表する準備をする。
第21回	「最近の精神科リハビリテーションの話題」 新たな医療計画における5疾病5事業の一つとしての精神疾患、認知症関連事項	事前学習	精神保健学、精神疾患とその治療・精神医学のテキストを復習する。
		事後学習	配布プリントの復習。
第22回	「退院プログラム、精神科訪問看護、地域移行支援」 「家族教育プログラム」心理教育（原因と経過）についてグループ順に発表	事前学習	教科書「退院プログラム」「精神科訪問看護」の章を読んでくる。
		事後学習	他のグループが発表したことを、配布プリントを見ながら確認する。
第23回	「精神科リハビリテーションサービス」 デイケアおよびナイトケアの実際	事前学習	教科書「精神科リハビリテーションサービス」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第24回	「居住支援」 「家族教育プログラム」心理教育（治療）についてグループ順に発表	事前学習	教科書「居住支援」の章を読んでくる。
		事後学習	他のグループが発表したことを、配布プリントを見ながら確認する。
第25回	「地域生活支援と居宅支援」 地域生活支援センターの活動・役割・機能、地域生活支援センター・居宅生活支援事業と精神保健福祉士の役割 「就労支援」就労の意義と援助活動、障害者雇用率制度、職業リハビリテーションの実施体制、さまざまな就労支援の施策と今後の課題	事前学習	教科書「地域生活支援と居宅支援」「就労支援」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第26回	「地域を基盤にしたリハビリテーション」 「ケアマネジメント」 「アウトリーチサービス」	事前学習	教科書「地域を基盤にしたリハビリテーション」の章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第27回	第1～26回、これまでのまとめ	事前学習	第18～26回の配布プリントを確認する。
		事後学習	第18～26回の内容を自分の言葉で説明してみる。
第28回	「仲間による地域生活支援」セルフヘルプ・グループとピアサポート、プロシューマー （当事者活動の歩み、当事者活動と精神保健福祉士の役割）ボランティアの育成と活用 「精神保健福祉白書2019/2020年版より最近の精神科リハビリテーションのトピック」	事前学習	教科書「仲間による地域生活支援」セルフヘルプ・グループとピアサポート、プロシューマーの章を読んでくる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第29回	「世界の精神科医療サービス」 「東京都の精神保健医療福祉とリハビリテーション」	事前学習	インターネットで、自分の住んでいる地域の精神保健センター、精神医療センターの情報、広報活動を調べてみる。
		事後学習	配布プリントの復習。
第30回	精神科リハビリテーションのこれから（まとめ）	事前学習	今までの配布プリントに目を通してくる。
		事後学習	自分の言葉で精神科リハビリテーションの概念、構成について説明してみる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習 I (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3168
2. 授業担当教員	森田 和美		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習 I、II、精神保健福祉援助演習 I、II、IIIは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習 I では、自己覚知やコミュニケーションなど精神保健福祉士として必要な基本的技術を学習し、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己覚知 2) 基本的なコミュニケーション技術の習得 3) 基本的な面接技術の習得 4) グループダイナミクス活用技術の習得 5) 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 6) 課題の発見・分析・解決の技術の習得 7) 記録の技術の習得 8) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行う <ol style="list-style-type: none"> ①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ②地域アセスメント ③地域福祉の計画 ④ネットワークング ⑤社会資源の活用・整備・開発 ⑥サービス評価 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかる基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己覚知について 2 面接技術について 3 ソーシャルワークの援助過程について <p>その他、授業中に振り返りのレポートを課す</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー 7 巻 第 6 版 精神保健福祉援助演習 [基礎] [専門]』へるす出版、2017。</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 面接を中心とした対人援助の基本 (姿勢・技術) が理解できる。 2. 授業を受ける基本的マナー (出席状況、提出物等) を守り、授業に積極的に参加している。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時に出される課題、発表、提出物 : 総合点の 70% 2. 授業への積極的参加態度 : 総合点の 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習 I のねらいの解説 <ul style="list-style-type: none"> － 専門職養成における演習の位置づけと目的を理解する 	事前学習	ソーシャルワーク演習 I、II で学んだ内容を振り返る。テキスト [基礎編] 序章～第 1 章「精神保健福祉援助演習の目的」を熟読する。
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (1) <ul style="list-style-type: none"> － 自己覚知について理解する － 対人援助職における自己覚知の意義を考える 	事前学習	テキスト [基礎編] 付章「自己理解を深める」を熟読する。
		事後学習	自己覚知はなぜ必要かまとめる。

第3回	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深める(2) <ul style="list-style-type: none"> ジェノグラム、エコマップなどマッピング技法を用いて自己理解につなげる 自分の価値観をみつめ、自分の価値観に基づく他者との関係性のあり方を考える 自己理解を深めたうえで、他者理解について考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章「自己理解を深める」を熟読する。
		事後学習	授業での実践を通して自分について考えたことをまとめる。課題1を作成する。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの理解 <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの過程を理解する 言語・非言語コミュニケーションについて理解し、その活用方法を学ぶ ロールプレイを用いてコミュニケーション技術を学ぶ 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章I「基本的込みみにケーション」を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> クライアントに対する姿勢 <ul style="list-style-type: none"> 人と人との話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する バイステックの7原則について実際の援助場面を想定して理解を深める 	事前学習	バイステックの7原則について復習する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 面接における技術：基本的応答技法 <ul style="list-style-type: none"> 単純な反射、言い換え、要約、明確化、感情の反射、開かれた質問、閉じた質問等面接技術についてロールプレイ等を通じて習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章II「基本的面接技法」を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 面接における技術：応用 <ul style="list-style-type: none"> 基本的応答技法を用いて事例に基づく面接を実践する 	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集・整理・伝達の目的、原則、方法を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> 情報収集・整理・伝達の目的、原則、方法を理解する ロールプレイを用いて情報の収集・整理・伝達の技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章IV「情報の収集・整理・伝達」を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> 課題の発見・分析・解決の技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> 課題の発見・分析・解決方法を学ぶ ロールプレイを用いて課題の発見・分析・解決の技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章「課題の発見と分析」を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワークにおける記録について理解し、技術を習得する <ul style="list-style-type: none"> 記録の目的と方法を理解する 事例を用いて記録を実践する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章VI「記録の在り方」を熟読する。
		事後学習	事例を用いて記録する練習を行う。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワークの援助過程を理解する <ul style="list-style-type: none"> インテーク～終結までの過程とそれぞれの段階における必要な姿勢、技術を理解する インテーク場面をロールプレイで実践する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第4章I「成長と変化としての援助過程」II「レポートリーとしての基本的援助方法」を熟読する。
		事後学習	学んだ事柄をまとめる。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワークの援助過程の実践：アセスメント <ul style="list-style-type: none"> アセスメントに必要な視点(ICF, ストレングスモデル)を理解する ICF、ストレングスモデルに基づくアセスメントを実践する 	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる。
		事後学習	学んだ事柄をまとめる
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク援助過程の実践：支援計画立案～終結 <ul style="list-style-type: none"> ニーズを基に支援計画を立案する モニタリング、終結、アフターケアの意義とその方法を理解する 	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> グループダイナミクス活用技術を習得する <ul style="list-style-type: none"> グループダイナミクス理論を学ぶ ロールプレイを用いてグループダイナミクス活用技術を実践する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第3章III「グループワークの活用」第4章II B「グループワーク」を熟読する。ソーシャルワーク演習IIで学んだことを振り返る。
		事後学習	学んだことをまとめる。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の基盤整備の実践に必要な技術を知る <ul style="list-style-type: none"> アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉計画、ネットワーク、社会資源について理解する 演習Iのまとめと演習IIへの課題 	事前学習	ソーシャルワーク演習Iで学んだことを振り返る。
		事後学習	演習Iで学んだことを振り返り、身に付いたことと今後の課題を書きだす。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	PSMP3469
2. 授業担当教員	谷口 恵子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、2年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱでは、実技指導を通してソーシャルワーカーとして必要なケースワークの基本的技術を学習する。また、事例を用いて具体的な課題別の援助方法を理解し課題により異なる援助技術を学習する。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、実技指導を行う。 2) インテークからアセスメント、プランニング、介入、モニタリング、評価、終結とアフターケアのケースワークの一連の流れを理解し、それぞれの過程における必要な技術を実践することができる。 3) 他専門職の専門性を尊重したチームアプローチの意義を理解し、ネットワーキングの技術を身につける 4) 社会資源について理解し、その活用、調整、開発の技術を学ぶ 5) ケアマネジメントについて理解し、実践することができる 6) 事例検討の意義を理解し、その方法を実践する 7) 次の課題について必要な援助技術を習得する：社会的排除/退院支援・地域移行、地域生活継続/ピアサポート/地域における精神保健/教育、就労/貧困、低所得、ホームレス/精神科リハビリテーション/危機状態にある精神保健福祉 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、地域福祉の基盤整備について 2、ソーシャルワークの課題（社会的排除、退院支援・地域移行、貧困など）について <p>その他、授業中に振り返りの課題を課す</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー 7巻 第6版 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』へるす出版、2017。</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日経研出版、2006、</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践に基づくアセスメントとそれに基づく支援計画の立案を理解し、その方法を身につける。 2. 授業を受ける基本的マナー（出席状況、提出物等）を守り、授業に積極的に参加している。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業時に出される課題、発表、提出物 : 総合点の70% 2 授業への積極的参加態度 : 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだことの振り返りと演習Ⅱのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだ内容を振り返る。
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす。
第2回	・ケースワークの実践(1)：ケースワークの援助過程を復習する － インテークからアフターケアまでの流れとそれぞれの過程において大切な要素を振り返る	事前学習	テキスト〔実践編〕第1章序章を熟読する。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。
第3回	・ケースワークの実際(2) インテーク － インテークの技術を振り返り実践する	事前学習	テキスト〔実践編〕第1章Ⅰ「インテーク・契約」を熟読する。あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる。

第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実際(3) アセスメント・プランニング アセスメントの様々な視点 治療モデル、環境モデル、生活モデル － 視点によるニーズ把握の違いを理解する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第1章Ⅱ「アセスメント・プランニング」
		事後学習	視点によるニーズ把握の違いについてまとめる。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実際(4) アセスメント・プランニング アセスメントの様々な視点 「ICF」「バイオ・サイコ・ソーシャルモデル」 － 「ICF」を活用してアセスメントを実践する 	事前学習	ICFについて復習する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる。
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実際(5)アセスメント・プランニング アセスメントの様々な視点 ストレングスモデル － 「問題解決アプローチ」との比較 － 「ストレングスモデル」によるアセスメントの実際 － その他ソーシャルワークのアプローチを理解する 	事前学習	ソーシャルワークのアプローチについて復習する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実際(6) 評価～終結、まとめ － 評価～終結の意義を理解し、終結の場面をロールプレイで実践する － アフターケアの意義を理解し、必要なアフターケアを計画する － ソーシャルワークの援助過程を振り返り、ワーカーとしての自己の課題を見出す 	事前学習	テキスト〔実践編〕第1章Ⅲ「支援の実施・振り返り」Ⅳ「終結・支援の振り返りとアフターケア」を熟読する。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる。自己の課題について考察する
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する(1) －アウトリーチ、地域アセスメント、社会資源の活用と開発、チームアプローチとネットワークングについて理解する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第3章「地域の基盤整備と地域生活支援活動の事例展開」A「アウトリーチ」C「チームアプローチとネットワークング」、D「協議会の活用・調整・開発」を熟読する
		事後学習	アウトリーチ、地域アセスメント、社会資源、チームアプローチ、ネットワークングとは何か自分の言葉でまとめる
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する(2) ケアマネジメント －ケアマネジメントの方法を学び、精神障害者に対するケアマネジメントの意義を理解する －事例を用いてケアマネジメントを実践する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第3章B「ケアマネジメント」を熟読する。
		事後学習	ケアマネジメントとは何か自分の言葉でまとめる。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する(3) 地域福祉計画とサービス評価 －地域福祉計画づくりを理解する －事例を活用して地域福祉計画づくりを実践する －サービス評価の意義と方法を理解する －事例を用いてサービス評価を実践する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第3章E「サービス評価」、F「地域福祉計画」を熟読する。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる。事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討の意義と方法 －事例検討とは何か理解し、事例検討の方法を学ぶ ・事例検討(1)：社会的排除 －精神障害者が抱える社会的排除の問題を理解する －事例を用いて社会的排除における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕序章(p.87)を熟読する。 テキスト〔実践編〕第2章(pp.109～110)を読み、わからない用語等意味を調べる。
		事後学習	社会的排除とは何か自己の考えをまとめる。 事例を通して学んだことを書き出す。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討(2)：退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート －上記に掲げたそれぞれの課題を理解する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第2章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる(それぞれの課題に対する理解も含めること)。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討(3)：地域における精神保健(自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存) －地域における精神保健の課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第2章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる(それぞれの課題に対する理解も含めること)。
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討(4)：教育・就労、貧困・低所得・ホームレス、精神科リハビリテーション、危機状態にある精神保健福祉 －上記に掲げたそれぞれの課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第2章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる。
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる(それぞれの課題に対する理解も含めること)。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ －精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る 	事前学習	学習ノートを見返す。
		事後学習	授業で学んだことと自己の変化をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP4170
2. 授業担当教員	谷口 恵子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期／秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅲでは、実習体験をソーシャルワーク概念に結びつけながら振り返るとともに、実践モデル。アプローチを実践的に学び、終了した時点で、実習での体験を踏まえ精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目的とする</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <p>①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>実習での振り返りを理論的に行っていくため、その都度実習の振り返りを事前にしておくことを課題とする。課題は後日提出し、評価の対象となる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『精神保健福祉士養成セミナー 7 巻 第 6 版 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』へるす出版。</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日経研出版、2006。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 実習の体験と理論を統合して理解できる。</p> <p>2. 授業を受ける基本的マナー（出席状況、提出物等）を守り、授業に積極的に参加している。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1 授業時に出される課題、発表、提出物 : 総合点の 70%</p> <p>2 授業への積極的参加態度 : 総合点の 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>精神保健福祉士を目指して学んできた講義科目、演習科目、実習での体験の総まとめとなる授業です。学んできたことを結びつけて理解を深められるよう、また就職して働くに際して即戦力となるよう、積極的な態度で授業に参加することが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途通知する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことの振り返りと演習Ⅲのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことを振り返る。
		事後学習	演習Ⅲで学びたいことを書きだす。
第 2 回	・自己覚知、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティー当事者との関わり等を通して気付いた自分自身と実習を通して身につけたソーシャルワーカーとしてのアイデンティティを振り返る。	事前学習	実習体験を通して気づいた自分自身についてまとめる。テキスト〔基礎編〕第 2 章Ⅰ「専門職としての価値と倫理」を熟読する。
		事後学習	授業でのディスカッション等を通しての考察をまとめる。
第 3 回	・クライアントに対する姿勢：バイステックの 7 原則ー実際の援助場面で学んだバイステックの 7 原則について振り返る	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 2 章Ⅱ～Ⅳ「相談援助の対象」～「援助関係の形成」を熟読する。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第 4 回	・社会資源とその活用・調整・開発ー当事者を支援するうえで、活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表する。関わった当事者の方たちに必要な資源について考えるとともに、資源の調整・開発の方法を考察する	事前学習	実習中活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表の準備をする。
		事後学習	発表を通して学んだことをまとめる。

第5回	・チームアプローチ（ネットワーキング、アウトリーチ） ーチームアプローチを用いて支援した事例を振り返る ーチームアプローチを行う上で、精神保健福祉士がどのような役割を担っていたかまとめる ー自分自身が担った役割を振り返り、自己の課題を認識する	事前学習	実習中のチームアプローチの事例を記入する。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第6回	ケースワーク（1）：ケースの振り返り ー自分がかかわったケースを振り返る	事前学習	実習中記入したソーシャルワークケース記録を見返す。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第7回	ケースワーク（2）：ケースの振り返り、発表① ー出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第8回	ケースワーク（3）ケースの振り返り、発表② 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第9回	ケースワーク（4）ケースの振り返り、発表③ 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第10回	ケースワーク（5）：ケースの振り返り、まとめ 実習中の自身が行ったケースワークを振り返り、学んだことをソーシャルワークの価値、技術に結びつけてまとめる	事前学習	学んだことを書きだす。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第11回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（1） ーソーシャルワークアプローチについて復習する （ICF、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ストレングスモデル。解決志向アプローチなど	事前学習	ソーシャルワークモデル、アプローチを復習する。
		事後学習	実習中の体験とソーシャルワークモデル、アプローチを結びつけて考察する。
第12回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（2） ーソーシャルワークアプローチについて復習する （行動変容アプローチ、危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、リカバリーなど）	事前学習	ソーシャルワークモデル、アプローチを復習する。
		事後学習	実習中の体験とソーシャルワークモデル、アプローチを結びつけて考察する
第13回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（3） 実習の事例報告①	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第14回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（4） 実習の事例報告②	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第15回	まとめ ー精神保健福祉援助演習Ⅲで学んだことを振り返る	事前学習	授業で学んだことを振り返る。
		事後学習	精神保健福祉援助演習Ⅲで身に着けたことをまとめる。ワーカーとしての自身のストレングス・課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (P) (2単位)	3. 科目番号	PSMP3484
2. 授業担当教員	谷口 恵子		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンステストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テスト(2)の実施(合格点に達するまで実施) 2. 実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる(2000字～4000字) 3. 実習施設の概要、実習プログラム案の作成 4. 施設実習振り返り、実習総括レポート(実習報告書)の作成 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 第6版 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2017。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2019年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に向けて必要になる事前知識が身につけている。 2. 実習に必要な書類の準備ができる。 3. 実習事後に実習での学びを言語化できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テスト 20% 2. 実習に伴う提出物 30% 3. 実習事後の振り返りのための課題 20% 4. 授業への積極的参加態度 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結している。この授業期間中に、初めて実習に行き、次の段階の実習に備えます。実習及び資格取得に対する動機を高め、より充実した実習体験を持てるよう、積極的な授業参加態度を期待する。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 :実習までの流れの確認	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る
		事後学習	実習に向けての自己の課題を書き出す
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先の配属 ・配属先施設に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類作成の意味の理解と作成 ※第2回、第7回において、可能な場合は、外部講師を招いての授業を実施し、実習先の理解についてまたスーパービジョンについて理解を深める	事前学習	格取得動機、実習抱負の下書きを作成する
		事後学習	個人調書下書きを完成させる
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・個人調書の完成 ・下書きを持参し、清書を作成する ・配属先施設に関する理解を深める ・配属先施設・機関の概要レポートの作成について ・実習記録の書き方演習Ⅰ 実習記録の練習をする 	事前学習	配属先施設について情報収集する
		事後学習	個人調書の清書を完成させる

第4回	・実習施設の概要・実習プログラム案作成の意義と方法を理解する 実習記録の書き方演習Ⅱ ：実習記録の練習をする	事前学習	実習の手引き「施設実習の目的」を確認する
		事後学習	実習施設の概要、実習プログラム案の下書きを作成する
第5回	・実習施設・機関の概要レポートを完成させ、ピアレビューを行う。 ・実習施設の概要、実習計画の作成方法を理解し、下書きを作成する	事前学習	レポートを完成させ持参する
		事後学習	レポートの追加項目について修正する 実習施設の概要、実習プログラム案の下書きを完成させる
第6回	・実習施設の概要、実習プログラム案の完成	事前学習	下書きを完成させたいうえで、実習施設について不明点を書き出す
		事後学習	実習施設の概要、プログラム案の清書を完成させる
第7回	・スーパービジョンと巡回指導の理解 ：スーパービジョンについて理解する ：巡回指導の目的と内容を理解する ：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認	事前学習	・テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	・実習指導者と協議したい点についてまとめる
第8回	・個人情報保護について ：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 ：実習中の記録等の取扱いに関する具体的な注意事項	事前学習	精神保健福祉士専門職としての個人情報保護の大切さについて書き出す
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第9回	・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の確認	事前学習	テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	事前訪問の目的と意義をまとめる
第10回	・巡回指導教員の発表 ：巡回指導教員への挨拶の意義を理解し準備する ・事前訪問に向けた準備 ：基本的態度と訪問時の注意事項の確認 ・実習コンピテンス確認テストⅡ問題配布 ・セルフアセスメントの実施	事前学習	テキスト該当項目を熟読する
		事後学習	巡回指導教員への挨拶用紙を作成する 各自巡回指導教員へ挨拶のアポイントメントをとる 実習施設の概要及び実習プログラム(案)を実習施設に持参し、指導者と協議する
第11回	・実習コンピテンス確認テストⅡの実施 ・事前訪問の確認 ：実習施設、実習プログラム案について実習指導者との検討をもとに修正する	事前学習	事前訪問報告書の作成 実習指導者と検討した点をまとめる
		事後学習	修正した実習プログラム案の清書を完成させる
第12回	・施設実習に向けての最終確認 ：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・自己評価表の理解 ：自己評価を行う意義と活用方法を理解する ：自己評価表の記入方法を理解する ・実習後の実習成果発表会、実習総括レポート(実習報告書)について説明	事前学習	施設実習で学びたいこと、事前知識を再度確認する
		事後学習	実習記録記入欄への記入、実習時持ち物、実習初日の開始時間の確認等、各自実習に備える
第13回	※第13回～第15回は、実習事後学習として実習終了後に実施	事前学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
第14回	・実習の評価・総括(実習成果発表会) ・学習のまとめ ：施設実習における自己の課題を施設実習につなげる ・自己の成長を振り返る ・医療機関実習についての説明	事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる 精神保健福祉援助実習指導Ⅱで学んだことと今後の課題をまとめる
第15回			

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習関連／実習コンピテンス関連事項	時期	授業回数との関連*おおよその目安、変動あり。
施設実習配属発表	10月初旬	第1回～第2回あたりに発表*個人調書の作成
「実習施設・機関の調査」レポート提出	11月	第4回～第5回あたり
実習コンピテンス確認テストⅡの問題配布(自主学習用)	12月下旬 冬季休講前	第10回～第11回あたり
実習コンピテンス確認テストⅡの実施	1月頭 (冬季休講明け)	冬季休講機関終了後の授業で実施 第12回～第13回あたり
見学実習(事前訪問)実施	1月中旬	第12回～第14回あたり 学生各自日程調整して実施
セルフアセスメントの実施	授業後半実習前	実習前に実施
巡回担当教員発表・挨拶	1月～2月	第11回～第12回あたりに発表、 学生各自挨拶に行く
施設実習	2月～3月	春季休講期間に18日間以上かつ140時間以上

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論 I (2 単位)	3. 科目番号	SPMP2428 PSMP2428
2. 授業担当教員	谷口 恵子		
4. 授業形態	講義、課題の発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神障害者の生活支援の意義と特徴及び精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。加えて、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動(その他の日中活動 支援を含む)、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目的とする。		
8. 学習目標	以下について理解し、説明できるようになることを求める。 ① 精神障害者の概念について理解する ② 精神障害者の生活の実際について理解する ③ 精神障害者の生活と人権について理解する ④ 精神障害者の居住支援について理解する ⑤ 精神障害者の就労支援について理解する ⑥ 精神障害者の生活支援システムについて理解する		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	割り当てられた範囲について調査及びディスカッションを行い、レポート等を作成・提出及び発表をする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 福祉臨床シリーズ編集委員会 編『精神保健福祉士シリーズ 8 精神障害者の生活支援システム <第3版>』, 弘文堂. 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 精神障害者の生活支援の意義と特徴及び精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。加えて、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動(その他の日中活動 支援を含む)、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動についての、基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、課題提出・発表、期末試験を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 課題提出・発表 総合点の30% 3 期末試験 総合点の40%		
12. 受講生へのメッセージ	初回授業で受講ルールの詳細を説明する。したがって受講希望者は必ず第1回の授業に出席すること。 精神保健福祉士の倫理・技術等を含むその存在意義は、精神障害のある人たちのためにある。したがって、倫理・技術が単独で存在することはない。つまり、精神障害のある人たちの生活実態や状況を知り、その支援を如何に良いものとしていくかという志向が必要となる。本講義は精神障害のある人たちのおかれた、おかれている状況を理解することから始める。そして受講生諸君が「精神障害がある人たちへの支援が如何にあるべきか」を考える起点としていただきたい。		
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読
		事後学習	精神保健福祉とは何かについて調べてくる
第2回	精神障害者の生活支援とは何か ・精神障害とは ・障害の概念 ・生活支援の意味を考える ・地域生活支援活動の経過と現状 ・今後の課題	事前学習	教科書 pp. 2～13 を読み、精神障害者の生活支援について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 2～13 を読み、精神障害者の生活支援に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第3回	精神障害者の基本的理解—1 ・精神障害者の定義と特性	事前学習	教科書 pp. 16～20 を読み、精神障害者の定義と特性の主な内容について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 16～20 を読み、精神障害者の定義と特性に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第4回	精神障害者の基本的理解—2 ・人間存在としての精神障害者 ・生活者としての精神障害者	事前学習	教科書 pp. 20～29 を読み、生活者としての精神障害者について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 20～29 を読み、生活者としての精神障害者(事例問題等)に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第5回	精神障害者の生活 ・精神障害者の生活実態 ・生活状況の事例 ・精神障害者と家族の関係	事前学習	教科書 pp. 32～52 を読み、精神障害者の生活について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 32～52 を読み、精神障害者の生活(事例問題等)に関する国試過去問を解いて理解を深める。

第6回	精神障害者の生活と人権—1 ・精神障害のある人の権利をめぐる状況 ・地域生活における精神障害者の人権	事前学習	教科書 pp. 54～65 を読み、精神障害者の生活と人権について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 54～65 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の生活と人権）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第7回	精神障害者の生活と人権—2 ・精神保健福祉士に求められる権利擁護の視点と役割 ・精神障害のある人の権利を護るシステム	事前学習	教科書 pp. 66～78 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の生活と人権）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 66～78 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の生活と人権）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第8回	精神障害者の居住支援—1 ・精神障害者にとっての住生活の意味 ・居住支援制度の概要 ・居住支援における専門職の役割と機能	事前学習	教科書 pp. 80～94 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の居住支援）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 80～94 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の居住支援）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第9回	精神障害者の居住支援—2 ・住居支援事例 ・住居支援における近年の動向と課題 ・住居支援の担い手と連携・協働	事前学習	教科書 pp. 94～109 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の居住支援）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 94～109 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の居住支援）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第10回	精神障害者の就労支援—1 ・精神障害者にとっての就労の意味 ・就労支援制度の概要 ・就労支援にかかわる専門機関・専門職の役割と機能	事前学習	教科書 pp. 112～131 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の就労支援）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 112～131 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の就労支援）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第11回	精神障害者の就労支援—2 ・就労支援—連携と支援システムづくり ・就労・雇用支援事例 ・就労支援における近年の動向と課題	事前学習	教科書 pp. 131～144 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の就労支援）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 131～144 を読み、精神障害者の生活支援システム（精神障害者の就労支援）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第12回	地域社会における生活支援システム ・地域支援システム構築の意味 ・精神障害者のピア活動 ・家族の動向 ・地域生活支援事業とは ・医療機関の役割と機能 ・行政機関の役割と機能 ・相談支援の成り立ち ・生活支援づくりの事例 ・ソーシャルサポート・ネットワークの今後の課題	事前学習	教科書 pp. 146～198 を読み、精神障害者の生活支援システム（地域社会における生活支援システム）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 146～198 を読み、精神障害者の生活支援システム（地域社会における生活支援システム）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第13回	行政における相談援助 ・市町村における相談援助の担い手 ・市町村における相談援助の事例 ・広域行政機関 ・広域行政機関における事例	事前学習	教科書 pp. 200～221 を読み、精神障害者の生活支援システム（行政における相談援助）について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 200～221 を読み、精神障害者の生活支援システム（行政における相談援助）に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第14回	精神障害者と現代社会 ・あたりまえの生活を目指して ・市民として生きる ・ソーシャルインクルージョンの理念と現代社会	事前学習	教科書 pp. 224～240 を読み、社精神障害者と現代社会について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 224～240 を読み、精神障害者と現代社会に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第15回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生理学 (4 単位)	3. 科目番号	GELA2322
2. 授業担当教員	澤田 晋一	5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表。生理学に関する簡単な実験。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>医療分野の多極化がすすみ、数多くの co-medical の新しい職種が誕生している。人体に関係のある仕事に携わる人々にとって人体生理学は大変大切である。職場の労働者の健康管理や快適な職場環境づくりを行うための衛生管理者や福祉専門職・心理専門職にとって、この生理学は欠かすことのできない科目であるが、難解な科目でもある。しかし、まず、人体の全般にわたって理解を深め、その上で、専門的な知識を習得していくことが大切である。</p> <p>本科目では、人体各部の組織、器官・器官系それぞれの生理機能を理解し、それらが統合された個体としての人体活動について、疾病とも関連させて学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>学生には下記について学び、説明できるようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を確認する。 2. 生体内の諸組織・器官の機能について理解できるようになる。 3. 生体内の諸組織・器官の神経系による調節について理解できるようになる。 4. 生体内の諸組織・器官の内分泌系による調節について理解できるようになる。 5. 神経系・免疫系・自律神経系を介する生体防御について理解できるようになる。 6. 生体機能を健康的に維持する方法について理解できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の復習のために、適宜提出物を求める。 2. レポート課題：もっとも関心を持った器官系につき、生理機能をまとめる。(A4 版、横書き、1,200~1,500 字) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】石川隆 (監修) 『生理学の基本がわかる事典』西東社 【参考書】奈良信雄 (監修) 『人体のしくみと病気がわかる事典』西東社 澤口彰子他 (著) 『人体のしくみとはたらき』朝倉書店。 ニュートン編集委員会 (編) 『人体を支配するしくみ』ニュートンムック。 彼末一之、能勢博 (編) 『やさしい生理学 改訂第 7 版』南江堂</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の組織・器官・器官系の機能をふまえて、生体丸ごとの活動について理解しているか。 2. 生理学と医学の他分野と関連づけて理解できているか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 (授業ごとのレポート、発言) 40% 2. 課題レポート・発表 30% 3. 期末試験 30% <p>上記のほかに、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位習得の条件であることも考慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医学情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業中の私語、携帯電話の使用を禁止します。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション (生理学とは何か、ホメオスタシスとは、成長・発達と老化)	事前学習	「生理学」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。
		事後学習	生理学の概要をまとめる。
第 2 回	細胞 (構造、機能)	事前学習	教科書で細胞の大きさ、細胞内小器官について調べておく。
		事後学習	細胞内小器官の機能についてまとめる。
第 3 回	体液 (組成、恒常性の調節)	事前学習	教科書で体液量の割合について調べておく。
		事後学習	細胞内液、細胞外液の組成、水分調節、脱水症状についてまとめる。
第 4 回	血液 (役割、組成、血液凝固と線溶)	事前学習	教科書で血液の成分 (血球成分・血漿成分) について調べておく。
		事後学習	血液の機能、代表的な血液疾患についてまとめる。

第5回	循環①（心臓の機能調節、心臓の異常）	事前学習	教科書で心臓の位置、構造について調べておく。
		事後学習	心臓機能の調節機序と代表的な心機能障害についてまとめる。
第6回	循環②（血管系と機能調節、血管系の異常、リンパ系）	事前学習	教科書で血管系・リンパ系の構造について覚えておく。
		事後学習	血圧の測定結果を踏まえて、血圧調節の機序、高血圧症の主要原因についてまとめる。
第7回	呼吸①（呼吸器の構造と機能調節）	事前学習	教科書で気道・肺の構造について調べておく。
		事後学習	呼吸の調節機構についてまとめる。
第8回	呼吸②（ガス交換、呼吸器系の異常）	事前学習	教科書で吸気・呼気中のガス成分について調べておく。
		事後学習	血中酸素分圧の測定結果を踏まえて、呼吸器系機能についてまとめる。
第9回	消化①（消化器系の構造と機能調節）	事前学習	教科書で消化器系の位置・構造を調べておく。
		事後学習	呼吸器系運動の調節についてまとめる。
第10回	消化②（消化、吸収、消化管ホルモン）	事前学習	教科書で消化・吸収の意味、消化酵素の機能について調べておく。
		事後学習	消化運動に関与するホルモンについてまとめる。
第11回	栄養と代謝（栄養素、中間代謝、エネルギー所要量）	事前学習	教科書で5大栄養素と機能について調べておく。
		事後学習	空腹時・満腹時のエネルギー代謝についてまとめる。
第12回	まとめとディスカッション第1回ミニテスト	事前学習	第5回～第11回で学んだことについて学生間でディスカッションし、簡単なテストを行う。
		事後学習	テスト結果について、誤っていた項目を再学習。
第13回	体温（体温の生理的変動、熱産生、熱放散、行動性体温調節と発熱）	事前学習	教科書で体温調節について調べておくとともに、体温を様々な部位、時刻で測定しておく。
		事後学習	体温の調節機構、発熱・解熱の機序をまとめる。
第14回	腎・泌尿器（腎臓の機能、糸球体ろ過、尿細管再吸収、体内の水分平衡）	事前学習	教科書で腎臓の構造を調べておく。
		事後学習	尿形成の機序と腎臓障害についてまとめる。
第15回	骨とカルシウム代謝（構造、骨吸収・再形成、骨代謝とホルモン、骨粗鬆症）	事前学習	教科書で骨の構造を調べておく。
		事後学習	骨形成・骨吸収の機序と、関連する器官・ホルモンについてまとめる。
第16回	内分泌系①（内分泌腺とホルモン、ホルモン分泌調節機序）	事前学習	教科書で内分泌器官について調べておく。
		事後学習	内分泌の刺激機構、フィードバックによる抑制機構についてまとめる。
第17回	内分泌系②（成長ホルモン、甲状腺ホルモン、下垂体後葉ホルモン）	事前学習	教科書で視床下部－下垂体系のホルモン分泌過程を調べておく。
		事後学習	ホルモンの生理的効果についてまとめる。
第18回	内分泌系③（副腎皮質ホルモン、性ホルモン、膵臓ホルモン）	事前学習	教科書で関係するホルモンについて調べておく。
		事後学習	ホルモン分泌の過剰・過小の影響をまとめる。
第19回	内分泌系④（ストレスと内分泌系の変化）	事前学習	事前配布資料を読んで、ストレスの生理機能への影響について調べておく。
		事後学習	ストレスに起因する各種疾患について、内分泌と免疫機構との関連を含めてまとめる。
第20回	まとめとディスカッション第2回ミニテスト	事前学習	第13回～第19回で学んだことについて学生間でディスカッションし、簡単なテストを行う。
		事後学習	テスト結果について、誤っていた項目を再学習。
第21回	生殖（性分化、二次性徴、性周期、受精・分娩）	事前学習	教科書で受精、胎児の成長、分娩の過程を調べておく。
		事後学習	性分化、二次性徴と性ホルモンとの関連をまとめる。
第22回	神経系①（神経細胞の形態、活動電位、神経伝導・伝達）	事前学習	教科書で神経細胞の特徴を把握しておく。
		事後学習	神経伝導・神経伝達の機序、その速度についてまとめる。
第23回	神経②（自律神経系、運動神経系、感覚神経系）	事前学習	教科書で末梢神経系（遠心性、救心性）の特徴を調べておく。
		事後学習	末梢神経系の障害に伴う各種症状をまとめる。
第24回	神経③（中枢神経系：大脳新皮質、辺縁系）	事前学習	教科書で脳・脊髄の構造を調べておく。
		事後学習	大脳の機能分化から、それらの障害に伴う症状をまとめる。

第25回	筋肉①（骨格筋：筋収縮の機序、運動の神経支配）	事前学習	教科書で横紋筋（骨格筋）と平滑筋（内臓筋）の特徴を把握しておく。
		事後学習	骨格筋の収縮機序と筋肉疲労についてまとめる。
第26回	筋肉②（平滑筋、心筋）	事前学習	教科書で平滑筋と心筋の特徴を調べておく。
		事後学習	平滑筋・心筋の収縮と自律神経機構についてまとめる。
第27回	感覚①（感覚の種類、感覚受容器と伝導、体性感覚）	事前学習	教科書で五感とは何か、感覚刺激の感受、伝導・伝達と脳機能について調べておく。
		事後学習	体性感覚の種類と感度についてまとめる。
第28回	感覚②（特殊感覚）	事前学習	教科書で特殊感覚の感覚受容部位を把握しておく。
		事後学習	特殊感覚（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚）の特徴とそれらの障害についてまとめる。
第29回	まとめと総括。課題発表	事前学習	事前提示された課題についてまとめる。
		事後学習	課題の発表内容について総括する。
第30回	まとめ	事前学習	課題に対するレポートの作成。
		事後学習	生理学全般について質疑・応答、ディスカッションを取り入れてまとめたレポートを作成し、提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	世界史 (2単位)	3. 科目番号	GELA1328
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>歴史を学ぶということは過去を記憶することのみにとどまるものではない。それを踏まえ、現在をどのように生き、さらに未来をどう構築していくのかについて主体的に考えることである。つまり、現存の社会、経済、政治制度、文化、思想、技術などがどのように形成されてきたのか、それを今後どのようにしていくのかについて、総体的に捉えることが必要である。各地域の歴史、文化、民族などは共通する部分もあるが、基本的にはそれぞれが異質な存在であるととらえた方がそれらに対し真摯である。世界史の授業では、様々な地域の歴史を学ぶことを通して、各地域の文化や民族の特質を理解し、多文化共生社会の実現に向けて必要となる知識や教養を身に付けることを目的とし、受講生の興味・関心のある課題を取り入れながら授業を進めていくことにしたい。</p>		
8. 学習目標	<p>大きな目標は4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平和を維持するため、戦争を起こさないための強い気持と行動力を形成し、実践に活かすことができる。 2 現代にいたる歴史の概要を理解し、説明することができる。 3 それぞれの地域、文化、民族の特質を理解し、説明することができる。 4 多文化が共生するためには相互理解が必要であることを理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題：新聞記事を中心に世界で起きている出来事について、正確な情報を収集する。 課題：そのことについての自分の考えを整理する。 →単元終了後にレスポンスシートを作成する。 レポート課題：自分が関心を持った世界史に関する事柄をまとめる。A4用紙、40字×40行 2枚</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特に使用しない。 【参考書】 教場で資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>1. 世界史に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 課題レポート 総合点の50% 3 日常の学習状況 総合点の20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>ステレオタイプ、偏見が争いの源であることは社会心理学的知見から明らかである。それを避けるためには他者について正しい知識を持つことが必要であり、それは異質性に対する純粋な関心、好奇心からなる。本講義は知識の獲得とあわせ、そのような人材の育成も目指したい。そこで受講者に次の事柄の遵守を希望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2. 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に勤む。 3. 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理力をつける。 4. 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などに対するセルフモニタリング機能を強化する。 <p>これらは学ぶ者の基本的な学習姿勢であると同時に、多文化共生時代を生きる際にも必要な事項である。なお明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であってもF評価になることを理解しておく。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2. 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3. 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4. 受講者の質問には誠実に対応する。 5. 受講者が上記のメッセージ1～4が守らない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	教場で伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・古代四大文明がおこったところ ・縄文文化と弥生文化 ・卑弥呼の国 ・聖徳太子の政治 <p>この時期の世界は？</p>	事前学習	中高の歴史教科書の該当するところを読んでおこう。
		事後学習	配布資料。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ世界の拡大 中世から近世へ ・キリスト教とイスラム教 ・ルネサンスと宗教改革 ・新航路の開拓 	事前学習	中高の歴史教科書の該当するところを読んでおこう。
		事後学習	配布資料。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 欧米列強の動き ・イギリスとインド イギリスと中国 ・東南アジアの植民地化 ・黒船の来航 ・明治維新 	事前学習	中高の歴史教科書の該当するところを読んでおこう。
		事後学習	配布資料。

第4回	朝鮮半島 ・日清戦争 ・三国干渉 ・日露戦争 ・韓国併合 ・ 辛亥革命	事前学習	日清戦争、日露戦争について調べてみよう。
		事後学習	配布資料。
第5回	第一次世界大戦 ・日本の参戦 。ベルサイユ条約 ・大恐慌 ・満州事変	事前学習	第一次世界大戦について調べてみよう。
		事後学習	配布資料。
第6回	第二次世界大戦 ・ファシズム ・日中戦争 ・太平洋戦争	事前学習	日中戦争について調べてみよう。
		事後学習	配布資料。
第7回	敗戦後の日本 ・戦後の民主化	事前学習	ポツダム宣言について調べてみよう。
		事後学習	配布資料。
第8回	冷戦と平和条約 ・国連 ・冷戦 ・日米安保条約	事前学習	安保条約について調べてみよう。
		事後学習	配布資料。
第9回	戦後アジア ・第三世界 ・高度経済成長	事前学習	冷戦について調べてみよう。
		事後学習	配布資料。
第10回	現代の世界 ・冷戦の終結 日本の国際貢献 紛争とテロ	事前学習	第二次世界大戦についてまとめておこう。
		事後学習	配布資料。
第11回	映像の世紀から 第二次世界大戦	事前学習	※教場で指示。
		事後学習	感想をまとめてみよう。
第12回	映像の世紀から 冷戦後	事前学習	※教場で指示。
		事後学習	感想をまとめてみよう。
第13回	アウシュヴィッツとこどもの「いのち」	事前学習	【ホロコースト】(中公新書)を読んでおこう。
		事後学習	アウシュヴィッツ博物館、アンネ・フランク について文献を検索する。
第14回	東京大空襲とこどもの「いのち」 沖縄戦とこどもの「いのち」	事前学習	【東京大空襲】(岩波新書)を読んでおこう。
		事後学習	東京大空襲・戦災資料センター、ひめゆり平 和祈念資料館に行ってみよう。
第15回	広島・長崎とこどもの「いのち」	事前学習	【広島・長崎でなにが起こったのか】(岩波ブ ックレット)を読んでおこう。
		事後学習	広島平和記念資料館、長崎原爆資料館に行っ てみよう。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4単位)		3. 科目番号	SPMP2156 PSMP2456
2. 授業担当教員	三田 真外			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習の理解度をみるレポート課題 (1500字以上) と確認テストを数回実施する。レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。その他、授業の進行状況に応じて指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座7)』第3版、中央法規出版、2015。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) ・8つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ・8つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) <p>○評定の方法 レポート課題 (25%) 定期試験 (50%)、受講態度 (25%) による総合的評価</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は、相談援助の理解に必要なクライアント・システムやネットワーク、相談援助の過程を体系的に身につけることを目的としています。具体的には、クライアントの見方、アセスメントの方法や支援計画の立案、評価および修正までの流れを把握し、実践の場で応用でき、利用者1人ひとりについて判断できるようになることを目的とするものです。本授業を通して、実習や演習につなげられるように学んで欲しいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する(した)場合は書面で教員に届け出ること。 2. レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。 3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。 			
13. オフィスアワー	初回の講義において発表する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション シラバス、講義概要、試験・レポート課題についての説明	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。	
		事後学習	ソーシャルワークⅡのねらいについて講義用ノートにまとめる。	
第2回	相談援助とは ソーシャルワークの定義	事前学習	教科書の pp.1~26 を読んでくること。	
		事後学習	ソーシャルワークの定義についてまとめる。 ソーシャルワークの方法・技能について、講義の要点をノートにまとめる。	
第3回	相談援助の構造と機能 (1) 人・家族・組織・地域社会の理解	事前学習	教科書の pp.28~43 を読んでくること。	
		事後学習	社会資源の枠組みについて、講義の要点をノートにまとめる。	
第4回	相談援助の構造と機能 (2) ソーシャルワークの枠組み	事前学習	教科書の pp.44~51 を読んでくること。	
		事後学習	ソーシャルワークの機能について、講義の要点をノートにまとめる。	
第5回	人と環境との交互作用 (1) 相互作用と交互作用の理解	事前学習	教科書の pp.54~58 を読んでくること。	
		事後学習	人にとって環境について、講義の要点をノートにまとめる。	

第6回	人と環境との交互作用(2) システム理論の理解	事前学習	教科書の pp.58～67 を読んでくること。
		事後学習	システム理論からのソーシャルワークについて、講義の要点をノートにまとめる。
第7回	相談援助における援助関係(1) ソーシャルワーク実践領域	事前学習	教科書の pp.70～80 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークと社会福祉の3次元について、講義の要点をノートにまとめる。
第8回	相談援助における援助関係(2) 援助関係と自己覚知	事前学習	教科書の pp.81～93 を読んでくること。
		事後学習	援助関係の効用と限界について、講義の要点をノートにまとめる。
第9回	中間まとめ1 確認テスト・グループディスカッション	事前学習	第1回から第8回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	ここまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
第10回	相談援助の展開過程Ⅰ(1) インテーク	事前学習	教科書の pp.96～121 を読んでくること。
		事後学習	二つの不安について、講義の要点をノートにまとめる。
第11回	相談援助の展開過程Ⅰ(2) アセスメント・プランニング	事前学習	教科書の pp.122～136 を読んでくること。
		事後学習	ニーズの確定と支援計画について、講義の要点をノートにまとめる。
第12回	相談援助の展開過程Ⅱ(1) 介入・モニタリング	事前学習	教科書の pp.138～145 を熟読し、モニタリングについて理解する。
		事後学習	再アセスメントについて、講義の要点をノートにまとめる。
第13回	相談援助の展開過程Ⅱ(2) 終結	事前学習	教科書の pp.146～153 を読んでくること。
		事後学習	予防的対応について、講義の要点をノートにまとめる。
第14回	アウトリーチの意義と目的	事前学習	教科書の pp.156～160 を読んでくること。
		事後学習	アウトリーチの機能について、講義の要点をノートにまとめる。
第15回	アウトリーチの方法と留意点	事前学習	教科書の pp.161～165 を読んでくること。
		事後学習	アウトリーチを行うための留意点について、講義の要点をノートにまとめる。
第16回	中間まとめ2 確認テスト・グループディスカッション	事前学習	第9回から第15回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	ここまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
第17回	契約の意義と目的	事前学習	教科書の pp.168～172 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークにおける契約の意義について、講義の要点をノートにまとめる。
第18回	契約の方法と留意点	事前学習	教科書の pp.173～179 を読んでくること。
		事後学習	事例に基づいて文書による契約書の留意点について、講義の要点をノートにまとめる。
第19回	相談援助のためのアセスメントの技術(1) 援助的関係	事前学習	教科書の pp.182～188 を読んでくること。
		事後学習	アセスメント面接における言語反応について、講義の要点をノートにまとめる。
第20回	相談援助のためのアセスメントの技術(2) ジェネラリストソーシャルワーク	事前学習	教科書の pp.189～204 を読んでくること。
		事後学習	アセスメントで得るべき情報について、講義の要点をノートにまとめる。
第21回	介入の意義と目的	事前学習	教科書の pp.206～212 を読んでくること。
		事後学習	介入のターゲットについて、講義の要点をノートにまとめる。

第22回	介入の方法と留意点	事前学習	教科書の pp.213～221 を読んでくること。
		事後学習	介入の技術や技法について、講義の要点をノートにまとめる。
第23回	相談援助のための経過観察（1） 再アセスメント、効果測定、評価の技術	事前学習	教科書の pp.224～238 を読んでくること。
		事後学習	再アセスメントの手順について、講義の要点をノートにまとめる。
第24回	相談援助のための経過観察（2） 再アセスメント、効果測定、評価の技術	事前学習	教科書の pp.239～248 を読んでくること。
		事後学習	サービス開発について、講義の要点をノートにまとめる。
第25回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（1） 面接の目的と展開	事前学習	教科書の pp.250～260 を読んでくること。
		事後学習	面接においてワーカーが行うことについて、講義の要点をノートにまとめる。
第26回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（2） 面接におけるコミュニケーション	事前学習	教科書の pp.261～268 を読んでくること。
		事後学習	面接の技術について、講義の要点をノートにまとめる。
第27回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（3） 記録の意義と活用目的	事前学習	教科書の pp.270～283 を読んでくること。
		事後学習	記録業務の4つのステップについて、講義の要点をノートにまとめる。
第28回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（4） 記録と倫理的配慮	事前学習	教科書の pp.284～293 を読んでくること。
		事後学習	記録の方法について、講義の要点をノートにまとめる。
第29回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（5） 交渉の目的と留意点	事前学習	教科書の pp.296～315 を読んでくること。
		事後学習	他機関との交渉について、講義の要点をノートにまとめる。
第30回	まとめ	事前学習	第16回から第30回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	これまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2単位) ※JPBPW2/編	3. 科目番号	SPMP2361 GELA2302
2. 授業担当教員	藤島 薫・水島 正浩・三田 真外・姜 壽男		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは「ソーシャルワークの展開」という位置づけとなり、ソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライアントシステムに関する理解を踏まえて、ソーシャルワーク・プロセスの展開とプロセスにおいて活用される面接やプログラム分析、アウトリーチやチームアプローチといった技術についてトレーニングする。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ケースワークのプロセスについて説明ができる。 2) 基本的な面接技術について実践できる。 3) グループワークのプロセスと、ソーシャルワーカーの役割について明瞭な説明ができる。 4) グループワークにおける専門技術について実践できる。 5) コミュニティワークのプロセスについて説明ができる。 6) アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術についてその目的と方法について説明ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1. 第2回～第5回の演習内容を踏まえて、ケースワークのプロセスと必要な面接技術について学んだことをまとめなさい。</p> <p>課題2. 第6回～第9回の演習内容を踏まえて、グループワークのプロセスとそれぞれの局面でのワーカーの役割、また必要とされる技術について学んだことをまとめなさい。</p> <p>課題3. 第10回～第14回の演習内容を踏まえて、「アウトリーチ」「チームアプローチ」「ネットワークング」について学んだことをまとめなさい。</p> <p>各課題について、A4用紙2枚にまとめなさい。また、提出については、原則としてそれぞれの課題が提示されている次の回にて担当教員に提出すること。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 (予定)「はじめてのソーシャルワーク演習(仮)」ミネルヴァ書房、2019</p> <p>【参考書】</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) ・6つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ・6つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習への取り組み 40% 2. レポート(課題1～3) 60% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対に行わないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	

第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅰの振り返り	事前学習	シラバスを確認し、ソーシャルワーク演習Ⅱの学習内容について確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅰでの学習を踏まえ、ソーシャルワーク演習Ⅱの自己の学習目標を明確にする。
第2回	ケースワークのプロセス	事前学習	自分自身の価値観、思考傾向、ストレングスやウィークポイントについてまとめる。
		事後学習	演習内容を踏まえて、ケースワークのプロセスについてまとめる。
第3回	面接技法①（姿勢と態度）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	面接技法における、あるべき姿勢と態度についてまとめる。
第4回	面接技法②（トータル・コミュニケーション）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	面接技法における専門的なコミュニケーションの方法についてまとめる。
第5回	面接技法③（応答技法）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題1の作成
第6回	グループワークのプロセス	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	演習内容を踏まえて、グループワークのプロセスについてまとめる。
第7回	グループワークにおけるワーカーの役割	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確化する。
		事後学習	グループワーク実践におけるワーカーの役割についてまとめる。
第8回	グループワーク技法①（準備期・開始期）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	グループワークにおける準備期・開始期に必要な技術についてまとめる。
第9回	グループワーク技法②（作業期・終結期）	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題2の作成
第10回	コミュニティワークのプロセス	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	演習内容を踏まえて、コミュニティワークのプロセスについてまとめる。
第11回	アウトリーチ	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	アウトリーチの意義と方法についてまとめる。
第12回	チームアプローチ	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	チームアプローチの意義と方法についてまとめる。
第13回	ネットワーキング	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	ネットワーキングの意義と方法についてまとめる。
第14回	社会資源の活用・調整・開発	事前学習	テキストの該当回のうち、「2.概念」についてその内容を確認し、不明な点を明確にする。
		事後学習	課題3の作成
第15回	まとめ	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで使用したテキスト（プリント）の該当箇所を確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2単位) ※JPBPW3/編	3. 科目番号	SSMP2161 SCMP3460 SBMP3460 SSMP3160
2. 授業担当教員	西村 明子		5. 開講学期
4. 授業形態	演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲは「ソーシャルワークの実践」という位置づけとなり、これまでのソーシャルワーク演習Ⅰ及びソーシャルワーク演習Ⅱにおいて学習した内容を踏まえ、それらの知識と実践技術を、事例を通じてより実践的に活用し、総合的、また横断的な理解の促進を図る。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。 2) ソーシャルワークに関する事例を用いて、グループ(集団)を活用したソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。 3) ソーシャルワークに関する事例を用いて、地域(コミュニティ)に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。 4) ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人、集団(グループ)、地域(コミュニティ)を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の活用を理解することができる。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1. 第2回～第4回の演習内容を踏まえて、事例とそれに対する設問、またディスカッションを通じて学習できたことをまとめなさい。</p> <p>課題2. 第5回～第7回の演習内容を踏まえて、事例とそれに対する設問、またディスカッションを通じて学習できたことをまとめなさい。</p> <p>課題3. 第8回～第10回の演習内容を踏まえて、事例とそれに対する設問、またディスカッションを通じて学習できたことをまとめなさい。</p> <p>課題4. 第11回～第14回の演習内容を踏まえて、事例とそれに対する設問、またディスカッションを通じて学習できたことをまとめなさい。</p> <p>各課題について、A4用紙2枚にまとめなさい。また、提出については、原則としてそれぞれの課題が提示されている次の回にて担当教員に提出すること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>(予定)「はじめてのソーシャルワーク演習(仮)」ミネルヴァ書房、2019</p> <p>【参考書】</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) ・4つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ・4つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習への取り組み 40% 2. レポート(課題1～4) 60% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ソーシャルワークⅡの振り返り	事前学習	シラバスを確認し、ソーシャルワーク演習Ⅲの学習内容について確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅰ・ソーシャルワーク演習Ⅱでの学習を踏まえ、ソーシャルワーク演習Ⅲの自己の学習目標を明確にする。
第2回	事例1 ケースワークを題材とした事例の展開(1)	事前学習	事例1に目を通し、そのストーリーの理解を図るとともに、分からない用語等を確認する。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第3回	事例1 ケースワークを題材とした事例の展開(2)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第4回	事例1 ケースワークを題材とした事例の展開(3)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	課題1の作成
第5回	事例2 グループを用いた支援を題材とした事例の展開(1)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第6回	事例2 グループを用いた支援を題材とした事例の展開(2)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第7回	事例2 グループを用いた支援を題材とした事例の展開(3)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	課題2の作成
第8回	事例3 コミュニティを題材とした事例の展開(1)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第9回	事例3 コミュニティを題材とした事例の展開(2)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第10回	事例3 コミュニティを題材とした事例の展開(3)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	課題3の作成
第11回	事例4 総合的・包括的な事例の展開(1)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第12回	事例4 総合的・包括的な事例の展開(2)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第13回	事例4 総合的・包括的な事例の展開(3)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み返し、関連する設問の解答についてその内容を確認する。
第14回	事例4 総合的・包括的な事例の展開(4)	事前学習	該当回に関係する部分のストーリーを読み、その内容に対する設問について確認し、自分なりの解答を考え、ディスカッションの準備をする。
		事後学習	課題4の作成
第15回	まとめ	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲで使用したテキスト(プリント)の該当箇所を確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅲで学習できたことをまとめるとともに、ソーシャルワーク演習Ⅳの実施に向けた自己課題を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2単位)	3. 科目番号	PSMP3461
2. 授業担当教員	上野 義光		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に学習し理解を深めます。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照し、関連する知識や理論についても学習を深めます。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2：事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3：グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4：社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に対する理解を深める。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：問題解決アプローチについて、アプローチの視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>課題2：行動変容アプローチについて、アプローチの視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>課題3：家族システム論について、理論の視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>※上記課題につき、すべてA4用紙 40文字×30行×2枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規出版、2015。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』第3版、中央法規出版、2015。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 ・ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、社会福祉士として求められる実践理論(実践アプローチ)をクライアントに提供できる。そのために設定された具体的な目標(4つの目標)を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 個人レポート(課題1～3) 60%</p> <p>2. 演習への参加度・取り組み 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は以下の条件を守って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講しましょう。受講生には積極的な態度を望みます。 2. 自ら進んで教員に質問しましょう。理解できないことをそのまま放っておかないようにしましょう。 3. 授業は欠席、遅刻、早退をしないで下さい。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告して下さい。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意して下さい。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話などの操作は緊急時以外、絶対にしないで下さい。 <p>また教員は、以下のことを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行います。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明します。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作ります。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します） 医学モデル・社会モデル・生活モデル① （医学モデル・社会モデル・生活モデルの概要について理解する）	事前学習	テキスト pp.182～185、また参考書 pp.137～142を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第2回	医学モデル・社会モデル・生活モデル② （3つのモデルのうち、特に生活モデルについて事例を通じモデルの実践について理解を深める）	事前学習	テキスト pp.182～185を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	生活モデルのポイントについてノートにまとめる。
第3回	ストレングスマodel （事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます）	事前学習	テキスト pp.186～189、また参考書 pp.140～142を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	ストレングスマodelのポイントについてノートにまとめる。
第4回	心理社会的アプローチ① （心理社会的アプローチの概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp.190～193、また参考書 pp.150～152を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内（学習方法）に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第5回	心理社会的アプローチ② （ビネットを通して支援目標の設定と介入時の技法内容について学ぶ）	事前学習	テキスト pp.190～193を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	心理社会的アプローチのポイントについてノートにまとめる。
第6回	問題解決アプローチ① （問題解決アプローチの概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp.194～199、また参考書 pp.156～158を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内（学習方法）に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第7回	問題解決アプローチ② （ビネットを通して問題解決アプローチのプロセスとその利点と課題を学ぶ）	事前学習	テキスト pp.194～199を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題1の作成（授業内で示された提出期限厳守）。
第8回	危機介入アプローチ① （危機介入アプローチの概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp.200～205、また参考書 pp.162～164を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内（学習方法）に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第9回	危機介入アプローチ② （ビネットを通して危機介入アプローチの危機的状況のアセスメントについて学ぶ）	事前学習	テキスト pp.200～205を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	危機介入アプローチのポイントについてノートにまとめる。
第10回	行動変容アプローチ① （行動変容アプローチの概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp.206～209、また参考書 pp.165～167を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内（学習方法）に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第11回	行動変容アプローチ② （ビネットを通して行動変容アプローチの考えたかと相談援助のプロセスについて学ぶ）	事前学習	テキスト pp.206～209を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題2の作成（講義内で示された提出期限厳守）。
第12回	ナラティブアプローチ① （ナラティブアプローチの概念について理解を深める。）	事前学習	テキスト pp.220～225、また参考書 pp.178～181を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内（学習方法）に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第13回	ナラティブアプローチ② （ビネットを通してナラティブアプローチのドミナントストーリーの弊害とオルタナティブストーリー可能性について理解を深める）	事前学習	テキスト pp.220～225を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ナラティブアプローチのポイントについてノートにまとめる。
第14回	家族システム論① （家族システム論の概念について理解を深める）	事前学習	テキスト pp.226～231を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内（学習方法）に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第15回	家族システム論② （家族システム論の視点と相談援助のプロセスについて学ぶ）	事前学習	テキスト pp.226～223を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題3の作成（講義内で示された提出期限厳守）

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習V (2単位)	3. 科目番号	PSMP4462
2. 授業担当教員	上野 義光		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1年次から4年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅴでは、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8)終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標2：授業内容にある事例の中にもまれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標3：自らの相談援助の場面を想定して、目標1、目標2を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1：前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4用紙 40文字×25行×3枚以内</p> <p>課題2：後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4用紙 40文字×25行×3枚以内</p> <p>まとめレポート：事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015。</p> <p>【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005。 障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>・ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した時点で、相談援助演習の最終段階として総合的・包括的な支援の在り方を理解できる。そのために設定された具体的目標(3つの目標)を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 個人レポート(課題1～2) 50%</p> <p>2. まとめレポート 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。そのため受講生は次の条件を守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って積極的な態度で受講する。 2. 自ら進んで教員に質問する。理解できないことはそのまま放っておかない。 3. 欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告する。 4. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対に行わない。 <p>教員は以下の方針で授業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 双方向対話型の学習によりディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	

第1回	オリエンテーション（授業の進め方等） 障害者の就労支援に関する相談援助 ① ※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、職場（環境や集団）や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要のあることを学習する。 ※ 教科書の第5章、事例問題25の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.268～271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第2回	障害者の就労支援に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第1回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第3回	病院からの退院に関する相談援助 ① ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、専門職がチームを組んで支援する必要があることを学習する。 ※ 教科書の第5章、事例問題27の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.276～279 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第4回	病院からの退院に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第3回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第5回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ① ※ DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談援助事例をもとに、DVとはどのようなものか、その特質を理解し、「DV防止法」をもとにDVが被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。 ※ 教科書の第5章、事例問題28の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第6回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第5回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第7回	(被)虐待児童への相談援助 ① ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、発達障害とネグレクト（育児放棄）が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿（環境）と児童のもつ力（ストレングス）を調整しながら支援することを学習する。 ※ 教科書の第5章、事例問題30の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第8回	(被)虐待児童への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第7回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第9回	低所得者への相談援助 ① ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源（環境）を活用しながら自立に向けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題34の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第10回	低所得者への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第9回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第11回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ① ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方について学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題37の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第12回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第11回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第13回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ① ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけの内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第6章、事例問題38の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第14回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第13回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。

第15回	まとめ ※ 第1回～第14回授業を振り返り、援助の重要ポイントを 押さえる。	事前学習	授業で配布されたレジュメ、事前・事後学習ノートの内容を整理し、ソーシャルワーク演習Vでの学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (P/B/SBP 編) (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3481
2. 授業担当教員	三田 真外			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施に向けて、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク基礎実習、またその後のソーシャルワーク実習における課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルワーク基礎実習で求められ、確認すべき実習課題、専門知識と技術について明確に説明することができる。 2) 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習プログラム(案)を立案できる。 3) 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4) 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1: 実習配属施設・機関の施設概要について規定の書式にまとめなさい。</p> <p>課題2: ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム(案)の作成</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』第2版、中央法規、2014年。</p> <p>東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク基礎実習で求められ、確認すべき実習課題、専門知識と技術について明確に説明することができる。 2. 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習プログラム(案)を立案できる。 3. 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題1 30% 2. 課題2 30% 3. 講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 		事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート(ファイル)の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。
			事後学習	ソーシャルワーク基礎実習実施上の課題についてノートにまとめる。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践(テキスト 		事前学習	テキスト第12章第1・2節を熟読し、要点をノ

	pp.160～173) : 第1節・第2節	事後学習	一トにまとめる。 本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第3回	・相談援助技術の理解と実習における実践(テキスト pp.174～190) : 第3節・第4節	事前学習	テキスト第12章第3・4節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第4回	・相談援助技術の理解と実習における実践(テキスト pp.191～202) : 第5節・第6節	事前学習	テキスト第12章第5・6節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第5回	・実習記録の理解(テキスト p.226) : 実習記録の意義、書き方、取り扱い等に関する説明 実習記録の書き方演習	事前学習	テキスト pp.226～238 を熟読し、記録の意義と記入の際の留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	第5回で配布された実習日誌(コピー・練習用)に記録を記入し、添削を受ける。
第6回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成(実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	配属施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
第7回	・相談援助実習の仕組み(テキスト pp.142～154) : 望まれる相談援助実習の在り方(3段階実習プログラム)を踏まえてソーシャルワーク基礎実習における学ぶべき内容について理解する	事前学習	テキスト pp.142～146 を熟読し、「3段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	レジデンシャルソーシャルワークとフィールドソーシャルワークについてノートにまとめる。
第8回	・ソーシャルワーク基礎実習プログラム(案)の作成(テキスト pp.147～154) : 実習計画の意義と作成についての理解を深める	事前学習	テキスト pp.147～154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	講義での学習を踏まえて実習計画書(案)を作成する。
第9回	・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成 : 施設概要作成に関する説明 ・ソーシャルワーク基礎実習 プログラム(案)の作成 : 実習プログラム(案)の記入と添削	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第10回	・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成 : 施設概要作成 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム(案)の作成 : 実習プログラム(案)の記入と添削・確認	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第11回	・巡回指導の理解(テキスト pp.240～252) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp.240～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
第12回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解(1) ・見学実習(事前訪問)に向けた準備 : 見学実習(事前訪問)の目的と意義の確認	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習プログラム(案)内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第13回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解(2) ・見学実習(事前訪問)に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習プログラム(案)内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第14回	・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解(個人情報保護法の理解を含む)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	守秘義務についてノートにまとめる。
第15回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第11回	・巡回指導の理解(テキスト pp.240～252) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp.240～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
		配布物	実習コンピテンズ問題パートⅡ

第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解(1) ・見学実習(事前訪問)に向けた準備: 見学実習(事前訪問)の目的と意義の確認 	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習プログラム(案)内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習コンピテンス問題パートII テスト
		配布物	実習コンピテンス問題パートII及び解答用紙

1. 科目名 (単位数)	多文化コミュニケーション (2単位)		3. 科目番号	GELA1336 GELA1329 GELA1136
2. 授業担当教員	箕輪 理美			
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション、グループ発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	多文化理解入門を受講していることが望ましい			
7. 講義概要	グローバル化が進むにつれ、異なる母語・習慣・価値観をもった人たち同士の多文化コミュニケーションは日常的になりつつある。本講義は、自分の視野をこのような多文化「共生社会」にむけて広げ、必要とされるコミュニケーション能力を修得することを目的とする。具体的には、多文化コミュニケーションを構成する「言語」「コミュニケーション」「文化」の3つの基本的概念を理解し、多文化コミュニケーションのしくみを理解する。次に、様々なコミュニケーション活動や教科書のエクササイズを行い、多文化コミュニケーションのスキルを理解し養っていく。最後にグローバル時代における多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分なりの意見を発信する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化コミュニケーションを構成する基本概念とそのしくみについて理解する。 2. 多文化コミュニケーションのスキルを理解し身につける。 3. グローバル時代の多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分の意見を発信できる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習として、毎回指定された教科書の課題(「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」)を必ず行ってくる。 2. 毎回の授業の最後に、レスポンスペーパーに感想や疑問、質問を書いて提出してもらう。重要な指摘や質問に関しては、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 八代京子その他 著『異文化コミュニケーションワークブック』三修社、2001。 【参考書】 授業時に指示する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化コミュニケーションを構成する基本概念とそのしくみについて理解できたか。 2. 多文化コミュニケーションのスキルを理解し身につけることができたか。 3. グローバル時代の多文化コミュニケーションの役割と多文化共生の在り方について自分の意見を発信できたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加態度 総合点の 30% 2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30% 3 提出課題 (レポート等) 総合点の 40% 			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は事前学習を前提に行うため、必ず事前学習課題は行うこと。 2. 授業で扱ったすべてのプリントはなくさないよう注意すること。 3. 携帯電話は電源を切り、かばんの中にしまうこと。 4. 私語は授業中は決してしないこと。 5. わからないことはどのようなことでも教員に質問するよう心がけること。 6. どのようなことでもよいので積極的に意見を述べること。 			
13. オフィスアワー	初回の授業内で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション	事前学習	教科書の「はじめに」と目次を読み、教科書の内容を考えてくる。	
		事後学習	シラバスの重要事項をノートにまとめる。	
第2回	自己紹介1:自由に自分を紹介する	事前学習	1分間で自己紹介できるよう準備してくる。	
		事後学習	他の学生の自己紹介内容と気づいた点をノートにまとめる。	
第3回	第1章:異文化コミュニケーションとは1:新しい常識・ステレオタイプ・異文化理解への態度(pp.9-21)	事前学習	pp.9-21 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。	
第4回	第1章:異文化コミュニケーションとは2:文化とコミュニケーション(pp.22-35)	事前学習	pp.22-35 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。	
第5回	第6章:自分を知る:異文化適応力チェック・共感(エンパシー)(pp.123-134)	事前学習	pp.123-134 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。	
第6回	自己紹介2:お互いの文化を紹介し合う	事前学習	今まで学んだことを参考に、1分間で自分の文化について紹介できるよう準備してくる。	
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。	
第7回	第2章:コミュニケーションスタイル:コンテキスト・自己開示・パラ言語(pp.39-42, 46-57)	事前学習	pp.39-42, 46-57 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。	

第8回	第3章：言語コミュニケーション1：ほめ方・叱り方・謝り方(pp.61-77)	事前学習	pp.61-77までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。
第9回	第4章：非言語コミュニケーション1(pp.81-90)	事前学習	pp.81-90までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。
第10回	第4章：非言語コミュニケーション2(pp.91-100)	事前学習	pp.91-100までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。
第11回	第5章：価値観(pp.103-113)	事前学習	pp.103-113までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。
第12回	第7章：異文化コミュニケーションスキル1(pp.137-149)	事前学習	pp.137-149までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。
第13回	第7章：異文化コミュニケーションスキル2(pp.150-165)	事前学習	pp.150-165までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。
第14回	グループ発表の準備	事前学習	グループ発表について話し合えるよう準備をしてくる。
		事後学習	授業で学んだことをノートにまとめる。
第15回	グループ発表	事前学習	グループ発表をスムーズにできるよう練習を行う。
		事後学習	授業から学んだ内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	知覚・認知心理学 (4 単位)	3. 科目番号	SPMP2115 PSMP2115
2. 授業担当教員	成本 忠正		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	なし		
7. 講義概要	認知心理学は“知”の働きを中心にして、人間の心のしくみを、情報処理という枠組みにもとづいて明らかにしていこうとする心理学の一分野である。本講義では、特に感覚、知覚、注意、記憶、思考などの領域を概観する。また、心の働きを科学的に解明しようとする手法や考え方について学習するとともに、上記領域における最新の知識を習得する。		
8. 学習目標	1. 感覚、知覚、注意、記憶、思考等の機序およびその障害について基礎的な知識を習得する。 2. 認知心理学の研究の方法を理解し、説明することができる。 3. 日常生活の身近な問題に、習得した認知心理学的手法を適用することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1 認知心理学研究の成果が、教育・福祉現場あるいは日常生活にどのような影響を与えているのかをリサーチし、レポートを作成する。 2 各テーマの終了後に確認テスト (30分程度) を実施する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 森敏昭・井上毅・松井孝雄『グラフィック認知心理学』サイエンス社、2006。 【参考書】 適宜講義内容に応じて授業で紹介する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 感覚、知覚、注意、記憶、思考等の機序およびその障害について基礎的な知識を習得できているか。 2. 認知心理学の研究の方法を理解し、説明することができるか。 3. 日常生活の身近な問題に、習得した認知心理学的手法を適用することができるか。 ○評定の方法 下記の規準を基に、本学規定に沿って評価を行う。 平常点 (授業態度・授業への参加など) 30% 課題 (テスト・レポート・発表など) 70%		
12. 受講生への メッセージ	認知心理学は、心の働きを科学的に解明しようとする学問です。心の働きを調べることは自分自身を知ることでもあり、また未知の世界に対する知的な冒険でもあります。授業を楽しみながら、心の働きに興味をいただき、積極的に他の関連書を調べる気持ちになってください。知的的好奇心旺盛な受講者を期待しています。		
13. オフィスアワー	質問・相談等は随時、授業中あるいは授業前後の休憩時間に受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	認知心理学とは 行動主義心理学から認知心理学の誕生まで	事前学習	教科書の【認知心理学とは】を読む。
		事後学習	認知心理学の歴史を復習する。
第 2 回	認知心理学とは 認知心理学における研究について	事前学習	教科書の【認知心理学とは】を読む。
		事後学習	認知心理学の研究テーマを理解する。
第 3 回	感覚とは何か 感覚 (視覚) のメカニズムについて	事前学習	配布資料【感覚】を読む。
		事後学習	感覚 (視覚) のメカニズムを復習する。
第 4 回	知覚とは何か 感覚から知覚までのプロセスについて	事前学習	配布資料【知覚】を読む。
		事後学習	知覚プロセスを理解する。
第 5 回	知覚とは何か パターン認知 (鋳型モデル・特徴分析モデル)	事前学習	配布資料【知覚】を読む。
		事後学習	パターン認知の各モデルを理解する。
第 6 回	知覚特性 図と地的知覚・群化の規定要因	事前学習	配布資料【知覚特性】を読む。
		事後学習	授業で紹介した知覚特性を復習する。
第 7 回	知覚特性 立体視・錯視現象	事前学習	配布資料【知覚特性】を読む。
		事後学習	授業で紹介した知覚特性を復習する。
第 8 回	感覚記憶 感覚記憶の保持特性について	事前学習	教科書【記憶のしくみ】を読む。
		事後学習	感覚記憶の特性を理解する。
第 9 回	二重貯蔵モデル 短期貯蔵庫・長期貯蔵庫について	事前学習	教科書【記憶のしくみ】を読む。
		事後学習	二重貯蔵モデルを正確に理解する。
第 10 回	長期記憶 長期記憶の保持特性について	事前学習	教科書【記憶のしくみ】を読む。
		事後学習	長期記憶の特性を理解する。
第 11 回	長期記憶 処理水準モデル・記憶方略について	事前学習	教科書【記憶のしくみ】を読む。
		事後学習	記憶の定着を促す方法について理解する。
第 12 回	長期記憶 忘却曲線・スキーマについて	事前学習	教科書【情報の検索と忘却】を読む。
		事後学習	無意味・有意味材料を使う記憶研究の意義について理解する。
第 13 回	長期記憶 情報検索に及ぼす文脈の影響について	事前学習	教科書【情報の検索と忘却】を読む。
		事後学習	文脈の効果について復習する。
第 14 回	概念はどのように構造化されている？ カテゴリ化 (プロトタイプ理論) について	事前学習	教科書【概念と言語】を読む。
		事後学習	カテゴリ化の理論を復習する。

第15回	知識はどのように記憶されているのか？ 階層的ネットワーク・活性化拡散について	事前学習	教科書【知識と表象】を読む。
		事後学習	2つのネットワークモデルを理解する。
第16回	画像的記憶 画像的記憶の保持特性について	事前学習	教科書【イメージと空間の情報処理】を読む。
		事後学習	画像的記憶の保持・容量を理解する。
第17回	前半のまとめ・確認テスト	事前学習	これまでの授業内容を復習しておく。
		事後学習	これまでの授業内容を自分なりにまとめ、認知心理学の重要性を理解する。
第18回	注意 焦点的注意について	事前学習	教科書【認知の制御過程】
		事後学習	焦点的注意について復習する。
第19回	リサーチ発表準備 グループワーク	事前学習	各グループで発表内容について話し合う。
		事後学習	各グループで発表内容について話し合う。
第20回	注意 注意の分割について	事前学習	教科書【認知の制御過程】
		事後学習	注意の分割について復習する。
第21回	リサーチ発表準備 グループワーク	事前学習	各グループで発表内容について話し合う。
		事後学習	各グループで発表内容について話し合う。
第22回	認知症 さまざまな認知機能の問題	事前学習	配布資料【高齢者と認知症】を読む。
		事後学習	認知症による認知機能への影響を理解する。
第23回	授業内容のまとめ	事前学習	認知心理学研究の意義とは何かを考える。
		事後学習	これまでの授業内容を自分なりにまとめ、認知心理学の重要性を理解する。
第24回	リサーチ発表準備 グループワーク	事前学習	各グループで発表内容について話し合う。
		事後学習	各グループで発表内容について話し合う。
第25回	リサーチ発表・質疑応答	事前学習	発表グループは発表準備。
		事後学習	発表グループは発表内容を振り返る。
第26回	リサーチ発表・質疑応答	事前学習	発表グループは発表準備。
		事後学習	発表グループは発表内容を振り返る。
第27回	リサーチ発表・質疑応答	事前学習	発表グループは発表準備。
		事後学習	発表グループは発表内容を振り返る。
第28回	リサーチ発表・質疑応答	事前学習	発表グループは発表準備。
		事後学習	発表グループは発表内容を振り返る。
第29回	リサーチ発表・質疑応答	事前学習	発表グループは発表準備。
		事後学習	発表グループは発表内容を振り返る。
第30回	リサーチ発表・質疑応答	事前学習	発表グループは発表準備。
		事後学習	発表グループは発表内容を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECM1314
2. 授業担当教員	張 岩			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「中国の文化と言語Ⅰ」の学習を基礎に、中国の人びとの暮らし、伝統文化、風俗習慣を盛り込んだ教材を精読する。簡単な日常会話と文型を学び、生きた中国語会話の体験学習を必要に応じ適宜おこなう場合もある。例えば、ビデオを用いて、中国の大学生活や庶民の暮らしを紹介するなどはその一例である。これらを通して、日本に身を置くわたしたちの暮らしや考え方と比べてみる。			
8. 学習目標	1.中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができるようになる。 2.中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できる。 3.中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができる。 4.3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中の口頭発表：随時、ディスカッション後 (授業に対しての理解を確認する、個人の見解を述べて、皆で考える)。 授業中及び授業後のドリル：一課毎 (勉強した内容を振り返って、理解を強化する) レポート：1～2回 (映画などを見て考えよう。命題。800～1200文字) 小テスト、まとめドリル (採点あり)：学期中、期末 (学習内容がどれくらい習得したのかを確かめる)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】陳淑梅・劉光赤著『しゃべっていいとも中国語 (中西君と一緒に中国へ行こう)』朝日出版社。 (履修にあたって、教科書は必ず用意すること) 【参考書】(任意) ○中国語辞書 ○瀬戸口 律子著『完全マスター中国語の文法 改訂版』。 ○竹内 実著『北京』文芸春秋社。 ○沈潔 著『地域福祉と福祉NPOの日中比較研究』日本僑報社。 ○その他、インターネットなど			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (学習目標) 1. 中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができたか。 2. 中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できたか。 3. 中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができたか。 4.3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができたか。 ○評定の方法 事前学習・事後学習の状況も含め、授業への参加度、小テスト、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的な参加 総合点の 30% 2. 小テスト 総合点の 40% 3. 課題レポート 総合点の 30%			
12. 受講生へのメッセージ	現在の中国では、社会福祉をはじめ、多くの社会問題を抱えており、日本に比べて遅れている部分もあると思われます。その原因はさまざまだと思いますが、その根底にある中国の歴史、伝統、国家体制、社会の仕組みなどを理解する必要があると思います。近年、著しい経済発展や社会制度の改善により、日本とともに福祉を語る日も近いでしょう。そのときには、習い覚えた中国語でコミュニケーションの糸口を開くことができることを望んでいます。			
13. オフィスアワー	授業時間の前後に設ける			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	①「中国の文化と言語Ⅰ」の「まとめドリル」を講評、「中国の文化と言語Ⅰ」のポイント復習 ②教科書第9課「道をたずねる」 (動詞“在”、前置詞“从”“往”)	事前学習	予習：教科書 pp.44～46 (文法ポイントを理解する、練習問題を解く、本文を訳してみる、CDを聴いて発音をしてみる)	
		事後学習	復習：復習：教科書第9課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする) 教科書 pp.48-49 ドリル	
第2回	①教科書第9課 ②教科書 pp.48～49 ドリルの答え合わせ ③教科書第10課「ショッピングをする」 (数のいい方、形容詞が述語になる文)	事前学習	予習：教科書 pp.50～51 (文法ポイントを理解する、練習問題を解く、CDを聴いて発音をしてみる)	
		事後学習	復習：教科書第10課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる)	

第3回	①教科書第10課 pp.52～53 ②教科書 pp.54～55 ドリル ③映画「こころの湯」のその時代背景 (資料配布)	事前学習	教科書 p.52、CD を聴いて発音をしてみる、 第10課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第10課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる） 映画「こころの湯」について、資料を読む、調べる（インターネット、図書館など）
第4回	映画：「こころの湯」、レポート課題を配布	事前学習	映画「こころの湯」とその時代背景（資料を読む）
		事後学習	映画の内容をノートにまとめる
第5回	①教科書第11課「おしゃべりをする」 (年月日、曜日のいい方、年齢のいい方) ②ディスカッション、「こころの湯」 レポート課題について	事前学習	配布した資料やノート、調べた内容を留意 予習：教科書 pp.56～57（文法ポイントを理解する、練習問題を解く、CD を聴いて発音をしてみる）
		事後学習	復習：教科書第11課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめる） ディスカッションの内容をノートにまとめる、レポートの主旨を決める、レポートを書く
第6回	①教科書第11課 pp.58～59 ②教科書 pp.60～61 ドリル	事前学習	教科書 p.58、CD を聴いて発音をしてみる、 第11課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第11課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第7回	教科書第12課「料理を注文する」 (量詞、動詞の重ね型) レポート提出	事前学習	予習：教科書 pp.62～64（文法ポイントを理解する、練習問題を解く、本文を訳してみる、CD を聴いて発音をしてみる）レポートを用意
		事後学習	復習：教科書第12課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする）教科書 pp.66-67 ドリル
第8回	①教科書第12課 ②教科書 p.66～67 ドリルの答え合わせ ③教科書第13課「サッカーのチケットを買う」 (時刻のいい方、文末の“了”)	事前学習	予習：教科書 pp.68～69（文法ポイントを理解する、練習問題を解く、CD を聴いて発音をしてみる）
		事後学習	復習：教科書第13課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第9回	①教科書第13課 pp.70～71 ②教科書 p.72～73 ドリル ③ビデオ：中国いろいろ	事前学習	教科書 p.70、CD を聴いて発音をしてみる、 第13課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第13課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第10回	教科書第14課「マッサージ」 (時間の長さのいい方、完了を示す“了”)	事前学習	予習：教科書 pp.74～76（文法ポイントを理解する、練習問題を解く、本文を訳してみる、CD を聴いて発音をしてみる）
		事後学習	復習：教科書第14課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする）教科書 pp.78-79 ドリル
第11回	①教科書第14課 ②教科書 p.78～79 ドリルの答え合わせ ③教科書第15課「インターネットカフェ」 (前置詞“給”、助動詞“可以”“能”)	事前学習	予習：教科書 pp.80～81（文法ポイントを理解する、練習問題を解く、CD を聴いて発音をしてみる）
		事後学習	復習：教科書第15課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）

第12回	①教科書第15課 p.82～83 ②教科書 p.84～85 ドリル	事前学習	教科書 p.82、CDを聴いて発音をしてみる、第15課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第15課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第13回	教科書第16課「電話をかける」 （動詞の進行態、助動詞“会”）	事前学習	予習：教科書 pp.86～88（文法ポイントを理解する、練習問題を解く、本文を訳してみる、CDを聴いて発音をしてみる）
		事後学習	復習：教科書第16課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする）教科書 p.90-91 ドリル
第14回	①教科書第16課 ②教科書 p.90～91 ドリルの答え合わせ ③9～16課復習練習問題	事前学習	ノート、教科書、プリントを整理して用意
		事後学習	復習：教科書第16課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる） 総復習：9～16課の授業でノートにメモした内容や、教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる、9～16課復習練習問題を覚える
第15回	映像で復習（DVD） 学習のまとめ（まとめドリル）	事前学習	ノート、教科書、プリントを整理して用意
		事後学習	「学習のまとめ」で分からないところをまとめる

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	GECM1718
2. 授業担当教員	石山 哲也		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「日本の文化と言語Ⅰ」で養った日本語運用能力をさらにレベルアップすることを目指します。日本の文化や言語について、具体性のあるテーマやトピックを扱いながら、新聞や雑誌など、一般的な読み物に用いられる語彙に対する知識や意味的なまとまりごとの要点をとらえる読解力を養成していきます。本講義は、資料の読解、発表とディスカッション、作文、そして語彙・文法に関する小テスト等で構成されます。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 一般的な読み物に用いられる語彙力や要点をとらえるための読解力を身につけ、実践することが出来る。 日本の文化・社会に関する具体的な問題を多角的に分析し、論点を明確にする能力を身につけることができる。 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働する力を向上させ、具体的な日本の文化や言語の問題について、ディスカッションすることが出来る。 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・言語に関する理解を深める。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 日本の文化や言語についての理解を確認するため、教科書pp. 159-166の内容確認問題を行う。 日本の文化や言語について、自分の立場から説明できるようになるために、授業内容に指示したTaskを実施する。 各回のTaskで取り組んだテーマのなかから一つを選び、期末レポートを作成する。 		
10. 教科書・参考書・教材	佐々木瑞枝『クローズアップ日本事情 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパントイムズ、2017。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 一般的な読み物に用いられる語彙力や要点をとらえるための読解力を身につけ、実践することができたか。 日本の文化・言語に関する具体的な問題を多角的に分析し、論点を明確にする能力を身につけることができたか。 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働する力を向上させ、具体的な日本の文化や言語の問題について、ディスカッションすることができたか。 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・言語に関する理解を深めることができたか。 <p>○評定の方法：以下の点を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業への参加態度 総合点の30% 試験 (小テスト・期末試験、口頭発表による試験等) 総合点の30% 提出課題 (レポート等) 総合点の40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業を通して、様々な日本の文化や言語に目を向けるきっかけを提供したい。アサインメント及びレポートについては、受講生の関心や状況に応じて、扱うテーマや分量などの調整を行う場合があるが、授業担当教員の指示に従って取り組んでほしい。</p> <p>なお、受講に際して、特に以下の点には注意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻、早退など (不必要な退出も含む) せず、積極的に参加すること。 提出物、宿題は必ず提出すること。 授業での配布物はなくさないこと。 教科書は毎回必ず持参すること。 分からないことは、担当教員に必ず質問、確認をすること。 授業に関係のない私語はしないこと。 		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業概要の説明	事前学習	日本の文化と言語Ⅰで学習した範囲について、紹介できるようにしておく。
		事後学習	この授業での目標を文章にまとめてみる。
第2回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Task B あなたの国の歴史と日本 (旧石器時代から安土桃山時代まで)	事前学習	教科書 pp.68-69 の年表をみて、興味を持った時代について調べておく。
		事後学習	教科書 p.67 Task B に取り組んでおく。
第3回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Task E あなたの国の歴史と日本 (江戸時代から現代まで)	事前学習	教科書 pp.72-73 の年表をみて、興味を持った時代について調べておく。
		事後学習	教科書 p.71 Task E に取り組んでおく。
第4回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 あなたの国と日本の歴史について紹介する	事前学習	Task B・Task E を踏まえ、あなたの国の歴史についてテーマを決めて紹介できるようにしておく。
		事後学習	あなたの国と日本の歴史の共通点や相違点について整理してみる。
第5回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Task C 18世紀後半の世界について	事前学習	教科書 p.70 の Task C に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 p.70 を踏まえ、18世紀後半の世界と日本について整理してみる。

第6回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Task D 寺子屋について	事前学習	教科書 p.70 の Task D に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 p.70 を踏まえ、寺子屋の特徴をまとめてみる。
第7回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Task F 日本の世界文化遺産について	事前学習	教科書 p.75 の Task F に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 p.75 を読み返し、世界遺産について説明できるようにしておく。
第8回	Unit 6 知っておきたい日本の歴史 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.53-76 を読み直し、p.159 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.53-76 で身につけた語彙をまとめてみる。
第9回	Unit7 伝統文化体験 Task A 短歌・川柳・俳句	事前学習	教科書 p.78 を読み、和歌・俳句・川柳について説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.79 の Task A に取り組んでおく。
第10回	Unit7 伝統文化体験 Task C 舞台見学のプラン作成	事前学習	教科書 pp.80-82 を読み、歌舞伎や能楽について、説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.82 の Task C に取り組んでおく。
第11回	Unit7 伝統文化体験 Task E 伝統文化の体験プランの作成	事前学習	教科書 p.84 の Task E に取り組んでおく。
		事後学習	授業内で発表した体験プランを清書する。
第12回	Unit7 伝統文化体験 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.77-87 を読み直し、p.160 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.77-87 で身につけた語彙をまとめておく。
第13回	Unit8 現代文化とポップカルチャー Task A・B あなたの国と日本のモバイル機器利用の状況について	事前学習	教科書 p.91 の Task A・Task B に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 pp.90-91 を踏まえ、あなたの国と日本のモバイル機器利用の状況の違いについて整理してみる。
第14回	Unit8 現代文化とポップカルチャー Task D あなたの好きな日本や自国の音楽について発表する	事前学習	教科書 p.93 の Task D に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 pp.92-93 を踏まえ、日本のポップカルチャーの特徴を整理してみる。
第15回	Unit8 現代文化とポップカルチャー 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.89-95 を読み直し、p.161 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.89-95 で身につけた語彙をまとめておく。
第16回	Unit9 スポーツの楽しみ方 1 相撲	事前学習	教科書 pp.98-99 を読み、相撲について説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.98 Task A に取り組んでおく。
第17回	Unit9 スポーツの楽しみ方 3 世界で活躍する日本人選手、日本で活躍する外国人選手	事前学習	教科書 p.101 を読み、世界で活躍する日本人選手、日本で活躍する外国人選手について説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.101 の Task D に取り組んでおく。
第18回	Unit9 スポーツの楽しみ方 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.97-104 を読み直し、p.162 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.97-104 で身につけた語彙をまとめておく。
第19回	Unit10 前進を続ける科学技術 1 日本の科学技術政策	事前学習	教科書 p.106 を読み、日本の科学技術政策について、説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.106 の Task A に取り組んでおく。
第20回	Unit10 前進を続ける科学技術 2 科学技術が生み出すイノベーション	事前学習	教科書 pp.107-109 を読み、日本の科学技術の特徴を整理してみる。
		事後学習	教科書 p.109 Task C に取り組んでおく。
第21回	Unit10 前進を続ける科学技術 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.105-112 を読み直し、p.163 の内容確認問題を答えることが出来るようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.105-112 で身につけた語彙をまとめておく。
第22回	Unit11 地球のためにできること 1 地球温暖化防止に向けて	事前学習	教科書 p.114 を読み、地球温暖化について説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.115 の Task A に取り組んでおく。

第23回	Unit11 地球のためにできること 2 温室効果ガス削減への取り組み	事前学習	教科書 p.115 を読み、温室効果ガス削減の取り組みについて説明できるようにしておく。
		事後学習	教科書 p.116 の Task B に取り組んでおく。
第24回	Unit11 地球のためにできること 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.113-120 を読み直し、p.164 の内容確認問題を答えることができるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 113-120 で身につけた語彙をまとめておく。
第25回	Unit12 教育と子供たち Task A あなたの国の子どもの数	事前学習	教科書 p.122 の Task A に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 p.122 を踏まえ、日本の子どもの数について説明できるようにしておく。
第26回	Unit12 教育と子供たち Task B あなたの国の時間割	事前学習	教科書 p.124 の Task B に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 pp.123-125 を踏まえ、日本の学校の特徴をまとめてみる。
第27回	Unit12 教育と子供たち 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.121-128 を読み直し、p.165 の内容確認問題を答えることができるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 121-128 で身につけた語彙をまとめておく。
第28回	Unit13 産業構造と経済 Task D	事前学習	教科書 p.132 の Task D に取り組んでおく。
		事後学習	教科書 pp.130-132 を踏まえ、日本の産業の特徴をまとめてみる。
第29回	Unit13 産業構造と経済 内容確認問題	事前学習	教科書 pp.130-136 を読み直し、p.166 の内容確認問題を答えることができるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp. 130-136 で身につけた語彙をまとめておく。
第30回	確認テスト・まとめ	事前学習	Unit6 から Unit13 を読み直し、pp.159-166 の内容確認問題を答えることができるようにしておく。
		事後学習	この授業を通して理解を深めることが出来た日本の文化や言語について紹介文を作成してみる。

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (4 単位)		3. 科目番号	PSMP1112
2. 授業担当教員	中野 真也			
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>従来発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目されはじめている。また、老人だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、発達心理学と福祉の関係を学習することの重要性が高まっている。</p> <p>そこで、本講義では、発達心理学の方法と考え方を学び、①認知機能の発達及び感情・社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理について学ぶ。</p>			
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、講義概要の①～⑤を学び、説明できるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題を2つと、学習内容の確認試験を実施する。レポート課題1は、冬休み明けを提出期限とし、それまでに「講義で扱ったテーマを1つ選び、その概要をまとめた上で、心理学的支援にどう活かすか」について論じること。レポート課題2は、「講義内容を踏まえて、自分のこれまでの発達を振り返り、今後の自分をどう成長させていくか」について論じること。学習内容の確認試験は、発達心理学の重要なトピックに関する理解度全般を問う内容とし、第29・30回講義内で実施する。各自で教科書の指定箇所を読むなど、事前事後学習に励むこと			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 (監修) 林創 (編著) 『公認心理師スタンダードテキスト1 2 発達心理学』ミネルヴァ書房、2019。</p> <p>【参考書】 林洋一 (監修) 『史上最強図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社、2010。</p> <p>*その他、必要に応じて適宜資料を配布する</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>次の1、2について理解し説明できるか。</p> <p>1. 生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程</p> <p>2. 正常な発達と発達の障害の理解と支援</p> <p>○評定の方法</p> <p>平常点 (授業態度・授業への参加・授業内諸活動) 50%</p> <p>まとめの課題 (テスト・レポート・発表などの活動) 50%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>発達心理学は、人の成長・変化を時間軸で見えていく視点であり、人間のさまざまな問題を捉える際に必須の知識となります。ライフサイクルの各段階における発達課題、認知機能及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達など、さまざまな点から子どもが大人になっていく過程を理解しようと努めてください。また、発達理論を参照とし、自分自身のこれまでとこれからについて考えてみてください。</p> <p>適宜グループワークなどを行い、講義内容について疑問を持ち、自分で考え質問するなど、主体的に参加することを求めます。そのため、講義や他の人に迷惑をかけるような行為、身勝手なふるまいなどは厳しく指導します。成績評価の50%が平常点であり、授業態度によって単位取得ができない場合もあります。</p>			
13. オフィスアワー	時間帯は決まり次第、授業時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション:発達心理学をなぜ学ぶのか①	事前学習	シラバスを一読する	
		事後学習	講義概要、学習目標、成績評価の方法の詳細を確認する。	
第2回	オリエンテーション:発達心理学をなぜ学ぶのか②	事前学習	発達心理学について自分なりに調べておく。	
		事後学習	発達心理学を学ぶ意義についてまとめる。	
第3回	公認心理師のための発達心理学①	事前学習	教科書2～11ページを読んでおく。	
		事後学習	教科書2～11ページをまとめる。	
第4回	公認心理師のための発達心理学②: 演習・討議	事前学習	教科書2～11ページを読んでおく。	
		事後学習	教科書2～11ページをまとめる。	
第5回	発達の生物学的基礎①	事前学習	教科書12～25ページを読んでおく	
		事後学習	教科書12～25ページをまとめる。	
第6回	発達の生物学的基礎②: 演習・討議	事前学習	教科書12～25ページを読んでおく。	
		事後学習	教科書12～25ページをまとめる。	
第7回	感覚と運動の発達①	事前学習	教科書28～41ページを読んでおく。	
		事後学習	教科書28～41ページをまとめる。	
第8回	感覚と運動の発達②: 演習・討議	事前学習	教科書28～41ページを読んでおく。	
		事後学習	教科書28～41ページをまとめる。	
第9回	アタッチメント(愛着)の発達①	事前学習	教科書42～53ページを読んでおく。	
		事後学習	教科書42～53ページをまとめる。	

第10回	アタッチメント(愛着)の発達②: 演習・討議	事前学習	教科書 42～53 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 42～53 ページをまとめる。
第11回	認知の発達①	事前学習	教科書 54～69 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 54～69 ページをまとめる。
第12回	認知の発達②: 演習・討議	事前学習	教科書 54～69 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 54～69 ページをまとめる。
第13回	社会性の発達①	事前学習	教科書 70～79 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 70～79 ページをまとめる。
第14回	社会性の発達②: 演習・討議	事前学習	教科書 70～79 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 70～79 ページをまとめる。
第15回	感情と自己の発達①	事前学習	教科書 80～91 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 80～91 ページをまとめる。
第16回	感情と自己の発達②: 演習・討議	事前学習	教科書 80～91 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 80～91 ページをまとめる。
第17回	遊びと対人関係の発達①	事前学習	教科書 92～103 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 92～103 ページをまとめる。
第18回	遊びと対人関係の発達②: 演習・討議	事前学習	教科書 92～103 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 92～103 ページをまとめる。
第19回	言語と思考をめぐる発達①	事前学習	教科書 104～119 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 104～119 ページをまとめる。
第20回	言語と思考をめぐる発達②: 演習・討議	事前学習	教科書 104～119 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 104～119 ページをまとめる。
第21回	定型発達と非定型発達①	事前学習	教科書 158～172 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 158～172 ページをまとめる
第22回	定型発達と非定型発達②: 演習・討議	事前学習	教科書 158～172 ページを読んでおく
		事後学習	教科書 158～172 ページをまとめる
第23回	青年期①	事前学習	教科書 120～131 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 120～131 ページをまとめる。
第24回	青年期②: 演習・討議	事前学習	教科書 120～131 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 120～131 ページをまとめる。
第25回	成人期①	事前学習	教科書 132～145 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 132～145 ページをまとめる。
第26回	成人期②: 演習・討議	事前学習	教科書 132～145 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 132～145 ページをまとめる。
第27回	老年期①	事前学習	教科書 146～157 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 146～157 ページをまとめる。
第28回	老年期②: 演習・討議	事前学習	教科書 146～157 ページを読んでおく。
		事後学習	教科書 146～157 ページをまとめる。
第29回	まとめと復習①: 学習内容の確認	事前学習	教科書と講義内容をおさらいしておく
		事後学習	理解が不十分だった点を復習する
第30回	まとめと復習②: 発達心理学の知見を活かす	事前学習	これまで学んだことを、自らの体験と今後の成長に照らし合わせて考えてみる
		事後学習	学びを今後の成長に活用する

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP1112
2. 授業担当教員	佐藤 篤司		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>従来発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目されはじめている。また、老人だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、発達心理学と福祉の関係を学習することの重要性が高まっている。</p> <p>そこで、本講義では、発達心理学の方法と考え方を学び、①認知機能の発達及び感情・社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、講義概要の①～⑤を学び、説明できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	事前学習において、授業の中で取り扱う予定の内容について調べておき、事後学習では授業内で扱った重要語句を500字程度で纏めておくこと。レポート課題の内容は発達論に関するものとする。レポート課題の提出期限は授業最終日とする。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特に指定しない。スライドやプリントを使用する。</p> <p>【参考書】 内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 次の1、2について理解し説明できるか。</p> <p>1. 生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程 2. 正常な発達と発達の障害の理解と支援</p> <p>○評定の方法 平常点 (授業態度・授業への参加・授業内諸活動) 50% まとめの課題 (テスト・レポート・発表などの活動) 50%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「心の発達」という視点は、人間のさまざまな問題を捉える際に必須の知識となります。乳幼児期に限らず、児童期、思春期を越えて大人になっていく過程をしっかりと理解してください。また、発達理論を参照枠として自身の発達を振り返って、発達について考えてみてください。</p> <p>初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。</p>		
13. オフィスアワー	時間帯は決まり次第、授業時に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを熟読する
		事後学習	講義概要、学習目標、成績評価の方法の詳細を確認する。
第2回	発達とは	事前学習	発達心理学について自分なりに調べておく。
		事後学習	発達心理学についての全体像をノートにまとめておく。
第3回	精神分析理論	事前学習	精神分析的な人格理論について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第4回	精神分析理論についての発表	事前学習	精神分析的な人格理論について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第5回	乳幼児期①精神分析	事前学習	乳幼児期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第6回	乳幼児期①についての発表	事前学習	乳幼児期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第7回	乳幼児期②アタッチメント	事前学習	乳幼児期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第8回	乳幼児期②についての発表	事前学習	乳幼児期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第9回	幼児前期	事前学習	幼児前期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第10回	幼児前期についての発表	事前学習	幼児前期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。

第11回	幼児後期	事前学習	幼児後期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第12回	幼児後期についての発表	事前学習	幼児後期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第13回	学童期	事前学習	学童期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第14回	学童期についての発表	事前学習	学童期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第15回	思春期	事前学習	思春期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第16回	思春期についての発表	事前学習	思春期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第17回	青年期	事前学習	青年期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第18回	青年期についての発表	事前学習	青年期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第19回	成人前期	事前学習	成人前期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第20回	成人前期についての発表	事前学習	成人前期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第21回	成人期	事前学習	成人期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第22回	成人期についての発表	事前学習	成人期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第23回	老年期	事前学習	老年期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第24回	老年期についての発表	事前学習	老年期の発達について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第25回	発達に関連する障害①環境	事前学習	発達上の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第26回	発達に関連する障害①についての発表	事前学習	発達上の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第27回	発達に関連する障害②遺伝	事前学習	発達上の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	授業内で配布したレジュメの重要語句を、自分なりの言葉でまとめておく。
第28回	発達に関連する障害についての発表	事前学習	発達上の問題について自分なりに調べておく。
		事後学習	自分なりにまとめた言葉を暗記し、500字程度で書き出してみる。
第29回	全体のまとめ	事前学習	レポート提出の準備をする。
		事後学習	授業のまとめをノートに記入する。
第30回	確認のワーク	事前学習	まとめたノートを見直しておく。
		事後学習	記入していなかった重要語句をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	福祉行財政と福祉計画 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3103
2. 授業担当教員	宮崎 栄二		SBMP3103
4. 授業形態	講義、グループ討議等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>市場の失敗が問われている現在、これからは福祉分野においても、行政の役割が市場機能より重要になると考えられる。こうした問題意識から本講義は福祉と関連し、パブリック (行政) が行っている事について以下の点を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉の行財政の実施体制 (国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。) について理解する。 福祉行財政の実際について理解する。 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 福祉分野において市場の失敗と行政の機能の変化について理解し、説明することができる。 福祉サービスの担い手として行政組織の役割について学習し、理解を深める。 福祉予算と福祉サービスの関係について学び、説明できるようになる。 福祉計画の理論と技法について、また、福祉計画がなぜ重要になってきたのかについて学び、説明できるようになる。 福祉行政の過程すなわち、plan→do→see→feed back について学び、理解を深める。 福祉計画の策定のとき、なぜ住民参加が重要なのかについて理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 学生が住んでいる市町村へ出向き、それぞれの市町村の「総合振興計画」「地域福祉計画」「高齢者保健福祉・介護保険事業計画」「障害者計画」「エンゼルプラン」等を収集し、その基本理念等をまとめる。(中間レポート課題) その他の課題は、授業の際に提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』中央法規。</p> <p>【参考書】 坂田周一『社会福祉計画』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会福祉構造改革以後、変わった福祉行政のやり方について理解できたか 福祉財政についてその内容と課題について理解できたか 地域福祉と福祉計画地に関連し、それぞれの福祉計画について理解できたか 発表や討議を通して発表力の向上ができたか <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業への積極的な参加度 (討議や発表など) : 40% 課題レポート及び予習ノート : 30% 総括テスト : 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>社会保障・社会福祉の制度、法律、財政、現状や課題などについて、自主的に学ぶこと。また、日頃から主体的に資料やニュース、参考文献、各省庁インターネット情報などに目を通しておいください。(特に社会保障・社会福祉制度の法律・制度の矛盾・現状・動向について、日頃から関心を持って資料収集してください。)</p> <p>履修にあたっては次の事を最低限守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること。 ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義の狙いと概要)、教科書『福祉行財政と福祉計画』第1章第1節福祉と制度について学ぶ	事前学習	教科書第1章第1節を読み、社会福祉の概要を調べ、確認する。
		事後学習	旧・社会福祉事業法と現・社会福祉法の差異をまとめる。(目的・基本理念・地域福祉関係)
第2回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第1章第2・3節福祉法制度の歴史と福祉計画の概要について学ぶ	事前学習	教科書第1章第2・3節を読み、社会福祉六法を中心に社会福祉法制度の発展過程について調べる。
		事後学習	福祉計画と予算制度・財源配分についての概要をまとめる。(練習問題)
第3回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第2章第1・2・3節福祉行政① (行政の骨格、国の役割、都道府県の役割、市町村の役割) について学ぶ	事前学習	教科書第2章第1・2・3節を読み、三権分立と政府の役割を調べる。
		事後学習	国と自治体との関係をまとめる。法定受託事務・自治事務について福祉行政事務の変化をまとめる。(練習問題)
第4回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第2章第4節福祉行政② (社会福祉基礎構造改革と福祉サービス利用方法) について学ぶ	事前学習	教科書第2章第4節を読み、社会福祉基礎構造 (改革) を調べる。
		事後学習	措置から契約など、福祉サービス利用方法の変化をまとめる。(練習問題)

第5回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第3章第1～5節 福祉財政（福祉の財源）について学ぶ	事前学習	教科書第3章第1～5節を読み、財政・財源とはなにかを調べる。一般会計予算と特別会計予算の違いを調べる。
		事後学習	地方自治体の財政と民生費の動向をまとめる。応益負担と応能負担の違いをまとめる。（練習問題）
第6回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第4章第1～4節 福祉行政の組織・団体と専門職の役割について学ぶ	事前学習	教科書第4章第1～4節を読み、社会福祉法により福祉事務所の設置規定等について調べる。
		事後学習	社会福祉専門機関の組織体制（児童相談所・身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所・婦人相談所）をまとめる。（練習問題）
第7回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第4章第5・6節 地域の相談システム（地域包括支援センター・子育て支援センター等）について学ぶ	事前学習	教科書第4章第5・6節を読み、地域包括支援センターについて、機能や役割を調べる。
		事後学習	社会福祉専門機関の専門職（社会福祉主事・児童福祉司・身体障害者福祉司・知的障害者福祉司）についてまとめる。（練習問題）
第8回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第5章第1～3節 福祉計画の目的と意義について学ぶ	事前学習	教科書第5章第1～3節を読み、福祉計画の目的・意義を調べる。
		事後学習	福祉行政における市町村主義及びケアプランの登場と計画の連続性についてまとめる。（練習問題）
第9回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第6章第1～3節 福祉計画の理論と技法について学ぶ	事前学習	教科書第6章第1～3節を読み、日常性と非日常性について調べる。
		事後学習	テクノクラート官僚とストリートレベル官僚についてまとめる。（練習問題）
第10回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第6章第4・5節 福祉計画の評価と住民参加について学ぶ	事前学習	教科書第6章第4・5節を読み、福祉計画事後評価のポイントについて調べる。
		事後学習	社会福祉サービスのプログラム評価についてまとめる。（練習問題）
第11回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第7章第1・2節 福祉計画の実際①（老人福祉計画・介護保険事業計画）について学ぶ	事前学習	教科書第7章第1・2節を読み、福祉計画の分析的枠組みとは何かについて調べる。地域特性・福祉特性について調べる。
		事後学習	ゴールドプラン、老人福祉計画、介護保険事業計画について概要をまとめる。（練習問題）
第12回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第7章第3節 福祉計画の実際②（障害者福祉計画）について学ぶ	事前学習	教科書第7章第3節を読み、新「障害者基本計画」及び「障害者総合支援法」について調べる。
		事後学習	「障害者プラン～ノーマライゼーション7か年戦略～」についてまとめる。（練習問題）
第13回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第7章第4節 福祉計画の実際③（次世代育成支援行動計画）について学ぶ	事前学習	教科書第7章第4節を読み、次世代育成支援対策推進法について調べる。
		事後学習	次世代育成支援行動計画の種類についてまとめる。（練習問題）
第14回	教科書『福祉行財政と福祉計画』第7章第5節 福祉計画の実際④（地域福祉計画）について学ぶ	事前学習	教科書第7章第5節を読み、社会福祉法第4条・107条を中心に、地域福祉計画関係の条文を調べる。
		事後学習	地域福祉計画の基本的骨格をまとめる。学生の住む自治体の地域福祉計画を確認する。
第15回	最近の福祉行政の話題 全体のまとめ	事前学習	福祉行政実施体制・生活保護支給事務など実際の話題に目を向け調べる。
		事後学習	福祉行財政と福祉計画の全体を振り返り、国家試験問題についても対応できるようにする。（練習問題）
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉と教育 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1329 GELA1349
2. 授業担当教員	篠 大輔		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義 (学習参考例)、演習 (ワークシート)、ディスカッション、レポート課題、発表			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	福祉や教育の現場では、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉や教育を必要とする各人のニーズに応えられるように解決していかなければならない。そのためには、これまで我が国で主流とされてきた一方的な知識注入型の授業法を改め、学生が主体となって学習に取り組めるような双方向対話型の授業法に切り替えていかなければならない。本授業では、主に「新聞記事」「視覚教材」「学習参考例」などをもとにして、日本の福祉と教育のあり方について考え、真に必要な能力は何かを分析しながら、現代社会で求められる福祉従事者や教育者のあり方について考察する。			
8. 学習目標	本講義では、①ディスカッションでは、他人の意見を受け入れつつ、柔軟な思考力や問題解決能力を養うこと、②発表では、聞き手に理解されやすい表現力を身に付けること、③レポート課題では、論理的でわかりやすく簡潔な文章が書けるような文章作成能力を身に付けること、を学習目標にしている。また、①～③に記した能力を兼ね備え、福祉や教育の現場で役立つ実践力を身に付けることを究極の目標としている。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. ワークシート (各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 期末レポート 「授業の内容を踏まえた上で、今後の福祉や教育の現場で行うべき対人援助のあり方について自らの考えを述べなさい。」			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。 【参考文献】 参考文献については、テーマごとに紹介する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・福祉や教育に関する現代的な課題について理解することができたか。 ・ディスカッションにおいて、他の人の意見を受けとめ、自分の意見を分かりやすい表現で伝えることができたか。 ○評定の方法 ・平常点 (積極的参加度・授業態度・発言等) 20% ・理解度 (ディスカッション記録、レポート、発表内容、資料等の作成など) 20% ・期末評価 (レポート・試験等) 60% 3/4 以上の出席が確認できない場合には単位を認めないこととする。さらに、欠席は 1 回 (90 分)につき 10 点を減点することとし、遅刻や早退はその時間分を減点する。ただし、特別な事情で欠席、遅刻、早退した場合には考慮し、課題を与えるなどして対応する。			
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 2. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 4. レポートや課題の提出期限を守ってください。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方等を説明)	事前学習	福祉と教育に関して興味のあることを整理しておく。	
		事後学習	「福祉と教育」を学ぶ意義について自分なりの考えをまとめておく。	
第 2 回	いじめ問題① - 現代における「いじめ」の現状 -	事前学習	いじめの問題について知っていることを整理しておく。	
		事後学習	DVD の視聴やディスカッションを通して、いじめ問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 3 回	いじめ問題② - 「いじめ」の解決にむけて -	事前学習	前回に取り上げたいじめの問題について復習しておく。	
		事後学習	DVD の視聴やディスカッションを通して、いじめ問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 4 回	不登校	事前学習	不登校の問題について知っていることを整理しておく。	
		事後学習	DVD の視聴やディスカッションを通して、不登校の問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 5 回	フリースクール	事前学習	フリースクールについて知っていることを整理しておく。	
		事後学習	DVD の視聴やディスカッションを通して、フリースクールについて自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 6 回	子どもの発達障害	事前学習	発達障害について知っていることを整理しておく。	
		事後学習	DVD の視聴やディスカッションを通して、発達障害について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	
第 7 回	大人の発達障害	事前学習	前回に取り上げた発達障害について復習しておく。	
		事後学習	DVD の視聴やディスカッションを通して、発達障害について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。	

第8回	子どもの虐待	事前学習	子どもの虐待の問題について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、子どもの虐待問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第9回	子どもの貧困① - 現状の課題 -	事前学習	子どもの貧困の問題について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、子どもの貧困問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第10回	子どもの貧困② - 課題の解決にむけて -	事前学習	前回、取り上げた子どもの貧困問題について復習しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、トラウマ治療について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第11回	ハンセン病問題について	事前学習	ハンセン病問題について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、ハンセン病の問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第12回	障害者差別解消法について	事前学習	障害者差別解消法について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、障害者差別解消法について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第13回	若年介護問題について	事前学習	若年介護問題について知っていることを整理しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、介護離職問題について自分なりに考えをワークシートにまとめておく。
第14回	レポート作成 (今後の福祉や教育の現場で行うべき対人援助のあり方について考察する。)	事前学習	レポートの課題について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	レポートでは書ききれなかったことについて整理しておく。
第15回	まとめ - 「福祉と教育」の授業を振り返って	事前学習	これまでの授業で使用したワークシートを見直し、ふり返っておく。
		事後学習	返却されたレポートの見直しをして、今後の授業に活用する。

1. 科目名 (単位数)	法学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1316
2. 授業担当教員	本沢 一善		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	この科目は法律全般に及ぶので憲法も一通り触れるが、できれば「法学 (憲法)」の科目を学んだあとに履修が望ましい。		
7. 講義概要	<p>この講義は、憲法、民法、労働法等、各種の法に関する一般的な約束事や社会生活を送っていくために必要な基礎的な法の概略を学ぶものである。</p> <p>この講義では、法学をはじめて学ぶ学生を主たる対象に、法と社会、法の種類、法解釈等について学習するとともに、社会生活に関連する法律として、家族、財産に関する民法等の民事法の概略、犯罪に関する刑法等の刑事法の概略、労働法などの社会法の一部について学習する。この学習を通じて、法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得する。</p> <p>この講義は、法学を専門とするわけではない法学初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いので、深く突っ込んだ議論を行うことは困難であるとともに、かなりのスピードで法律について学んで頂くことになり、また、事前・事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。また、比較的一方方向の講義になる可能性が高いことも留意して下さい。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得し、法学的に物事を考えることができるようになる。 2. 教科書のポイントを理解し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の法律科目に対応できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。</p> <p>事前・事後学習の提出についても採点・返却する。</p> <p>授業進行のなかで、90分以上をとり項目を選び、グループ学習を行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】○本沢一善『法学要説』学文社、改訂版 2014.10。</p> <p>【参考書】○教材・印刷物 (教科書の要約+労働法・商法)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法学一般の基礎知識を理解し、説明できたか。 ・条文や判例の読み方を修得したか。 ・採用試験で出題される問題に対応しうる知識を身に付けたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への参加度 (出席、発表、授業態度等) を 30%，レポート、小テスト、期末テストなどの結果を 70% とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事前と事後の学習をし、疑問を次回に質問し、次回の予定の項目につき、一覧しておく。 ・授業態度の悪い学生 (おしゃべり、授業をぬけ出る、教科書のわずれなど) はチェックし、評価にカウントする。 		
13. オフィスアワー	授業前と授業後に行う。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	法律全般 a 法とは、b 種類	事前学習	「第 1 節 [2] (2) 裁判規範、第 2 節 [1] 法源」を熟読し、原則 A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 [2] (1) 制定法、[3] (4) 一般法と特別法」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 2 回	憲法 1 a 憲法の歴史—外国、日本、 b 国民主権	事前学習	「第 1 章 第 1 節 [2] 硬性憲法と軟性憲法、[3] 最高法規制」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 [1] 国民主権、[2] 象徴天皇制」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 3 回	憲法 2 a 基本的人権—自由権、社会権	事前学習	「第 3 節 [1] (3) 享有する主体、(5) 新しい人権」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[4] (1) 社会権総論、(2) 生存権」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 4 回	憲法 3 a 立法権—国会、b 行政権—内閣	事前学習	「第 7 節 [1] (3) 唯一の立法機関、第 8 節 [2] (1) 内閣の組織」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 7 節 [2] (1) 二院制、第 8 節 [2] (2) 総理大臣の権限、[3] 内閣の機能」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 5 回	憲法 4 a 司法権—裁判所、b 財政、 c 地方自治	事前学習	「第 9 節 [2] 裁判所、第 1 1 節 [2] 地方公共団体の組織」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 9 節 [1] (2) 司法権の限界、第 1 0 節 [3] 公金の支出、[3] 地方公共団体の機能」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 6 回	民法 1 a 行為能力、b 法律行為	事前学習	「第 2 章 [2] (1) 自然人の権利能力、[3] 成年後見制度、[5] 法律行為」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 章 [2] (2) 行為能力、[7] 代理、第 2 節 物

			権、第3節 債権」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第7回	民法2 a 親族、b 相続	事前学習	「第4節[1]親族、[2]婚姻と離婚、[6]相続」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第4節[4]親子、[7]遺言と遺留分」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第8回	行政法1 a 行政の活動、b 組織、c 行政手続	事前学習	「第3章第2節 行政の組織、第3節[1]行政行為」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第3節[2]行政指導など、[4]行政強制」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第9回	行政法2 a 行政救済、b 地方行政	事前学習	「第4節[1](3)審査請求など、第5節[2]地方自治体の組織」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第4節[3]国家補償、第6節[2]個人情報保護法」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第10回	刑法など1 a 刑法	事前学習	「[刑法]第2節1法違法と犯罪防止、(7)社会的処遇など」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2節[1](4)犯罪の成立要件」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第11回	刑法など2 a 少年法	事前学習	「第2節[2](1)目的[少年法]、(2)対象となる少年」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第2節[2](4)家庭裁判所」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第12回	労働法1	事前学習	「[労働法]1.労働法とは、4.労働契約」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「5.賃金、9.就業規則など」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第13回	労働法2	事前学習	「11.労働組合、13.労働協約」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「12.団体交渉、14.争議行為など」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第14回	商法	事前学習	「[商法]1.商法と商行為など、3.営業譲渡」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「4.支配人、代理商など、5.商事契約」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第15回	総合まとめ	事前学習	大事だと思う項目を3つ選び、内容を手書でまとめる。教科書の巻末の「設問と解答および解説」155項目から質問を3つ選ぶ。
		事後学習	総まとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	法学Ⅱ (民法、行政法) (4 単位)		3. 科目番号	GELA2317
2. 授業担当教員	本沢 一善			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	○本科目の履修にあたっては、本学設置科目「法学概論」及び「法学 (憲法)」 (少なくとも、「法学概論」) を事前に履修済 (単位取得済)、または、本科目と並行して履修中であることが強く望まれる。			
7. 講義概要	<p>社会福祉や教育に携わる者は、社会保障や教育制度に関する諸法令についての基礎知識を理解し、その具体化を図るため、民法 (総則・財産法・家族法) 及び行政法 (行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等) に関する基礎知識を学び、その実践に求められる能力、いわゆるリーガルマインドを習得する必要がある。</p> <p>また、法律科目の特性上、まず法律の条文を読んで理解し、適切に解釈できるようになるとともに、判例を学び、各々の法律条文がどのように解釈され、適用されているのかを理解できるようにならなければならない。そのため、この講義では、条文に当たり、判例を検討しながら学習を進めていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 条文や判例に基づいて法律を解釈できるようになる。 2. 民法、行政法の基礎知識を習得し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の民法、行政法科目に対応できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○各回の授業内容に示すキーワード・法律用語については少なくとも調べておくこと。</p> <p>○ほぼ毎回の授業の最後にリアクションペーパーの提出を求める予定である。これは、その回の授業で何を学習した内容をどこまで理解できたかを確認・評価するものであり、下記「授業への積極的参加」の評価の対象となる。したがって、「正しい」日本語の「文章」で、「正確な」情報・知識を記述すること。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>○授業内容の目次の骨子を示したレジュメあるいは参考資料を配布する予定である。</p> <p>○教科書として以下を指定する。</p> <p>民法編：野村 豊弘『民事法入門』第 8 版 (弘文堂、2019 年)</p> <p>行政法編：石川 敏行ほか『はじめての行政法』第 4 版 (法律文化社、2018 年)</p> <p>○参考書としては、以下のものを勧める。本格的に学習したい場合は以下の書籍で授業に臨んで欲しい。</p> <p>民法編：米倉 明『ブレップ民法』第 5 版 (弘文堂、2018 年)</p> <p>行政法編：櫻井敬子ほか『行政法』第 6 版 (弘文堂、2019 年)</p> <p>：藤田宙靖『行政法入門』第 7 版 (有斐閣、2016 年)</p> <p>○適宜、関連条文を確認する場合があるので各自で自分が使いやすい法令集 (例えば『ポケット六法』 (有斐閣)、総務省法令データベース「e-Gov 法令検索」など) を携帯しておくこと。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を通じて、条文や判例に基づいた法解釈のやり方 (リーガルマインド) がみについているかどうか。 2. 小テストを通じて、授業で学んだ法律用語等を理解し、説明できるようになっているか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 総合点の 20% 2. 期末試験 総合点の 80% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>○1 週間に最低 1 度は、本科目に関する授業外学修 (予習・復習) の機会を設けるよう努めること。大学の授業は、原則として、週 1 コマ (2 単位) の授業の場合、1 週につき 4 時間の授業外学修を行うことを前提に設計している。そのため、本科目は週 2 コマ (4 単位) の科目であるから論理的に 1 週につき 8 時間の授業外学修が要求される。</p> <p>○講義内容に関する質問は、授業中であっても歓迎する。</p> <p>○授業中の、他の履修者の迷惑となる行為 (私語、頻繁な入退出など) や、授業の秩序を乱す行為 (携帯・スマホ使用、テレビや音楽などの視聴、睡眠、食事、化粧、他科目の内職など) と判断した時は評価の減点はもとより、場合によっては必要な指示 (退室など) を行なう。</p> <p>○上記「4. 授業形態」欄にあるように、授業は原則として、講述 (講義) の形式による。ただし、受講生の理解と意欲が十分である場合は、ディスカッションの形式を試みる回を設けることにする。</p> <p>○履修者が少ない場合には、ゼミ形式で進行させることがある。</p>			
13. オフィスアワー	授業時間中のほか、講義内容等に関する質問は、授業時限の前後の時間に受け付ける。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンスと民事法の射程について ：私法、実体法、法源	事前学習	①野村 (2019) 第 1 章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。	
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ (ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。	
第 2 回	民法 (1) 民法の意義 ：特別法、パンデクテン体系、契約自由の原則	事前学習	①野村 (2019) 第 2 章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。	
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ (ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。	
第 3 回	民法 (2) 権利と義務 ：私権、物権法定主義、権利の濫用	事前学習	①野村 (2019) 第 3 章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。	
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ (ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまと	

			めあげる。
第4回	民法(3) 法律行為 : 公序良俗、錯誤、無効と取消し	事前学習	①野村(2019)第4章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第5回	民法(4) 代理制度 : 法定代理、無権代理、表見代理	事前学習	①野村(2019)第5章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第6回	民法(5) 法人制度 : 法人、権利能力のない社団、会社の種類	事前学習	①野村(2019)第15章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第7回	民法(6) 契約 : 要物契約、同時履行の抗弁権、代替執行	事前学習	①野村(2019)第7章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第8回	民法(7) 時効制度 : 訴訟法説、時効の完成猶予、消滅時効	事前学習	①野村(2019)第6章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第9回	民法(8) 所有権 : 担保物権、物、妨害予防請求権	事前学習	①野村(2019)第8章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第10回	民法(9) 不法行為 : 不法行為の要件、保険制度、損害賠償の範囲	事前学習	①野村(2019)第9章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第11回	民法(10) 事務管理・不法利得 : 事務管理の要件、不当利得の要件、不法原因給付	事前学習	①野村(2019)第10章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第12回	民法(11) 債務の弁済 : 債務の担保、人的担保、手形・小切手	事前学習	①野村(2019)第11章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第13回	民法(12) 家族制度 : 個人主義、尊属・卑属、法定夫婦財産制	事前学習	①野村(2019)第12章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第14回	民法(13) 親子・扶養 : 嫡出子、特別養子、後見制度	事前学習	①野村(2019)第13章を通読しておく。 ②当該章のケースについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第15回	民法編の小テスト	事前学習	これまでの民法編の授業すべてについて復習を行う。
		事後学習	小テストの講評をもとにして復習しておく。

第16回	ガイダンスと行政法の射程について ：「行政法」	事前学習	○テスト後であるため、事前に教科書の該当部分を通読する必要は必ずしもない。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）と石川ほか（2018）序章を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第17回	行政法（1） 法律による行政の原理 ：法治主義、侵害留保説、行政作用	事前学習	①石川ほか（2018）第2章を通読しておく。 ②教科書の該当箇所及び六法中の関係条文等につき、調べてもなお不明点・疑問点があった場合には、それをメモとしてまとめておき、不明点・疑問点に関して特に集中して講義を聴く準備を整える。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第18回	行政法（2） 行政法の一般原則 ：適正手続の原則、証明責任の原則、比例原則	事前学習	○連続講義であり、法律による行政の原理以外の一般原則を解説するため、不要である。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第19回	行政法（3） 行政上の法主体 ：行政主体、行政機関	事前学習	①石川ほか（2018）第1章を通読しておく。 ②教科書の該当箇所及び六法中の関係条文等につき、調べてもなお不明点・疑問点があった場合には、それをメモとしてまとめておき、不明点・疑問点に関して特に集中して講義を聴く準備を整える。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第20回	行政法（5） 行政上の法律関係 ：民法177条、行政法規違反の法律行為の効力、公物	事前学習	○連続講義であり、行政上の法主体に関連して民事法等との関係を解説するため、不要である。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第21回	行政法（6） 行政行為 ：行政処分、行政指導、行政立法	事前学習	①石川ほか（2018）第3章を通読しておく。 ②教科書の該当箇所及び六法中の関係条文等につき、調べてもなお不明点・疑問点があった場合には、それをメモとしてまとめておき、不明点・疑問点に関して特に集中して講義を聴く準備を整える。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第22回	行政法（7） 行政基準 ：法規命令、行政規則、裁量基準	事前学習	○行政行為に関連して、特に行政基準を取り上げることとする。上記第3章に言及あり。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第23回	行政法（8） 行政の実効性の確保 ：間接的強制制度、代執行、即時強制	事前学習	①石川ほか（2018）第4章を通読しておく。 ②教科書の該当箇所及び六法中の関係条文等につき、調べてもなお不明点・疑問点があった場合には、それをメモとしてまとめておき、不明点・疑問点に関して特に集中して講義を聴く準備を整える。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第24回	行政法（9） 行政罰と行政指導 ：行政刑罰、秩序罰	事前学習	○行政の実効性の確保に関連して特に行政罰と行政指導を取り上げる。上記第4章に言及あり。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第25回	行政法（10） 行政上の救済手続き ：行政不服申立て、裁決と決定、行政事件訴訟	事前学習	①石川ほか（2018）第5章を通読しておく。 ②教科書の該当箇所及び六法中の関係条文等につき、調べてもなお不明点・疑問点があった場合には、それをメモとしてまとめておき、不明点・疑問点に関して特に集中して講義を聴く準備を整える。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ（ノート）・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。

第26回	行政法(11) 行政事件訴訟法の概観 : 法律上の争訟、統治行為論、取消訴訟	事前学習	○行政上の救済手続きに関連して特に行政事件訴訟法を取り上げる。上記第5章に言及あり。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第27回	行政法(12) 国家補償制度 : 公権力責任、主権無答責の法理、相互保証主義	事前学習	①石川ほか(2018)第6章を通読しておく。 ②教科書の該当箇所及び六法中の関係条文等につき、調べてもなお不明点・疑問点があった場合には、それをメモとしてまとめておき、不明点・疑問点に関して特に集中して講義を聴く準備を整える。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第28回	行政法(13) 損失補償 : 賠償と補償(国家補償の谷間)、公用制限	事前学習	○国家補償制度に関連して特に損失補償を取り上げる。上記第6章に言及あり。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。 ③取り組んだ演習問題の答案を完璧に書き直しておく。
第29回	行政法(14) 行政情報管理の法制度 : 公法と私法、情報公開制度、個人情報保護制度	事前学習	①石川ほか(2018)終章を通読しておく。 ②今日的な行政法とのかかわりについて、情報公開制度・個人情報保護制度を取り上げる予定。
		事後学習	①講義内容の不明点・疑問点を担当教員に質問し、疑問を解消する。 ②レジュメ・講義中にとったメモ(ノート)・教科書・六法中の関係条文等を参照しつつ、自分にとって最も分かりやすいノートをまとめあげる。
第30回	行政法編の小テスト	事前学習	これまでの行政法の授業すべてについて復習を行う。
		事後学習	小テストの講評をもとにして復習しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保健医療 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP1402 SPMP1302
2. 授業担当教員	小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これまでわが国の保健医療サービスは、国民皆保険制度によって支えられてきた。しかし疾病構造の変化や高齢化が進んでいる現在、わが国の保健医療サービスは再編成を迫られている。この科目では医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスの各専門職の役割、多職種連携や「病院」についての基礎的な理解を深めるとともに、保健医療サービスにおけるソーシャルワーカーの役割や、組織や地域とソーシャルワークの関連を理解する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるようになる。 2. 診療報酬の概要を理解し、説明することができるようになる。 3. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携について理解し、説明することができるようになる。 4. 医療を取り巻く現状について理解し、説明することができるようになる。 5. 病院のしくみについて理解し、説明することができるようになる。 6. 組織とソーシャルワークの関連について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 「医療ソーシャルワーカーの業務のうち一つを選び、どのような支援なのか事例を用いて2000字以上で説明しなさい。」</p> <p>ポイント：医療ソーシャルワーカーの支援の実際と留意事項を、事例を用いて理解し説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス』中央法規。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度及び診療報酬制度の概要、医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるか。 2. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携、組織とソーシャルワークの関連について説明することができるか。 <p>○評定方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業態度 (参加・実践・小テスト等) 総合点の30% 2. 期末試験・レポート等 総合点の70% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>健康に留意の上、主体的に参加されたい。</p> <p>【出欠席について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず、遅刻早退欠席する場合は、その理由を申し出る。 ・遅刻者は、授業の妨げにならないよう、静かに着席し授業に参加する。 ・原則として、出席不足を補うことはできない。 		
13. オフィスアワー	授業間の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 保健医療サービスの歴史と現状	事前学習	医療についての自己の体験をまとめる。
		事後学習	医療法改正の経緯を社会的背景と関連付けながらまとめる。
第2回	医療法の改正についての振り返り 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 保健医療サービスとその構成要素、戦後の保健医療サービスの整備・拡充	事前学習	保健医療サービスの意味について調べる。
		事後学習	ステークホルダーを中心にして保健医療の概要をまとめる。
第3回	保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割 医療法改正に見る保険医療サービスの今日的課題、医療連携 チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士	事前学習	医療法の改正から医療と福祉の関連を調べる。
		事後学習	保健医療サービスにおいて社会福祉士に求められる役割をまとめる。
第4回	保健医療サービスを提供する施設とシステム 医療法による医療施設の機能・類型、医療政策による医療施設の機能・類型 診療報酬による医療施設の基準・類型、介護施設の基準・類型、在宅支援のシステム	事前学習	医療システムについて調べる。
		事後学習	機関・施設の役割・機能をまとめる。
第5回	保健医療サービスの概要についてのまとめと考察 保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	事前学習	保健医療サービスの概要と社会福祉士の役割をまとめ、説明できるようにしておく。
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの背景についてまとめる。
第6回	保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割 ミクロのソーシャルワーク、ミクロからメゾのソーシャルワーク、メゾからマクロのソーシャルワーク	事前学習	医療ソーシャルワーカーの業務指針について理解しておく。
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの業務についてまとめる。

第7回	保健医療サービスの専門職の役割、保健医療サービス専門職の概観、基本的姿勢 保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際	事前学習	保健医療サービスに関わる専門職の役割について調べる。
		事後学習	保健医療サービスに関わる専門職の役割についてまとめる。
第8回	保健医療サービスの専門職の役割、保健医療サービス専門職の概観、基本的姿勢 インフォームドコンセントの意義と実際・倫理 医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	事前学習	インフォームドコンセントの現状について調べる。
		事後学習	インフォームドコンセントの重要性についてまとめる。
第9回	保健医療サービスに関わる専門職についてまとめと考察 保健医療サービスの提供と経済的保障 医療費に関する政策的動向、医療保険制度と診療報酬制度の概要、	事前学習	保健医療サービスに関わる専門職についてまとめ、説明出来るようにしておく。
		事後学習	政策動向についてまとめる。
第10回	保健医療サービスの提供と経済的保障 医療費に関する政策的動向、医療保険制度と診療報酬制度の概要、介護保険制度と介護報酬制度の概要、高額療養費制度の概要、ターミナルケア支援の診療報酬制度 自立支援医療、公費負担医療制度の概要	事前学習	医療保険・診療報酬制度について調べる。
		事後学習	診療報酬制度の動向についてまとめる。
第11回	保健医療サービスに関わる専門職・保健医療サービスの提供と経済的保障についてまとめと考察 保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 保健医療の専門職との連携方法と基礎知識	事前学習	保健医療サービスに関わる社会保障制度についてまとめ、説明できるようにする。
		事後学習	連携の意味についてまとめる。
第12回	保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 保健医療の専門職との連携方法と基礎知識、チームケア実現のための制度や連携機関・団体	事前学習	保健医療におけるチームワークの理論について調べる。
		事後学習	チームワークの理論とコンピテンシーについてまとめる。
第13回	保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法	事前学習	地域ネットワークの事例を調べる。
		事後学習	保健医療における地域ネットワークの構築方法についてまとめる。
第14回	保健医療サービスの連携の理論と実践（地域の社会資源との連携） 地域NSTの概念 地域ケア、ネットワークの実際	事前学習	地域ネットワークの事例を調べる。
		事後学習	授業内で考察した地域ネットワークをまとめる。
第15回	保健医療サービスにおける連携についてのまとめ ディスカッションおよび保健医療サービスの課題と展望	事前学習	保健医療サービスの課題を調べる。
		事後学習	保健医療サービスの課題についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ボランティア論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1330
2. 授業担当教員	中里 哲也		
4. 授業形態	講義 (ディスカッションを含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに見直され、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。 2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。 3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。 4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>秋季学期中に各学生の興味・関心に応じて、1 回以上のボランティア活動 (施設の日行事ボランティア等) を行い、その内容と成果について授業内で発表するとともに、レポート (報告書) を提出する。</p> <p>※レポートは、A4 で3 枚程度とする。</p> <p>※提出は、冬季休校期間明けの最初の授業時とする。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>岡本榮一 監修、守本友美、河内昌彦、立石宏昭編著『ボランティアのすすめ 基礎から実践まで』ミネルヴァ書房、2005。</p> <p>【参考書】</p> <p>三本松政之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣アルマ、2007。</p> <p>巡静一・早瀬昇編著 大阪ボランティア協会監修『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規、1997。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになったか。 2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになったか。 3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深めることができたか。 4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度 40% 課題レポート 30% 期末評価 (レポート・試験等) 30%</p> <p>※ 東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 2. 授業中は携帯電話や PHS 等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 3. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループ・ディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、主体的に取り組むこと。 4. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。 5. 学期内にボランティア活動を計画的かつ積極的に行うこと。施設ボランティアだけがボランティアではない。エコキャップや使用済み切手の収集と提供などもボランティアである。 		
13. オフィスアワー	原則としては授業の前後。但し、時間を要する場合は双方で相談し、日時や場所を決めましょう。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス (教員の自己紹介、受講生の自己紹介—ボランティア体験や関心のあるボランティアについて、授業の進め方の説明など)	事前学習	ボランティアについて自分が持っているイメージをまとめる。
		事後学習	これからやりたいボランティア活動について考え、まとめる。
第 2 回	ボランティア活動とは何か	事前学習	自分なりに、ボランティア活動とは何かを考え、まとめる。
		事後学習	学習した内容を整理し、ボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第 3 回	ボランティア活動の歴史と発展	事前学習	ボランティアの起源や歴史、発展について、調べておく。
		事後学習	ボランティア活動の歴史の変遷について、授業で学んだ要点をまとめる。
第 4 回	ボランティア活動を始めるにあたって	事前学習	ボランティア活動を始めるにあたって留意すべき点について、自分で考え、まとめる。
		事後学習	ボランティア活動を始めるにあたって留意すべき点についてまとめる。
第 5 回	現場の職員としてボランティアを受け入れる意義	事前学習	ボランティアを受け入れる立場に立って、ボランティア活動を考えてみる。
		事後学習	ボランティアを受け入れる際の実践現場のメリットやデメリットについてまとめる。

第6回	外部講師による講義&演習(予定) 災害とボランティア(「東日本大震災」等における災害ボランティア活動)の実践から学ぶ	事前学習	阪神・淡路大震災、東日本大震災について調べておく。
		事後学習	災害ボランティアについて、学んだ点についてまとめる。
第7回	地域福祉とボランティア	事前学習	自分の生活している地域において、自分ができるボランティア活動について考える。
		事後学習	地域福祉を推進していく上で、ボランティアが果たす役割や意義についてまとめる。
第8回	高齢者福祉とボランティア	事前学習	現在の日本の高齢者の状況について調べておく。
		事後学習	高齢者に関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第9回	障がい者福祉とボランティア	事前学習	ノーマライゼーションについて調べてまとめる。
		事後学習	障がい者に関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第10回	子ども家庭福祉とボランティア	事前学習	わが国の子どもと家庭を取り巻く課題について挙げる。
		事後学習	子どもに関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第11回	国際問題、及び環境問題とボランティア	事前学習	日本や世界を見渡して、どのような国際問題や環境問題があるか挙げておく。
		事後学習	環境に関わるボランティア活動について学んだ点についてまとめる。
第12回	ボランティア活動についての成果発表1	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第13回	ボランティア活動についての成果発表2	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第14回	ボランティア活動についての成果発表3	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第15回	ボランティアコーディネーターの機能と役割	事前学習	ボランティアコーディネーターについて自分なりに調べておく。
		事後学習	全15回のまとめをおこなう。
15.実務経験を有する教員 特記事項	病院において医療ソーシャルワーカーとしての実務経験の知見を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		

1. 科目名 (単位数)	薬理学概説 (薬物乱用防止を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2319 PSMP2305						
2. 授業担当教員	根岸 祥子								
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、 <ul style="list-style-type: none"> ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物 (覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど) の特徴、および薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。 								
8. 学習目標	以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の有効性と毒性 (副作用) の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。 								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物関連の最新情報 (効果、作用機序、副作用など) を調べ、レポートを提出する。提出時期は授業内で発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業時に配布) 								
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』(第 14 版) 医学書院 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知します。								
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 用量-効果相関を基に、人体と化学物質 (薬物) との相互関連について理解しているか。 2. 学校現場、家庭で使用している医薬品の作用について理解しているか。 3. 薬物乱用の概念を理解し、乱用防止策のビジョンを持てるか。 ○評定の方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート・発表</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%	2. 課題レポート・発表	30%	3. 期末試験	40%
1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%								
2. 課題レポート・発表	30%								
3. 期末試験	40%								
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 口頭発表の方法を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 								
13. オフィスアワー	初回授業で通知します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	イントロダクション)	事前学習	教科書 pp. 1~13, pp. 317~326 を読み、薬理学とは何かを考える。						
		事後学習	薬物の使用目的をまとめる。						
第 2 回	薬の効果発現 (用量-効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体)	事前学習	pp. 16~48 を読んでおく。						
		事後学習	薬物の吸収・分布・代謝・排泄についてまとめる。						
第 3 回	感染症と抗感染薬 (抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬)	事前学習	pp. 66~93 を読み、病原体の種類を理解する。						
		事後学習	抗菌薬、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。						
第 4 回	消毒薬	事前学習	pp. 298~302 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。						
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬についてまとめる。						
第 5 回	呼吸器系と薬 (気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬)	事前学習	pp. 230~234 を読み、喘息の原因と症状を理解する。						
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。						
第 6 回	鎮痛薬 (解熱鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬)	事前学習	pp. 158~188 を読み、痛みの発現機序について理解する。						
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる。						
第 7 回	炎症とアレルギー治療薬 (ステロイド性炎症薬、非ステロイド性炎症薬)	事前学習	pp. 121~134 を読み、アレルギー反応の発現機序を理解する。						
		事後学習	アレルギー反応の予防・緩和薬の作用機序、副作用をまとめる。						

第 8 回	保健室にある薬（薬理作用と使用上の注意点）	事前学習	第 1 回～第 7 回の授業内容を復習する。
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。まとめをレポート提出する。
第 9 回	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物）	事前学習	教科書 pp. 48～54 を読み、薬物使用の有益生徒危険性について理解する。
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考えを含めてまとめたレポートを提出する。
第 1 0 回	アルコール・飲酒	事前学習	事前配布資料を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく。
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第 1 1 回	ニコチン・喫煙	事前学習	事前配布資料を読み、タバコ中やタバコ煙中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第 1 2 回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する。
第 1 3 回	薬物中毒と解毒処置	事前学習	pp. 278～286 を読んで、中毒とはどういうことか理解する。
		事後学習	中毒に対する緊急処置（治療薬を含む）についてまとめる。
第 1 4 回	カフェイン・喫茶/漢方薬・サプリメント	事前学習	pp. 290～296 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	カフェインの功罪、幼児や妊婦への影響、漢方薬・サプリメントの有効性の真偽を考察する。
第 1 5 回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題について考察し、まとめる。
		事後学習	課題について発表し、ディスカッションした内容についてまとめ、レポート提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2単位)	3. 科目番号	GEHL1103
2. 授業担当教員	佐藤 友樹		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーションワークの授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。</p> <p>授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助方法を知る。 4. レクリエーションの企画・運営ができる理論・知識を身につける。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>実技発表：レクリエーション大会の運営。 課題レポート：レクリエーション大会の評価。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	必要に応じて資料を配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢(出席状況含む)を評価基準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>第1回の授業は、教室でオリエンテーションとする。 第2回から第14回までは、体育館で実技となるので運動ができる服装を準備すること。原則、ジャージで参加すること。また、体育館シューズを準備すること。 第8回の授業は、教室でレクリエーション大会に向けての準備を行う。 第15回の授業は、教室で授業の振り返りを行う。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスに目を通して本授業内容を確認する。
		事後学習	今後の学習計画を立てる。
第2回	レクリエーションの意義	事前学習	「レクリエーション」という言葉を調べる。
		事後学習	身近なレクリエーションについて考える。
第3回	アイスブレイキングの意義	事前学習	「アイスブレイキング」という言葉を調べる。
		事後学習	アイスブレイキングについて整理する。
第4回	幼児期・児童期のレクリエーション	事前学習	幼児期・児童期のレクリエーションの特性について調べる。
		事後学習	幼児期・児童期のレクリエーションの特性について整理する。
第5回	青年期・中年期のレクリエーション	事前学習	青年期・中年期のレクリエーションの特性について調べる。
		事後学習	青年期・中年期のレクリエーションの特性について整理する。
第6回	老年期・障がい者のレクリエーション	事前学習	老年期・障がい者のレクリエーションの特性について調べる。
		事後学習	老年期・障がい者のレクリエーションの特性について整理する。
第7回	チャレンジ・ザ・ゲーム	事前学習	チャレンジ・ザ・ゲームの種類を調べる。
		事後学習	実施したチャレンジ・ザ・ゲームを評価する。
第8回	レクリエーション大会を企画① ➤ 展開案の作成	事前学習	展開案作成のための資料を収集する。
		事後学習	作成した展開案をチェックする。
第9回	レクリエーション大会を企画② ➤ 予行練習	事前学習	予行練習に必要な道具等を準備する。
		事後学習	展開案の最終チェックをする。
第10回	レクリエーション大会① ➤ 1日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。

第11回	レクリエーション大会② ➤ 2日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。
第12回	レクリエーション大会③ ➤ 3日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。
第13回	レクリエーション大会④ ➤ 4日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。
第14回	レクリエーション大会⑤ ➤ 5日目	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の評価をする。
第15回	まとめ（授業の振り返り）	事前学習	これまでの授業内容を振り返る。
		事後学習	これまでの授業内容を整理する。

1. 科目名 (単位数)	労働法 (労働基準法) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3338 SCMP3338 SBMP3338 PSMP3309
2. 授業担当教員	平 仁		5. 開講学期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・他科目との関係	労働安全衛生法、社会保障論 (労災保険)		
7. 講義概要	<p>20 世紀末以降労働関係法令は新しいものがいくつも制定され、かつ既存法も大幅に内容が改正されてきた。そこには、社会における新しい雇用形態や労働条件の変化が大きく影響している。本科目では、労働基準法の基本構造を学ぶとともに、新たに制定された労働契約法や男女雇用機会均等法のほか、パートタイム労働法や派遣労働法も対象領域とする。ただし、学習負担の面から基本事項に限定して講義する。発展部分は実社会に出てから各自で応用学習してもらいたい。</p> <p>なお、労働組合活動の退潮もあり、労働組合活動を対象とした集団的労働関係法は扱わない。講義は教科書に沿って進行する。随時、テーマを設定してディスカッションを行い、自宅学習で議論の集約、文章化の訓練を行う。最終授業では、実際の試験問題を用いた基礎知識修得状況の検証を行う。</p>		
8. 学習目標	<p>就職とは基本的に勤め先との間で労働契約を交わすことである。雇用労働者は、内定、使用期間、処遇、人事異動、出向、昇格・昇進、懲戒処分、労災事故、退職 (解雇) など様々な事態に遭遇することになる。本科目の履修者は、労働基準法等においてどのように規定されているか、また労働基準監督署や裁判所ではどのように判断されているかの知識を習得しているので、適切に対処することができる。</p> <p>勤務経験を積むことにより、勤務先で管理監督者 (使用者) の地位を与えられることになるが、本科目内容を履修することで労働法令の基礎理論や先例を理解でき、職場内の労働紛争を回避することができる。アルバイトなどの学生生活においても、労働基準法等がどのように適用されるかを検証し、労働法を身近なものとして生かすことができる。</p> <p>いわゆるブラック企業のやり口を見極める基礎能力を身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 各回の授業に際しては、下記の論点事項について教科書の十分な読み込み学習がされていることを前提に講義を進める。(1 回の授業に関して 4 時間の事前または事後学習が必要とされている。) なお、事前学習に際しては、マスコミ報道のうち労働問題に関連するものに注目し、現実社会で労働法がどのように作用しているかを検証する点検しておくことを求める。 毎回の授業の中でディスカッションを組み込む。積極的な発言、討論を必須とする。無言者、無反応者は早退したものとみなすことがある。 学期を通じて使用する学習カード (初回に配布) に、毎回の授業で学んだことなどを記述して提出しなければならない (最終週を除く)。学習カードは次回授業時に返却する。 学期内に 1 回、テーマを指定してのレポート作成提出 (自筆 1800 字程度) を求める。 適宜、希望学生による研究成果発表を予定する。この場合、学生は発表用資料を事前準備する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】原昌登『コンパクト労働法』新生社。 【参考書】今野晴貴『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』文春新書。 東京福祉大学編『就職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 六法書 労働基準法、労働契約法等労働法令を含むもの (各自インターネットで抽出)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 8 の学習目標の達成度を基準に成績評価を行う。</p> <p>○評定の方法 1. 論述力の確認。期末試験、課題レポート、予復習提出分などで評価。50% 2. 発表力。課題レポート内容の発表、授業中の発言の積極性などで評価。50% 上記 1 および 2 を総合判断して行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 労働法 (労働基準法) は範囲が広く、制度改正も頻繁であるため、細かな制度内容よりも、全体を貫く理念は何かを常に念頭において講義に参加すること。 授業中の質問は歓迎。各自相談することを指示した場合以外の私語は厳禁。 		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	労働法とは何か 労働法の存在理由 労働法により介入の仕組み 法学の基礎知識 労働法のルール	事前学習	教科書第 1 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 2 回	雇用関係における様々な法ルール 労働基準法 労使協定 労働契約法 労働協約 就業規則 労働契約	事前学習	教科書第 2 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 3 回	労働法の当事者 労働者とは 労基法、労契法、労組法 使用者 労働組合	事前学習	教科書第 3 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 4 回	労働者の採用について 使用者の採用自由の原則とは 採用内定の法的性質 使用期間とは	事前学習	教科書第 4 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。

第5回	企業の人事権と権利濫用法理の適用 昇進・昇格・降格について 配転とは何か 出向（在籍） 転籍 休職	事前学習	教科書第5章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第6回	使用者の懲戒権 懲戒処分とは 懲戒処分の法規制 懲戒処分のポイント	事前学習	教科書第6章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第7回	労使関係の終了 解雇の法的問題 労働契約終了事由 解雇に関する法規制 手続・理由 解雇権濫用法理 整理解雇のルール 解雇紛争の解決 定年制 高齢者雇用確保措置	事前学習	教科書第7章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第8回	賃金について 賃金とは何か 賞与・退職金の法律問題 賃金支払いの4原則 休業手当とは 最低賃金	事前学習	教科書第8章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第9回	労働時間の基本 労働時間規制の基本的枠組み 法定労働時間 休憩時間 休日 時間外・休日労働 三六協定 割増賃金	事前学習	教科書第9章（9.1から9.3まででよい）を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第10回	休憩・休業 年次有給休暇 年休権の法的性質 休業制度 労基法、育児・介護休業法	事前学習	教科書第10章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第11回	労働条件の変更 就業規則の不利益変更の法ルール 労働協約による労働条件不利益変更	事前学習	教科書第11章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第12回	非正規労働者と労働法 非正規雇用とは 有期契約と雇止め 無期契約への転換制度導入 パートタイム労働者（短時間労働者）と労働法 派遣労働の法ルール 偽装請負とは	事前学習	教科書第12章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第13回	労働者の健康・労働災害 職場における安全衛生 労安法 労働災害補償 労災保険 民事上の損害賠償 労働時間規制の例外措置 法規制の適用除外 変形労働時間制とフレックスタイム制 みなし労働時間制	事前学習	教科書第13章を熟読。疑問点を整理しておく。 教科書第9章のうち9.4と9.5を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第14回	労基法の総則部分 労働者の人権保障・雇用差別禁止 労働者の人権保障規定 平等原則 男女雇用機会均等法 各種ハラスメントの法的責任	事前学習	教科書第14章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第15回	企業組織の変動と労働関係 企業合併の場合 事業譲渡の場合 会社分割の場合 社福士（精神保健福祉士）試験と労働法 過去の出題事例の検討	事前学習	教科書第15章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	15回の授業で学んだことの総復習をする。
期末試験			